

2020年度
自己点検・評価報告書

目次

I. 大学運営	
・危機管理委員会	1
・大学評価委員会	3
II. 常置委員会	
・入学試験・広報委員会（入試）	5
・入学試験・広報委員会（広報）	6
・自己点検・評価委員会	9
・人権擁護委員会	11
・研究倫理委員会	26
・教務委員会	27
・学生委員会	37
・FD委員会	41
・キャリア開発委員会	69
・図書・紀要委員会	80
・国際交流委員会	92
・情報ネットワーク委員会	94
・地域連携委員会	98
・教職課程委員会	102
III. その他	
・看護学科実習運営部会	104
・栄養学科実習運営部会	109
・看護学科カリキュラム専門部会	111
・栄養学科カリキュラム専門部会	113
・看護学科学年担任（1年次）	115
・看護学科学年担任（2年次）	118
・看護学科学年担任（3年次）	120
・栄養学科学年担任（1年次）	122
・栄養学科学年担任（2年次）	123
・栄養学科学年担任（3年次）	124
・栄養学科学年担任（4年次）	126
・事務局	128
・連携協定推進プロジェクト	131
・ホームページ部会	133
・カリキュラム検討委員会	136
・公的研究費等不正防止委員会	139

－ 巻 頭 言 －

2020 年度自己点検・評価報告書をここに発刊させていただきます。

本報告書は、昨年同様の大学運営に関わる 2 委員会（危機管理委員会、大学評価委員会）、常設委員会として入学試験・広報委員会など 14 委員会に、その他として栄養学科が開設 4 年目を迎えたことにもなう栄養学科学年担任、さらに公的研究費等不正防止委員会の 2 部署が加わり、合計 32 に及ぶ委員会等の点検・評価報告を受けてまとめたものです。今後の外部認証評価受審に備え、経年変化を容易に把握できるように、各委員会等に対して基礎データの提出、報告書の内容への記載をお願いした点は昨年を踏襲しております。

コロナ禍対応で平年とは異なる業務負担を強いられた 2020 年度でしたが、本報告書作成に快くご協力いただきました各委員会等の教職員各位、膨大なまとめ作業にご尽力いただきました自己点検・評価委員会委員の皆様にご心からお礼申し上げます。

本報告書の内容が教職員の皆様に共有され、PPDCA サイクルが円滑に回ることで本学がさらに進化する、その一助となることを切に願いつつ、巻頭言とさせていただきます。

2020 年度自己点検・評価委員会
委員長 荒川 義人

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	危機管理委員会
作成者	小林 清一

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新型コロナウイルス感染症への対応を効率的に行うため、委員会開催を定例化するとともに、情勢変化に即応した臨時委員会も開催する。 2) 危機管理委員会からの情報提供方法や情報内容を充実させる。 3) 全学的な緊急課題については関係委員会等と緊密な連携強化を図り、情報共有を徹底する。 4) インフルエンザ予防接種、冬期間での通学路の安全確保、備蓄物の補充と新規整備については継続的に実施する。 5) 危機管理マニュアルの見直しや新規追加などを検討してマニュアルを改訂する。

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新型コロナウイルス感染症への対応を効率的に行うため、委員会開催を定例化するとともに、情勢変化に即応した臨時委員会も開催する。 2) 危機管理委員会からの情報提供方法や情報内容を充実させる。 3) 全学的な緊急課題については関係委員会等と緊密な連携強化を図り、情報共有を徹底する。 4) インフルエンザ予防接種、冬期間での通学路の安全確保、備蓄物の補充と新規整備については継続的に実施する。 5) 危機管理マニュアルの見直しや新規追加などを検討してマニュアルを改訂する。
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」）への対応として、委員会を毎週又は隔週にて定例開催すると共に、必要に応じて臨時で開催した（全 40 回開催）。 2) 危機管理委員会での審議状況や決定事項については、毎回危機管理レポートとして全教職員へ迅速に情報提供を行った（全 41 回）。また、第 33 回以降の委員会については定例教授会において委員会報告を行った。また、学生への注意喚起、保護者への説明、感染者の発生状況等を委員会よりメール配信またはホームページ上にて公表した（全 34 件）。 3) 毎回の審議案件に「各委員会等からの確認事項について」を設け、各委員会、学科、事務課などからの「感染症」に関連する危機管理事項を委員会にて審議・確認した。 4) インフルエンザ予防接種を全学年において学内で実施した（実施率 95.8%）。冬期間における通学路の除排雪については、今年度も通学路の安全確保のために札幌市へ積極的に除排雪の依頼を行った。実際には、市が実施する除排雪を主として、大学がこれを補完する形で 2 回の排雪を行った。備蓄物の補充については年度整備計画に基づき、発電機 1 基、軍手、マスクを購入した。 5) 大地震対策及び危機管理マニュアル改訂に対する活動は今年度も実施できなかった。危機管理マニュアルとは別に、「感染症」に特化した「新型コロナウイルス（COVID-19）感染防止に向けた対応 別冊」及び「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」を作成し、適宜、改訂を行って、学生及び教職員へ周知すると共に、ホームページにて公表した。

<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 危機管理委員会の開催を定例化して、「感染症」対策を迅速かつ適切に主導し、それを学生及び教職員の感染防止行動に結び付けることにより、クラスター発生を伴わない感染者の散発例に抑制できたことは大いに評価できる。 2) 危機管理レポートという形式で北海道や札幌市の最新感染状況について情報発信し、また、委員会での審議状況や決定事項を迅速に全教職員に周知できたことは高く評価できる。 3) 各組織単位での「感染症」に関連する危機管理事項を危機管理委員会にて審議・確認できたことは、各組織活動への質保証を付与するものとして評価できる。 4) 危機管理委員会の助言によりインフルエンザ予防接種をすべて大学内での実施へと変更したことにより、昨年度の接種率(88.4%)から今年度は大幅に向上して95.8%となったことは大いに評価できる。 通学路の安全確保のために、市による除排雪に加えて本学独自の排雪を2回実施したことは評価できる。 年次計画に沿った備蓄物の補充と共に、感染症対策に必要な備蓄物を購入できたことは評価できる。 5) 大地震対策及び危機管理マニュアル改訂に対する活動は今年度も実施できなかったのは、「感染症」対策が1年間を通して最優先課題とせざるを得ない状況が継続していたことが大きな要因として挙げられる。 「新型コロナウイルス(COVID-19)感染防止に向けた対応 別冊」及び「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」の作成と適宜の改訂により「感染症」対策の統一化が図られたことは評価できる。
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新型コロナウイルス感染症への対応を迅速かつ効率的に行うために、委員会の定例開催を継続するが、感染状況により開催間隔は柔軟に対応する。 2) 危機管理委員会からの危機管理レポートによる情報発信は継続とするが、これと併行して教授会での委員会報告も実施する。 3) 全学的な緊急課題については各組織との緊密な連携強化を図り、危機委員会での審議と確認を経て情報共有と対応の統一化を徹底する。 4) インフルエンザ予防接種の完全実施、冬期間での通学路の安全確保、備蓄物の補充と新規整備については継続的に実施する。また、新型コロナウイルスワクチンが供給可能となれば、接種を積極的に推進する。 5) 2018年の北海道胆振東部地震を風化させないために、大地震対策及び危機管理マニュアルの見直しや新規追加などを検討してマニュアルを改訂する。

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	大学評価委員会
作成者	小林 清一

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学評価委員会の IR 機能を継続的に実行するための情報収集項目及び分析項目を設定して実施する。 2) 両学科の各入学試験方法における受験者・試験結果データを過年度も含めて分析・検証し、入学定員確保への更なる改善策を検討する。 3) 大学内部質保証の実質化、特に教学マネジメントの機能性改善に向けた取り組みを実施する。

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 両学科のカリキュラム改正案について精査・評価する。 2) 大学評価委員会の IR 機能を継続的に実行するための基本的な情報収集項目を設定し、実施可能な項目には IR を実施する。 3) 両学科の過年度における各入学試験結果について IR を実施し、入学定員確保への改善策検討への基礎データを構築する。 4) 大学内部質保証の実質化、特に教学マネジメントの機能性改善に向けた取り組みを実施する。
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養学科の教育目標、カリキュラム改正案とそれに伴う卒業要件、GAP 制、進級要件・臨地実習への先修条件、科目配置表、3 コース制導入、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーなど、2021 年度からの改正カリキュラム実施に向けての最終案並びに修正案がカリキュラム検討委員会より提示され、審議・了承した。 また、2022 年度からの看護学科新カリキュラムについても、栄養学科と同様の検討事項並びに進捗状況がカリキュラム検討委員会より提示・説明されたが、本委員会からは臨地実習期間と配置時期、新科目の意義や配置時期、選択科目増加への財政的懸念、履修者数による選択科目開講制限などについて多くの意見が付されたことや臨地実習先の新規開拓の必要性等から、文部科学省への変更承認申請時期の見直しを行った。 2) 大学評価委員会の IR 機能を発揮するための基本的な情報、すなわち各組織単位での 2019 年度自己点検・評価報告書と共に新たに日本高等教育機構が定めた様式のデータ集が自己点検・評価委員会より提出され、過年度との比較、新たな取り組み等について説明があった。本報告書については全教職員への冊子体配付、図書館への配架、本学ホームページでの公表を決定した。 また、2021 年度実施予定の学生満足度調査の質問項目を審議・設定する予定であったが、学生委員会での原案作成を待って、次年度へ先送りとなった。 3) 両学科の 2015～2019 年度における入学試験結果についての包括的基礎データは集積されたが、看護学科については 2 サイクル終了後、また、栄養学科については完成年度終了後の入学試験結果のデータも併せて評価することとし、2020 年度での IR 実施には至らなかった。 4) 教育の組織的取組としての教学マネジメントを確立するために、大学評価に繋がるカリキュラム改正とその関連案件については、必ず大学評価委員会にて審議・評価・再検討要請などを行った (9 回実施)。

<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 及び4) 両学科のカリキュラム改正と実施に向けて、大学評価委員会が組織として教学マネジメントの一翼を担ったことは評価できる。但し、看護学科のカリキュラム改正案が当初予定していた年度内に終了できず、次年度へ繰り越され、文部科学省への申請時期が5月から7月へ変更となったことについては、早期から大学評価委員会のより積極的な関与が必要であったと考えられる。</p> <p>2) 及び3) 自己点検・評価報告書及びデータ集に基づく IR の未実施はマイナス評価である。特に、栄養学科の入学定員未充足については機関別認証評価においても在籍学生数が入学定員の合計の 0.5 倍未満であるため改善を要する点として指摘され、また、2020 年 3 月の設置計画履行状況等調査においても入学定員未充足が指摘事項(改善)となっていることから、入学試験方法毎の分析・検証が必要である。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 看護学科のカリキュラム改正案及びそれに付随する事案について迅速に精査・評価するために大学評価委員会開催を定例化し、文部科学省への変更承認申請を遅くとも7月迄に行う。</p> <p>2) 2018 年度に実施した機関別認証評価での改善を要する点についての改善報告書を7月迄に日本高等教育評価機構へ提出する。</p> <p>3) 次期機関別認証評価に向けた大学評価活動を具体的に計画する。</p> <p>4) 本学志願者及び入学者の動向調査(IR)を実施する。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	入学試験・広報委員会 (入試)
作成者	荒川 義人

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 予定されている入試を滞りなく実施し学生の確保に努める。 2) 合否判定のためのデータの集積と活用。 3) 入学者確保につながる入試日程と選抜方法の検討。 4) 引き続き指定校の見直しを図る。 5) 新入試体制（一般前期）の実施と評価。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 予定されている入試を滞りなく実施し学生の確保に努める。 2) 合否判定のためのデータの集積と活用。 3) 入学者確保につながる入試日程と選抜方法の検討。 4) 引き続き指定校の見直しを図る。 5) 新入試体制（一般前期）の実施と評価。
活 動 内 容 (Do)	1) 今年度から WEB 出願システムを導入し、受験生への周知などの徹底に努めた。 2) 入学者の追跡調査を実施し、2022 年度に看護学科で総合型選抜入試導入の基礎資料とした。 3) 指定校入試において事前課題を設定し、入試当日の小論文試験を廃止した。 4) 看護学科において入学者実績を基に指定校の見直しを図った。 5) 一般選抜前期において A 日程・B 日程を設定した。
活動内容の評価 (Check)	1) WEB 出願システムの導入により、省力化が図られ受験者への連絡等も遅延することなく円滑に実施できた。 2) 入学者の追跡調査を行うことで、総合型選抜を導入する根拠を理論的に説明できた。 3) 事前課題の設定により、両学科への理解を深める学修成果が期待できた。また、次年度より看護学科においても総合型選抜入試（定員 5 名）を導入することを決めることが出来た。 4) 看護学科の指定校見直しにより出願者 34 名と昨年と比べ 20 名の増加を果たすことができ、入学者確保に貢献できた。 5) 2 日間の実施によって志願者数の増加にはつながったが、実志願者の増加にはあまり繋がらなかった。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	1) 予定されている入試を滞りなく実施し、入学生の確保に努める。 2) 合否判定のためのデータを集積し、活用する。 3) 入学者確保につながる入試日程と選抜方法を検討する。 4) 継続的に、指定校の見直しを図る。 5) 新入学試験体制（一般選抜入学試験前期・看護学科総合型選抜）を滞りなく実施し、評価する。

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	入学試験・広報委員会 (広報)
作成者	荒川 義人

項 目	内 容
<p>【前年度】</p> <p>次年度への課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 各活動に関する次年度の課題・改善方策は以下のとおりである。</p> <p>(1) 高校訪問：指定校（青森を含む）・入学実績校を中心に 150 校程度と幅広く実施する。</p> <p>(2) 進学説明会：昨年同様、校内ガイダンスに主軸を置き直接接触の機会を確保し、オープンキャンパスへの誘導を図る。また、可能な場合は教員にも担当してもらい、詳しい教育内容などを直接、伝える機会も増やしていく。</p> <p>(3) 出張講義・大学見学：今年度同様、依頼される日時と担当教員について、高校側と調整を図りながら実施し、看護・栄養への興味関心を高めてもらい、本学の受験に結びつくよう努める。また、昨年実施した北海学園札幌高校との企画を継続するとともに、本学に入学実績の多い私立高校にもこの企画を広め、安定的な志願者確保を図る。</p> <p>(4) オープンキャンパス：看護学科 5 回、栄養学科 7 回を予定。ボランティア学生の育成とシステム作りを行う。各学科のスケジュールの柔軟な対応により、魅力を PR できるようにする。その他、栄養学科では 8 月に総合型選抜の志願者増を狙ったイベントを実施する。内容、在学生スタッフとともに精度を高め出願歩留率の向上を図る。</p> <p>(5) 大学案内作成：看護栄養両学科合冊で作成。両学科の教職員からの意見も取り入れる。また、栄養学科の認知を高めるためにサブパンフレットを作成し、年度途中で使用する。</p> <p>(6) メディアによる広報活動：ホームページの充実を図る。特に栄養学科での活動（農場・レバンガ北海道との連携）を広報し、知名度をあげていく。ツイッター、インスタグラム等も活用し、新しい情報を発信できるようにする。印刷物では、可能な限りレバンガ北海道の選手を起用する。活動は、費用対効果を検討し効果的に実施する。</p> <p>2) 広報誌「WILL」第 8 号を発行する。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 次の募集活動の充実に努め志願者確保にあたる。</p> <p>(1) 高校訪問：指定校（青森を含む）・入学実績校を中心に 150 校程度と幅広く実施する。</p> <p>(2) 進学説明会：昨年同様、校内ガイダンスに主軸を置き直接接触の機会を確保し、オープンキャンパスへの誘導を図る。</p> <p>(3) 出張講義・大学見学：今年度同様、依頼される日時と担当教員について、高校側と調整を図りながら実施し、看護・栄養への興味関心を高めてもらい、本学の受験に結びつくよう努める。また、昨年実施した北海学園札幌高校との企画を継続するとともに、本学に入学実績の多い私立高校にもこの企画を広め、安定的な志願者確保を図る。</p> <p>(4) オープンキャンパス：看護学科 5 回、栄養学科 7 回を予定。ボランティア学生の育成とシステム作りを行う。各学科のスケジュールの柔軟な対応により、魅力を PR できるようにする。その他、栄養学科では 8 月に総合型選抜の志願者増を狙ったイベントを実施する。内容、</p>

	<p>在学生スタッフとともに精度を高め第一志願者率の増加を図る。</p> <p>(5) 大学案内作成：看護栄養両学科合冊で作成。両学科の教職員からの意見も取り入れる。</p> <p>(6) メディアによる広報活動：ホームページの充実を図る。特に栄養学科での活動（農場・レバンガ北海道との連携）を広報し、知名度をあげていく。ツイッター、インスタグラム等も活用し、新しい情報を発信できるようにする。活動は、費用対効果を検討し効果的に実施する。</p> <p>2) 広報誌「WILL」第8号を発行する。</p>
<p>活動内容 (Do)</p>	<p>1) 次の募集活動を行った。</p> <p>(1) 高校訪問 6～7月に129校を訪問し、進路相談担当教諭と懇談し、本学への出願を依頼するとともに、訪問校の受験の現状等について情報を得た。</p> <p>(2) 進学説明会（進学相談会・校内ガイダンス） 進学相談会に59回、13校の校内ガイダンスに参加し、来場者の質問に回答するとともに本学の特徴をアピールした。同時に大学案内の配布およびオープンキャンパスへの誘導をした。</p> <p>(3) 出張講義 11校から本学の校内見学および大学説明・模擬講義等を依頼され実施した。模擬講義または学校見学の内訳は看護5件、栄養6件である。</p> <p>(4) オープンキャンパス 看護学科は、6月、8月(2回)、10月、3月の計5回、栄養学科はこれに加えて、7月、8月の計7回実施した。内容は、本学の紹介、体験演習、校内案内、在学生との交流、個別相談、保護者説明会、学生会館の見学（希望者）で、10月は小論文試験対策を加えている。また、本学で栄養学科が企画し行っている「100円朝食メニュー」、「玉ねぎおかき」の紹介など本学の特徴を伝えた。年間を通して在学生スタッフが大学生生活について紹介した。</p> <p>(5) 大学案内作成 昨年同様、新パンフレット作成に向け、内容等を検討した。</p> <p>(6) メディアによる広報活動 昨年、純広告から資料請求に繋がる進学媒体等へシフトしたのに加え、高校のキャリア教育に繋がるような企画にも参画した。</p> <p>2) 広報誌「WILL」第7号を2020年8月に発行した。また、第8号の発行に向けての準備を行った。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 各活動の評価は以下のとおりである。</p> <p>(1) 高校訪問 2020年度は入学実績校、指定校を中心に129校訪問した。高校との信頼関係を維持、継続することに結びついた。</p> <p>(2) 進学説明会 進学説明会は、新型コロナウイルス感染症の影響で前半は大半が中止になったが、秋以降、新規の相談会などへ積極的に参加した。直接的に高校生とコミュニケーションを取り、参加者の知りたい情報を提供するとともに本学の魅力を伝えることができた。また栄養学科の説明を希望する生徒も増加傾向である。 高校生面談実績は昨年度1,170名から752名大幅に減少した。これは年度前半の相談会中止が大きく響いたと推察した。</p> <p>(3) 出前講義・学校見学 出前講義の件数は、昨年より10件少なかった。</p> <p>(4) オープンキャンパス 看護学科の参加者は310名で昨年より55名の減少、栄養学科の参加者は174名で昨年より76名減少した。それでも内容の充実や在学生スタッフの活躍により第一志望者率は昨年以上であった。</p>

	<p>(5) 大学案内作成 文字情報を減らし、高校生の知りたい情報を厳選し視覚的に理解できるように工夫した。栄養学科も完成年度を迎え、就職実績や3コース制導入などをアピールできる内容となった。</p> <p>(6) メディアによる広報活動 Instagramの活用が大変効果的であったと考える。高校生から多くの「いいね」をもらうことが出来、高校生からInstagram見えていますという言葉も得られた。在学生や教職員も共感の出来る内容を目指すことで高校生も本学に対し親近感を持つようになったと実感している。</p> <p>2) 広報誌「WILL」第8号での内容を工夫し、コロナ禍でも大学の教育活動をしっかりと行っていることを紹介できた。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 各活動に関する次年度の課題・改善方策は以下のとおりである。</p> <p>(1) 高校訪問 指定校（青森を含む）・入学実績校を中心に150校程度と幅広く実施する。</p> <p>(2) 進学説明会 昨年同様、校内ガイダンスに主軸を置き、直接接する機会を確保してオープンキャンパスへの誘導を図る。また、可能な場合は教員にも担当してもらい、詳しい教育内容などを直接、伝える機会を増やしていく。</p> <p>(3) 出張講義・大学見学 今年度同様、依頼される日時と担当教員について、高校側と調整を図りながら実施し、看護・栄養への興味関心を高めてもらい、本学の受験に結びつくよう努める。また、昨年実施した北海学園札幌高校との企画を継続するとともに、本学に入学実績の多い私立高校にもこの企画を広げ、安定的な志願者確保を図る。</p> <p>(4) オープンキャンパス 看護学科7回、栄養学科7回を予定。ボランティア学生の育成とシステム作りを行う。各学科のスケジュールの柔軟な対応により、魅力をPRできるようにする。その他8月に総合型選抜の志願者増を狙ったイベントを実施する。 内容、在学生スタッフとともに精度を高め、第一志願者率の向上を図る。</p> <p>(5) 大学案内作成 両学科合冊で作成。教職員からの意見も取り入れる。在学生をたくさん紹介できる内容にする。</p> <p>(6) メディアによる広報活動 Instagramの活用を推し進め本学のファンを獲得することに努める。</p> <p>2) 広報誌「WILL」第9号を発行する。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	自己点検・評価委員会
作成者	荒川 義人

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 自己点検・評価報告書（委員会等活動報告書）の作成におけるコメントーターに対するコメントの視点等の明確化と共有化を図る。 2) 大学認証評価につながるように、可能な限りデータに基づく活動報告書の作成、そのデータの整理、提出を促す。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 自己点検・評価報告書（委員会等活動報告書）、データ集の作成および公表を行う。作成をする際には、コメントーターに対するコメントの視点等の明確化と共有化を図り、大学認証評価につながるよう可能な限りデータに基づく委員会等活動報告書の作成、そのデータの整理、提出を促す。 2) 教員教育研究等業績評価票のデータ収集・管理および評価項目・配点表の見直しを行う。 3) 2020 年 4 月 1 日現在の教員業績調書のデータ集約・管理（ホームページ公開用）を行う。
活 動 内 容 (Do)	1) 自己点検・評価報告書（委員会等活動報告書）の作成 2019 年度自己点検・評価報告書の作成スケジュールにより、各委員会委員長等から提出された委員会等活動報告書の内容に対する自己点検・評価委員の評価コメントに基づく追加修正等を経て報告書を作成し、6 月の運営会議および定例教授会に提出した。報告書は、例年のとおり 6 月末に本学ホームページ上に公開、冊子体として図書館に配架するとともに各教職員に配付した。 2020 年度報告書作成については、スケジュールを策定し、各委員会委員長等に年度末までに可能な限りデータに基づく委員会等活動報告書の作成、提出の依頼を行った。併せて事務局へ経年比較を行うための年度別教職員数、学生数、入学者数等のデータ集の作成、提出を依頼した。提出された委員会等活動報告書の内容に対するコメントーターを自己点検・評価委員が担うにあたり、評価の視点を明確にして共有化を図った。 2) 教員教育研究等業績評価の実施 2019 年度分は、在籍専任教員 49 名のうち退職者 1 名を除く 48 名に対し評価を実施した（実施率 98%）。結果の通知については、学科別、職位別、大評価項目別等の平均点を共有フォルダに公開し、順位は希望者のみに通知した。 2020 年度分については、評価項目の見直しを例年どおり教員から意見聴取するとともに、委員会においても見直しを行い、教員へ作成を依頼した。見直し項目としては、学会・研究会参加に Web・誌上参加を含めることとした。また、授業担当科目については、新型コロナウイルス感染症の影響により本来、学外における臨地実習の内容を学内に置き換えた授業科目は「学外実習指導」とした。 3) 2020 年 4 月 1 日現在の教員業績調書のデータ集約については、実施率 100%を達成し、大学ホームページで公開している。

<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 自己点検・評価報告書(委員会等活動報告書)の作成については、作成スケジュールのとおり2019年度分を作成し、大学機関別認証評価の「基準6 内部質保証」の一資料とすることができたこと、および2020年度分については、大学認証評価につながるよう可能な限りデータに基づく委員会等活動報告書の作成、提出の依頼を行い、委員会等活動報告書のコメントに対する評価の視点を明確にして共有化を図ったことは評価できる。</p> <p>2) 教育研究等業績評価の実施については、2019年度分は退職者へのフォローが十分ではなかったため実施率が98%となった。次年度に向けては退職者へのフォローを十分に行い100%とすることが望まれる。</p> <p>3) 2020年4月1日現在の教員業績調書のデータ集約については、実施率100%を達成し、大学ホームページで公開したことは評価できる。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 教育研究等業績評価の実施において、退職者のフォローを十分に行い、実施率100%を目指す。</p> <p>2) 自己点検評価報告書の作成については、引き続き大学認証評価につながるようデータに基づいた内容となるように努める。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	人権擁護委員会
作成者	坂本 恵

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) ハラスメント事案への対応 (1) ハラスメント申立てが発生した場合は、規程規則に従った対応を適切にする。 (2) 制度の整備、必要に応じた規程の修正を検討する。 (3) ハラスメント調査により実態を把握するとともに改善策を検討する。 (4) 個々の担当者の能力向上に向けて研修会への参加を検討する。</p> <p>2) ハラスメントを防止するための活動 (1) 学生へのハラスメント啓発活動 ① ハラスメントガイドラインを学生に配布する。 ② 新入生・編入生に対するハラスメント防止の教育活動として外部講師による講演会を実施する。 ③ 学生ガイダンスでの啓発活動を実施する。</p> <p> (2) 教職員に対する啓発活動 ① ハラスメントガイドラインを教職員、非常勤講師および非常勤指導員に配布する。 ② 新任教職員に対するオリエンテーションを実施する。 ③ 教職員への外部講師による研修会を実施する。 ④ ハラスメント相談員との懇談会を実施する。</p> <p> (3) ハラスメント防止キャンペーンを継続して行う。 (4) 目安箱の活用と相談の勧めなどを今以上に行い、ハラスメントの早期把握と解決の活動に繋げる。 (5) 人権擁護委員会の活動について説明し、相談されれば、相談者の立場になって解決に向けて動くことをしっかりと示していく。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) ハラスメント事案への対応 (1) ハラスメント申立てに基づく案件に適切に対応する。 (2) 必要に応じて規程の修正を行い制度の整備に努める。 (3) ハラスメント調査により実態を把握するとともに改善策を検討する。 (4) 個々の担当者の能力向上に向けて研修会への参加を促す。</p> <p>2) ハラスメントを防止するための活動 (1) 学生への啓発活動 ① ハラスメントガイドラインを新入生、編入生に配布する。 ② 新入生・編入生に対するハラスメント防止の教育活動として外部講師による講演会を実施する。 ③ ガイダンスを通じてハラスメント防止に向けての啓発活動を行う。</p> <p> (2) 教職員に対する啓発活動 ① ハラスメントガイドラインを新任教職員、非常勤講師および非常勤指導員に配布する。 ② 新任教職員に対するオリエンテーションを実施する。 ③ 教職員への外部講師による研修会を実施する。 ④ ハラスメント相談員との懇談会を実施する。</p>

	<p>(3)ハラスメント防止キャンペーンを継続して行う。</p> <p>(4)目安箱の活用と相談の勧めなどを行い、ハラスメントの早期把握と解決に向けた活動に繋げる。</p> <p>(5)人権擁護委員会の活動について説明し、相談者の立場になって解決に向けて動くことをしっかりと示していくこととする。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1)ハラスメント事案への対応</p> <p>(1)今年度ハラスメント申立てはなかったが、ハラスメントの相談件数は2021年3月15日時点で1件あり、次年度への継続案件である。 目安箱への投書は2021年3月15日時点で3件あった。2件は看護学科学生で1件は不明である。2件については内容に基づき該当学科の所属教員に対し投書内容の共有と注意喚起を依頼した。1件については図書館の利用に関する内容であったため、関係担当部署に報告し対応を依頼した。また、学生に対しては対面授業で登校した際に学科および学年毎に委員会から同様の事案が生じないように注意喚起を行った。</p> <p>(2)2019年度に改正されたこともあり、本年度については規程の改正はなかった。</p> <p>(3)学生および教職員を対象としたハラスメントに関する調査を2020年9月30日(水)～11月20日(金)に実施した。回答率については、学生が昨年度の9.7%から45.4%と増加し、教職員が昨年度71.4%から55.6%と減少した。自由記述の回答の中で対応を急いだほうが良いと判断した内容については該当学科に対し所属教員に回答内容の周知と注意喚起を依頼した。調査終了後、調査結果報告書を作成し、学生、教職員が自由に閲覧できるよう図書館で公開した。</p> <p>(4)コロナ禍もあり研修会への参加はできなかつたため、今年度は個々の担当者が自己研鑽に努めることとした。</p> <p>2)ハラスメントを防止するための活動</p> <p>(1)学生に対する啓発活動</p> <p>①4月に行われた新入生、編入生対象のガイダンス時にハラスメントガイドラインを配布し説明を行った。</p> <p>②2020年4月8日(水)にハラスメント防止の教育活動として「充実した学生生活を送るためには」をテーマに、屋嘉比瑞穂先生を講師として新入生・編入生に対する講演会を実施した。学生の93%が参加し、参加者の91%がアンケートに回答した。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症の影響で在学生に対するガイダンス時間が短縮されたため、目安箱の利用とハラスメントアンケートの協力などについての配布資料を作成し全学年に配布した。</p> <p>(2)教職員に対する啓発活動</p> <p>①ハラスメントガイドラインを新任教職員に対してレターボックスを利用して配布し、非常勤講師および非常勤指導員に対しては非常勤講師室および非常勤指導員控室に置くことを継続して行った。</p> <p>②今年度はコロナ禍もあり新任教職員に対するオリエンテーションを実施することができなかった。</p> <p>③2021年3月4日(木)に、ハラスメント防止の啓発活動として「被害者にも加害者にもならないために」をテーマに、屋嘉比瑞穂先生を講師として教職員に対する研修会を実施した。教職員の68%が参加し、参加者の88%がアンケートに回答した。欠席した教職員に対しては3月12日(金)までストリームで配信した。</p> <p>④ハラスメント相談員との懇談会は実施することができなかったが、2019年に変更されたハラスメント申立て用紙と規程の一部改正内容について個別に訪問し説明を行った。</p> <p>(3)ハラスメント防止キャンペーンとして、一昨年よりハラスメント相談やハラスメント防止を呼びかけるステッカーを作成している。ステッカーは目に付きやすいトイレや演習室のドアに今年度も継続して</p>

	<p>掲示した。</p> <p>(4)目安箱の活用を促すために設置場所をこれまでの1号館1階の1箇所に加え、1箇所増やし5号館3階に設置した。設置場所と利用について配布資料を作成し学生・教職員に周知した。</p> <p>(5)学生、教職員を対象としたハラスメント防止講演会などで人権擁護委員会の活動内容や、相談員、目安箱について説明を行った。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1)ハラスメント事案への対応</p> <p>(1)ハラスメントの相談件数は1件あり、当該相談について、相談員は迅速に対応できたが、引き続き次年度以降も対応する必要がある。目安箱への投書については、投書内容に沿って適切な対応がとれた。</p> <p>(2)2019年度に改正されたこともあり、今年度は規程の修正、制度の整備などの必要はなかった。</p> <p>(3)ハラスメントに関する調査結果では、昨年と比べ学生の回答率が9.7%から45.4%に増加した。回答依頼をメール、チャットなどを利用し調査開始時、期間内、終了前に実施したことが増加に繋がったと考えられる。しかし、教員の回答率が71.4%から55.6%に減少したことは課題として残った。自由記述には様々な意見が寄せられ、集計前であっても記述内容に基づき関係する所属長などの協力を得て迅速に対応した。調査結果からハラスメント相談員の認知度の低さとともに、相談がしづらいとの多くの意見があったことから、相談員の氏名を周知するとともに安心して相談できる体制を検討していくことが今後の課題である。</p> <p>(4)コロナ禍もあり研修会への参加はできなかったが、来年度は研修会への参加を促したい。</p> <p>2)ハラスメントを防止するための活動</p> <p>(1)学生に対する啓発活動</p> <p>①4月に行われた新生、編入生対象のガイダンス時にハラスメントガイドラインの配布と説明を行うことができた。来年度以降も継続して行う必要がある。</p> <p>②新生・編入生に対する講演会には93%の学生が出席した。欠席した学生は体調不良のためであり、後日、講演資料の配布を行った。講演会で実施したアンケートは参加者の91%から回収され、自由記述には「ハラスメントの種類や防止方法について知ることができて良かった」「困った時には相談することの大切さや大学に相談する場所があることを知ることができた」などの記載があった。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症の影響で在学生に対するガイダンス時間が短縮されたため、目安箱の利用とハラスメントアンケートの協力などについての配布資料を作成し全学年に配布した。様々な機会を捉え啓発活動を行うことが重要なため今後も行っていく必要がある。</p> <p>(2)教職員に対する啓発活動</p> <p>①ハラスメントガイドラインを新任教職員に対してはレターボックスを利用して配布し、非常勤講師および非常勤指導員に対しては非常勤講師室に置くこととし、次年度も継続することが重要である。</p> <p>②今年度はコロナ禍もあり新任教職員に対するオリエンテーションを実施することができなかったが、相談員や目安箱の利用については配布資料により周知を図ることができた。</p> <p>③教職員に対する研修会には68%の教職員が出席した。欠席した教職員に対しては研修資料の配布およびストリームでの配信によりフォローアップすることができた。研修会で実施したアンケートは参加者の88%から回収され、研修会を通して何らかの気づきがあったとの回答は95%であった。研修会の欠席者に対するストリームでの配信は次年度も継続していきたい。</p>

	<p>④ハラスメント相談員との懇談会はコロナ禍もあり実施することができなかったが、2019年度に変更されたハラスメント申立て用紙と規程の一部改正内容について個別に訪問し説明を行った。次年度も必要に応じ対応していきたい。</p> <p>(3)ハラスメント防止キャンペーンとして、これまでハラスメント相談の周知やハラスメント防止の意識付けを目的にステッカーを作成している。ステッカーは目につきやすいトイレや演習室のドアに貼っており今年度も継続して行なった。人権擁護委員会について周知する手段の一つになっているため次年度も継続し行うこととする。</p> <p>(4)目安箱の活用を促すために設置場所を1号館1階の1箇所に加え1箇所増やし5号館3階に設置した。設置場所と利用については説明資料を作成し学生・教職員に配布した。昨年度は目安箱への投函が1件であったが、今年度は1号館への投函が2件、5号館への投函が1件あった。設置場所を増やすことで目安箱が利用しやすくなったと思われる。</p> <p>(5)学生、教職員を対象としたハラスメント防止講演会などで人権擁護委員会の活動内容や、相談員、目安箱について説明を行った。 相談内容によっては問題解決に向けて関係する所属長などに協力を依頼し事案に迅速に対応したことは評価できるが、ハラスメントアンケートによる相談員の認知度は回答者の33.6%と低い結果であり、ハラスメント相談員について周知していくことが今後の課題である。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1)ハラスメント事案への対応</p> <p>(1)ハラスメント申立てが発生した場合は、規程規則に従った対応を適切にする。</p> <p>(2)制度の整備、必要に応じた規程の修正を検討する。</p> <p>(3)ハラスメント調査により実態を把握するとともに改善策を検討する。</p> <p>(4)個々の担当者の能力向上に向けて研修会への参加を検討する。</p> <p>2)ハラスメントを防止するための活動</p> <p>(1)学生に対するハラスメント啓発活動を検討し実施する。</p> <p>(2)教職員に対するハラスメント啓発活動を検討し実施する。</p> <p>(3)ハラスメント防止キャンペーンを継続する。</p> <p>(4)ハラスメント相談員へ安心して相談できる体制を検討する。</p> <p>(5)目安箱の活用と相談の勧めなどにより、ハラスメントの早期把握と解決の活動に繋げる。</p> <p>(6)人権擁護委員会の活動について周知する。相談されれば、相談者の立場になって解決に向けて動くことをしっかりと示していく。</p>

2020年度 ハラスメントに関するアンケート調査結果

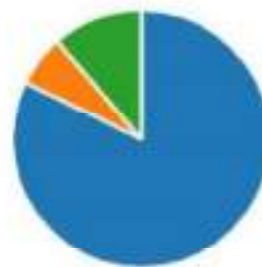
実施期間：2020年9月30日（水）～2020年11月20日（金）

調査対象：本学全学生および全教職員

（学生：562名・事務職員：25名・教員：63名）

1. あなたの所属

● 学生	255
● 事務職員	20
● 教員	35



2. あなたの性別

● 男性	43
● 女性	256



3. 身体を小突かれたり、ものを投げられたりした

● ア) 自分自身にある	0
● ア) 自分自身にない	205
● イ) 見聞きしたことがある	1
● イ) 見聞きしたことがない	292
● その他	1



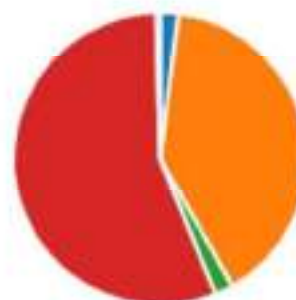
4. 学業・教育・研究・業務とは関係ないと思われる私的な要件で呼び出された

● ア) 自分自身にある	0
● ア) 自分自身にない	205
● イ) 見聞きしたことがある	1
● イ) 見聞きしたことがない	289
● その他	2



5. 容姿・年齢・交友関係・私生活等に関して、執拗に聞かれたり話題にされたりした

● ア) 自分自身にある	10
● ア) 自分自身にない	197
● イ) 見聞きしたことがある	10
● イ) 見聞きしたことがない	276
● その他	2



6. 非常識な時間に業務や課題を命じられたり呼び出されたりした

● ア) 自分自身にある	1
● ア) 自分自身にない	205
● イ) 見聞きしたことがある	9
● イ) 見聞きしたことがない	278
● その他	1



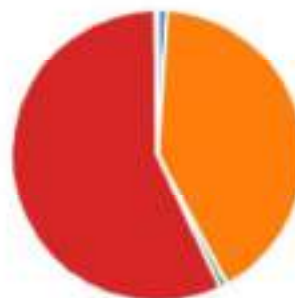
7. 飲み会などへの参加を強いられた

● ア) 自分自身にある	0
● ア) 自分自身にない	205
● イ) 見聞きしたことがある	0
● イ) 見聞きしたことがない	290
● その他	1



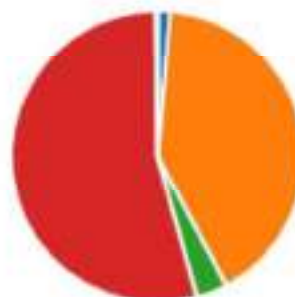
8. 学業・教育・研究・業務において重要なことを意図的に知らされないことがあった

● ア) 自分自身にある	5
● ア) 自分自身にない	204
● イ) 見聞きしたことがある	4
● イ) 見聞きしたことがない	282
● その他	1



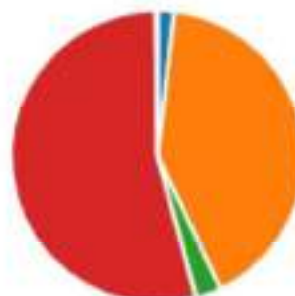
9. 学業・教育・研究・業務において、一方的に理不尽な指示や課題を与えられた

● ア) 自分自身にある	7
● ア) 自分自身にない	202
● イ) 見聞きしたことがある	17
● イ) 見聞きしたことがない	268
● その他	1



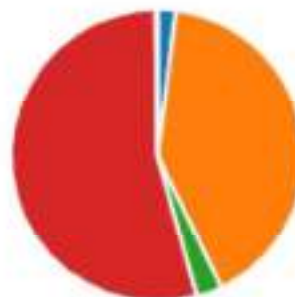
10. 学業・教育・研究・業務において、客観的で公平な評価をされなかった

● ア) 自分自身にある	9
● ア) 自分自身にない	204
● イ) 見聞きしたことがある	14
● イ) 見聞きしたことがない	268
● その他	1



11. 学業・教育・研究・業務を妨害するような言動を受けた

● ア) 自分自身にある	10
● ア) 自分自身にない	202
● イ) 見聞きしたことがある	14
● イ) 見聞きしたことがない	268
● その他	1



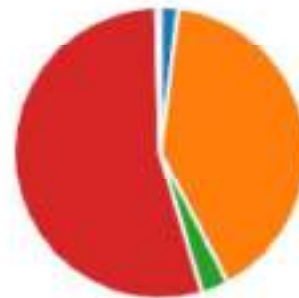
12. 自分の今後のキャリアの方向性を妨害されるような言動を受けた

● ア) 自分自身にある	6
● ア) 自分自身にない	203
● イ) 見聞きしたことがある	3
● イ) 見聞きしたことがない	282
● その他	1



13. 他の学生や同僚に比べて、十分な指導をしてもらえなかった

● ア) 自分自身にある	10
● ア) 自分自身にない	201
● イ) 見聞きしたことがある	15
● イ) 見聞きしたことがない	270
● その他	2



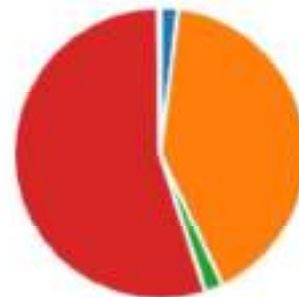
14. 進学や就職、転職に関して、不当な扱いを受けた

● ア) 自分自身にある	0
● ア) 自分自身にない	203
● イ) 見聞きしたことがある	2
● イ) 見聞きしたことがない	286
● その他	2



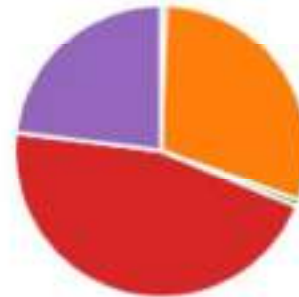
15. 要望や提案に対して理由も言わずに却下された

● ア) 自分自身にある	10
● ア) 自分自身にない	204
● イ) 見聞きしたことがある	10
● イ) 見聞きしたことがない	273
● その他	1



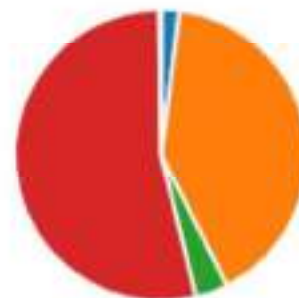
16. 休暇取得を拒否されたり、残業・休日出勤を強制された（教職員のみ回答）

● ア) 自分自身にある	2
● ア) 自分自身にない	121
● イ) 見聞きしたことがある	3
● イ) 見聞きしたことがない	185
● その他	93



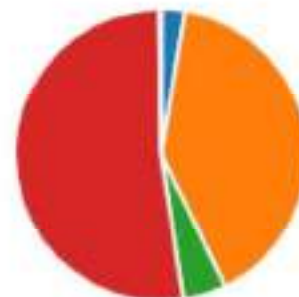
17. 人格否定や差別的な言動を受けた

● ア) 自分自身にある	10
● ア) 自分自身にない	202
● イ) 見聞きしたことがある	18
● イ) 見聞きしたことがない	267
● その他	1



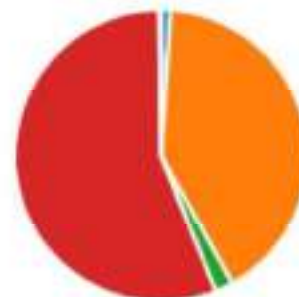
18. 人前で激しく叱責された

● ア) 自分自身にある	13
● ア) 自分自身にない	200
● イ) 見聞きしたことがある	24
● イ) 見聞きしたことがない	260
● その他	1



19. 性格や容貌などをからかわれたり非難された

● ア) 自分自身にある	5
● ア) 自分自身にない	202
● イ) 見聞きしたことがある	10
● イ) 見聞きしたことがない	276
● その他	1



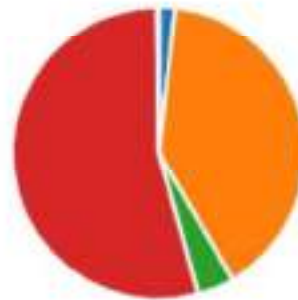
20. 挨拶や話しかけを無視された

● ア) 自分自身にある	34
● ア) 自分自身にない	182
● イ) 見聞きしたことがある	27
● イ) 見聞きしたことがない	249
● その他	1



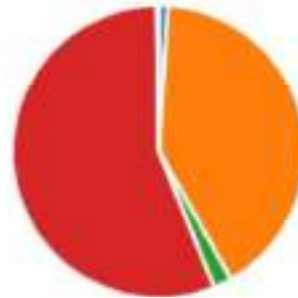
21. 悪質な悪口や陰口を言われた

● ア) 自分自身にある	9
● ア) 自分自身にない	197
● イ) 見聞きしたことがある	20
● イ) 見聞きしたことがない	268
● その他	1



22. 事実無根の噂を流された

● ア) 自分自身にある	5
● ア) 自分自身にない	202
● イ) 見聞きしたことがある	10
● イ) 見聞きしたことがない	277
● その他	1



23. 性的な会話を聞かされたり、性的な絵や写真を目に入るような場所に置かれたりした

● ア) 自分自身にある	0
● ア) 自分自身にない	205
● イ) 見聞きしたことがある	0
● イ) 見聞きしたことがない	291
● その他	2



24. 執拗に身体を触られた（髪や身体を触られ不快に感じた）

● ア) 自分自身にある	2
● ア) 自分自身にない	205
● イ) 見聞きしたことがある	1
● イ) 見聞きしたことがない	288
● その他	2



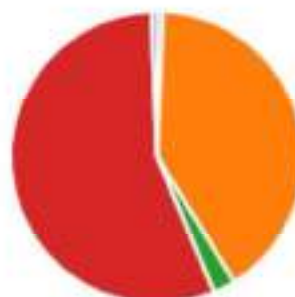
25. 地位・立場を利用して、交際や性的関係を求められた

● ア) 自分自身にある	0
● ア) 自分自身にない	206
● イ) 見聞きしたことがある	0
● イ) 見聞きしたことがない	291
● その他	1



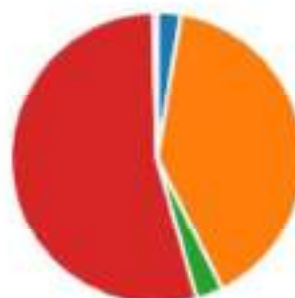
26. 教職員同士の個人的な確執に巻き込まれた

● ア) 自分自身にある	3
● ア) 自分自身にない	201
● イ) 見聞きしたことがある	12
● イ) 見聞きしたことがない	276
● その他	3



27. その他、ハラスメントと思われる行為を受けた

● ア) 自分自身にある	13
● ア) 自分自身にない	199
● イ) 見聞きしたことがある	15
● イ) 見聞きしたことがない	268
● その他	2



28. ハラスメントを受けた時、どこに相談したらよいか知っていますか。

● 知っている	122
● あまり知らない	86
● まったく知らない	25



29. 誰がハラスメント相談員か知っていますか。

● 知っている・調べることができる	81
● あまり知らない	86
● まったく知らない	74



30. ハラスメント目安箱があることを知っていますか。

● 知っている	157
● あまり知らない	40
● まったく知らない	47



31. ハラスメントの相談を躊躇することがありますか、相談しにくいですか。

● そう思う	60
● どちらともいえない	118
● そう思わない	68



2020年度 人権擁護委員会 ハラスメント防止セミナー ～充実した学生生活を送るためには～アンケート結果

- ・開催日時: 4月8日(水) 13:30~14:30
- ・場所: 5号館3階 5314 講義室(看護学科)・4号館2階 4201 講義室
- ・講師: 学生相談室 臨床心理士 屋嘉比 瑞穂氏
- ・出席率: 93%(153名中 142名)
- ・アンケート回収率: 91%(142名中 129名)

1. あなたの性別を教えてください。

● 男	12
● 女	117



2. 今回の講演で一番学びになったことは何でしょう？(自由記述)

【省略】

3. これまでハラスメントと感じるようなことを受けたことがありますか？

● ある	8
● ない	119



4. あると答えた方はその内容を差支えのない範囲で書いてください。(自由記述)

【省略】

5. これまでハラスメントと感じるようなことを見たり聞いたりしたことがありますか？

● ある	16
● ない	109



6. あると答えた方はその内容を差支えのない範囲で書いてください。(自由記述)

【省略】

7. これまでに知らずにハラスメントをしていたのではないかと思うことはありますか？

● ある	3
● ない	124



8. あると答えた方はその内容を差支えのない範囲で書いてください。(自由記述)

【省略】

9. ハラスメントのない大学のためにあなたができることは何があるでしょう？

(自由記述)

【省略】

10. その他感想など自由にお書きください。(自由記述)

【省略】

2020年度 人権擁護委員会 ハラスメント防止研修

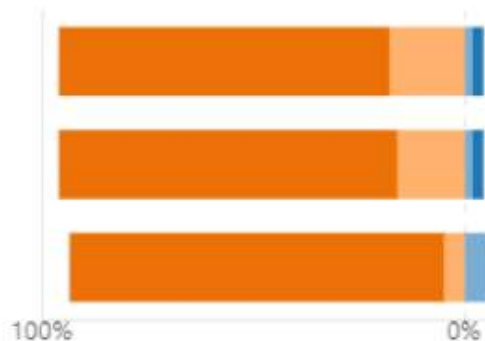
～被害者にも加害者にもならないために～アンケート結果

- ・開催日時：2021年3月4日（木）14:00～15:10
- ・場 所：5号館3階 5314 講義室
- ・講 師：学生相談室 臨床心理士 屋嘉比 瑞穂氏
- ・出席率：68%（77名中52名）※育休2名は除く
- ・アンケート回収率：88%（52名中46名）

1. 本日の研修をどのようにお感じになったかお尋ねします。

■ 4（良かった） ■ 3 ■ 2 ■ 1（良くなかった）

- ① 開催時期について
- ② 時間の設定について
- ③ 開催場所について



2. セミナーを通してご自身について何らかの気づきがありましたか。

- 大いにあった 10
- あった 17
- ややあった 17
- 全くなかった 2



2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	研究倫理委員会
作成者	高島 郁夫

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 提出された申請書について、研究倫理要項等に基づいて適切に審査を行う。 2) 外部団体などが主催する研究倫理に関する講演・説明会などに参加をして情報収集を行う。 3) 学部全体の研究倫理向上を目的に学内の講習会などを開催する。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 提出された申請書について、研究倫理要項等に基づいて適切に審査を行う。 2) 外部団体などが主催する研究倫理に関する講演・説明会などに参加をして情報収集を行う。 3) 学部全体の研究倫理向上を目的に学内の新任者講習会などを開催する。
活 動 内 容 (Do)	1) 提出された申請書に関しては迅速審査とした。審査は書類提出後 20 日程度の時間を要した。今年度は申請件数が 6 件あり、すべて承認された。 2) 研修会に関しては、新型コロナウイルスの関係もあり、実施されなかったため、インターネット上での情報収集を行った。 3) 今年度の新任教員に対して、昨年度の研修会ビデオを見て、研究倫理研修会質問票を提出することで研究倫理番号の発行がされ、審査の申請書を提出できるようになる。
活動内容の評価 (Check)	1) 提出された申請に関して迅速に承認結果を返却できなかった申請もあり、事務的なやり取りに関して、担当者の仕事の偏りや連絡の不備などを改善する必要がある。 2) インターネット上での情報に関して、新たな内容は見当たらなかったため、委員長に対して新情報がないことを報告した。 3) 対象となった今年度の新任者すべてが、研修のビデオを見て研究協力者の人権の保護、インフォームド・コンセントなどの手法を習得できた。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	1) 適切な審査が行えるように審査を実施する委員への連絡態勢を整え、事務的な連絡が迅速にできるようにしていく。審査の日程や審査結果の報告が遅れないように、日程を決めて、タイミングを合わせていく。 2) コロナ禍であるため、講演会・説明会等が開催されない場合を想定して、Web で開催している情報も確認し、各委員との調整および共有を図っていく。 3) 3年に一度、研修を行うこととなっているが、年単位で倫理審査の内容が変更となることがあることから、より速やかに新情報の発信を行うことを検討したい。

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	教務委員会
作成者	齋藤 早香枝

項 目	内 容
<p>【前年度】</p> <p>次年度への課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 教育課程編成および実施の方針に基づき、教育課程を円滑に運用し、学生の成長を促す。</p> <p>(1) ガイダンスの実施</p> <p>① 新入生が大学での学修に円滑に対応できるよう、入学時の新入生ガイダンス、後期ガイダンスを行う。</p> <p>② 在学生が新学年の学修に円滑に対応できるよう、前・後期でガイダンスを行う。</p> <p>③ 試験前のガイダンスを1年次の前・後期、2年次の前期に行う。日程は時間割の中に組み込む。</p> <p>④ 看護学科1、2年次生に対し、公衆衛生看護学履修希望（保健師国家試験受験資格取得希望）に関するガイダンスを行う。3年次生には、公衆衛生看護学履修者の選抜を行い、履修のためのガイダンスを行う。</p> <p>⑤ ガイダンスを通じて本学の教育理念の理解が進むようにする。</p> <p>(2) 履修支援</p> <p>① 学生が履修の自己管理を行い、確実に単位取得ができるよう、履修登録、出欠席、試験に関する指導を学年担任とも協力しながら実施する。</p> <p>② 学生の自己学修時間を確保するため、コンスタントに時間割を組めるよう、科目責任者と調整を行う。</p> <p>③ 本学の教育理念、カリキュラム等の情報を提供し、常勤・非常勤講師が情報交換・交流を図る。</p> <p>2) 退学、休学、留年等の学生の実態分析を行い、改善対策の検討を引き続き行う。</p> <p>3) 学生が快適な環境で学修できるための環境づくりを行う。 新型コロナウイルス感染症の流行を考慮し、できるだけスペースを確保した環境を作れるよう工夫する。</p> <p>4) 教務委員・教員としての能力向上及び教務に関する情報収集を行う。</p> <p>5) 出席管理における不正を防ぐ対応を検討する。</p> <p>6) 栄養学科の2021年度新カリキュラム開始に必要な事項を審議・決定し進める。</p> <p>7) 申請手続きに関するシステムについて今後検討していく。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 教育課程編成および実施の方針に基づき、教育課程を円滑に運用し、学生の成長を促す。</p> <p>(1) ガイダンスの実施</p> <p>① 新入生が大学での学修に円滑に対応できるよう、入学時の新入生ガイダンス、後期ガイダンスを行う。</p> <p>② 在学生が新学年の学修に円滑に対応できるよう、前・後期でガイダンスを行う。</p> <p>③ 試験前のガイダンスを1年次の前・後期、2年次の前期に行う。日程は時間割の中に組み込む。</p>

	<p>④看護学科 1、2 年次生に対し、公衆衛生看護学履修希望（保健師国家試験受験資格取得希望）に関するガイダンスを行う。3 年次生には、公衆衛生看護学履修者の選抜を行い、履修のためのガイダンスを行う。</p> <p>⑤ガイダンスを通じて本学の教育理念の理解が進むようにする。</p> <p>(2)履修支援</p> <p>①学生が履修の自己管理を行い、確実に単位取得ができるよう、履修登録、出欠席、試験に関する指導を学年担任とも協力しながら実施する。</p> <p>②学生の自己学修時間を確保するため、一定した曜日と時間でバランスよく時間割を組めるよう、科目責任者と調整を行う。</p> <p>③本学の教育理念、カリキュラム等の情報を提供し、常勤・非常勤講師が情報交換・交流を図る。</p> <p>2) 退学、休学、留年等の学生の実態分析を行い、改善対策の検討を引き続き行う。</p> <p>3) 学生が快適な環境で学修できるための環境づくりを行う。 新型コロナウイルス感染症対策の中で、密を回避する講義室の確保を行う。遠隔授業が遠隔環境下で効果的な教育を実施できるようにする。</p> <p>4) 教務委員・教員としての能力向上及び教務に関する情報収集を行う。</p> <p>5) 出席管理における不正を防ぐ対応を検討する。</p> <p>6) 栄養学科の 2021 年度新カリキュラム開始に必要な事項を審議・決定し進める。</p> <p>7) 履修申請手続きに関するシステムについて情報収集していく。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 教育課程編成および実施の方針に基づく教育課程の円滑な運営について</p> <p>(1)ガイダンスの実施</p> <p>①新入生に対しては入学式の日から 4 日間ガイダンスを実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、ガイダンス自体は新歓行事の縮小など内容が精選されたが、教務関連内容は、学事暦、時間割の見方、教育課程の概要、履修の方法、定期試験と成績評価、単位取得、卒業時の取得可能な資格等について一通り説明した。新入生は、ガイダンス終了後休校となり不安もあったと考えるが、シラバスを用い、シラバスに記載されていること、シラバスを確認することを強調し、シラバスの活用で情報を得るよう働きかけた。</p> <p>栄養学科編入生に対しては、新入生ガイダンス、3 年次生ガイダンス、編入生ガイダンスすべてを受けられるようにプログラムを組んだ。</p> <p>後期ガイダンスでは、学生自身が前期の成績を基に、自身の学修姿勢を振り返り、後期の学修に臨むことができるように、履修に関する留意点について再度説明した。また、本学の教育理念に触れ、日常で意識した行動をとることの大切さを説明した。</p> <p>②在学生に対しては、両学科全学年、前後期でガイダンスを行った。学年が上がるとガイダンス内容も絞られてくるため、ガイダンス日の後半は授業を入れられるようにした。</p> <p>③定期試験に関しては、1 年次生に対しては、前後期の定期試験前に遠隔で試験ガイダンスを行い、定期試験の受け方、追再試の手続き、成績評価等について説明した。新型コロナウイルス感染症の関連で欠席し追試験になる学生がいることを想定し、体調管理の重要性と欠席の場合の連絡、追試験については手続等で漏れがないように強調した。2 年次生には、前期のみ行っている。</p> <p>④看護学科の公衆衛生看護学履修に関する説明は、新入生ガイダンス、前期ガイダンスの中でシラバスの内容を伝え、履修に関する詳細な説明が必要な場合は、公衆衛生看護学を担当している教員の研</p>

研究室に来るように伝えた。

また、3年次生に対して、教務委員長、公衆衛生看護学を担当している教員、学年担任を構成メンバーとして審査委員会を立ち上げた。手続きについては、新型コロナウイルス感染症による休校などもあり、例年より遅く日程を組んだ。保健師国家試験受験資格取得を希望する学生には、必要書類を5月22日までに提出してもらい、1次審査を6月16日、2次審査を6月23日に実施。判定会議を2次審査のあとに行っている。

例年行っている2年次生への説明は、新型コロナウイルス感染症関連の登校制限もあり今年には行わなかった。

- ⑤全学年で前後期のガイダンスを実施し、その中で教育理念について説明し、意識した大学生活につなげるよう伝えた。

(2)履修支援

- ①履修登録にあたり、学生が自分の履修について考えられるよう履修登録期間を設定し、1年間の履修登録を行ってもらった。さらにその後、確認期間を設けた。後期にも、学生が自身の学修状況を踏まえて変更することができる期間を設けた。

教務に関するガイダンスの翌日から看護学科は1年次生、栄養学科は1、2、3年次生と編入生を対象とする履修相談を設け、教務委員、担任が相談に応じた。また履修に関しては、1年間だけではなく4年間の学修全体を捉えることが重要であると考え、4年間の履修スケジュール表を配布し、履修相談で活用した。

個々の在学生に対する具体的な指導は学年担任の協力を得ながら実施した。学生が自己の履修の確認と管理を行うという点では、昨年より履修登録一覧を全員に一斉配布する形を取っている。新型コロナウイルス感染症の関連で、やむを得ない事由での欠席で、感冒症状などが加わった。授業欠席の際の手続きを学生に周知し、また欠席状況が全教員にわかるよう共有フォルダに記載した。非常勤講師が担当する科目の出欠については、学務も確認できるようにFormsを作成した。

定期試験に関しては、休校期間があったため例年の期間を設けることができず、追試と再試を同時に行ったあと、追試者の再試をそのあとに設けることとした。追試者の再試のために土曜日でも試験日としている。追試者の数は、前期後期ともに各学年1~3名いたが、例年より著しく多いということにはなかった。

また、再試験の準備時間を確保する目的で、定期試験の結果は、科目責任者から随時発表する形をとっているが、今年度はTeamsを使って行うため、印刷や変更ができない対応について教員に周知した。

- ②時間割作成に当たっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から遠隔授業を導入したため一定した曜日と時間でバランスのよい時間割とはならなかった。以下、今年度の時間割変更について説明する。

危機管理委員会の決定を受け、4月9日から休校とし、5月18日から遠隔授業を開始し、前期は6月8日より、遠隔授業と対面授業を組み合わせる授業展開とした。後期も、遠隔授業と対面授業を組み合わせての授業展開となった。

科目責任者と調整し、遠隔授業の時間割を作成した。遠隔授業と対面授業が組み合わされているため、学年ごとに曜日で遠隔授業のみの日、対面授業のみの日と分け時間割を組んだ。

その他、時間割について、栄養学科編入生の履修科目に関しては確実に単位取得ができるよう土曜日開講を行った。

- ③栄養学科の2021年度に向けての非常勤講師会を3月26日に遠隔でのストリーム配信で実施した。事前に質問を受け付け、講師会の中

	<p>で説明できる部分は説明を行った。</p> <p>その他、シラバスに関しては、昨年より評価の視点を明確にするよう働きかけてきた。今年度はそれに加え、定期試験の受験資格にレポートの提出等、科目独自の条件付けがされているものに関しては、本学試験規程の受験資格および受験資格の喪失の内容以上のものであるため修正を依頼した。</p> <p>2) 開学時からの学生の休学、留年、退学、除籍のデータをまとめ、状況の分析、把握を行った(別紙参照)。改善策の検討については、行えていない。</p> <p>3) 使用教室に関しては、看護学科4年次生を除き、学年で固定教室、固定席とした。また、遠隔授業の開始に当たっては、総務と連携し、前期、後期で非常勤講師への説明会を開催した。遠隔授業の際は、総務と連携し、授業が滞りなく進められているか確認し、フォローを行った。</p> <p>4) 今年度は、研修参加はなかった。</p> <p>5) 出席管理では、遠隔授業が開始されこれまでの方法と大きく違った対応を迫られる中、学務課を中心に欠席の報告、届け出に関する学生への周知、学生の欠席状況の一覧の作成、教員に対する補講の依頼などを行ってきた。</p> <p>出欠管理における不正については、Teamsにログインだけして聴講していない、授業の後半にログインをして出席のFormsだけを送信するなど、これまでと違う形で起きることが想定されたが、発生状況の把握や防ぐ手立てについては検討できなかった。科目によっては、レポート課題の提出をもって出席とするなど従来とは違う形をとることもあり、それらは科目責任者の判断に任せた。</p> <p>6) 栄養学科の2021年度新カリキュラム開始に合わせ、教育課程の確認と規定の改定を検討し、教授会審議にかけた。</p> <p>7) 履修申請手続きに関するシステムについては、情報管理委員会で検討されているため、委員会として動くことはなかった。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 教育課程編成および実施の方針に基づく教育課程の円滑な運営について</p> <p>(1) ガイダンスの実施</p> <p>① 新入生ガイダンスでは履修に関する内容だけではなく、大学生生活に関する多くの情報を幅広く伝える意図で、昨年2日間から4日間へと日程を延ばしたものの、実際は、新型コロナウイルス感染症の関係から新歓行事など縮小せざるを得なかった。教務関係に関しては、伝えるべき部分は伝えたが、従来であれば、説明の後も学友や担任に不明な点を確認しながら理解を深めていく期間で登校不可となり、学生に不安はあったと思われる。履修相談もほぼ例年通り行い、履修登録等での混乱はなかったが、前期科目が複数不合格となる学生、あるいは、定期試験を受験しない学生が例年より多かった点で、大学での学業生活、学修の仕方が身につかない段階での遠隔授業開始の影響が考えられた。</p> <p>② 在学生へのガイダンスを全学年、前後期で行うようにし、教育理念の浸透などもねらっていった。学年担任からの説明など、全体への細やかな修学支援が行われたと考える。今後も継続したい。</p> <p>③ 定期試験ガイダンスは、1年次は前後期、2年次は前期だけ行った。1年次生の前期ガイダンスの欠席者は、看護7名、栄養5名であったが、後期は、看護26名(106名中)、栄養16名(40名中)欠席があり、オンデマンドで確認するよう再度アナウンスした。試験をクラス分けしている場合、実施時間を間違えないようにとガイダンスで説明しているにもかかわらず、間違える学生が後期にもいたこと、一方で再試験、追試験で手続き漏れの学生がなくなったこと、などから後期のガイダンスの必要性和効果を感じるため今後も継続する。</p>

④3年次生に対する公衆衛生看護学の履修生の審査と履修生決定については、例年4月に提出の書類の締め切りが新型コロナウイルス感染症対応により5月下旬と遅くなったが、最終的には6月中に履修生を決定することができた。応募の条件はGPAが概ね2.5以上となっていたが、それ以下の学生の応募が非常に多く書類審査で落ちる学生が多かった。保健師国家試験の水準が高くなっており、一定レベルの学力が必要であるため、学年担任の学生指導についても調整の必要が感じられた。また、3年次生で、履修を取りやめる学生が出たが、履修の取りやめに関する手続きが未整備だったため今後整備する必要がある。

また、2年次生に対する説明は、今年度行っていないため、4月に丁寧な説明が必要である。

⑤全学年に対する前後期のガイダンスで教育理念に触れるようにした。教育理念は、カリキュラム全体の中で意識され、それが積みかなさって学生自身が体現していくものであるが、折に触れて言葉にし、自らの人間力を高めていく大学生活を考えるきっかけとして、意味はあると考える。

(2)履修支援

①例年履修漏れが起きる状況があったが、今年度はみられなかった。学生自らが主体的に自己の履修を確認、管理できるよう担任と連携を取りながら働きかけていくなど、支援を継続する。
現在行われている履修相談期間の相談(看護1年次生、栄養全学年)も行っていく。

また、これまで非常勤講師の科目での出席状況は、管理上専任教員のPCからは閲覧できなかったため、学年担任が指導に活かすことが難しかった。これに関しては、非常勤講師室のPCで確認することができることを教員に周知し、履修指導に活かしてもらうことと合わせて、非常勤講師に出欠の記入を早めにしていただくことを依頼していく。

②時間割の作成に関しては、看護学科の3、4年次の前期は短期間で実習までに授業を終える関係で難しいが、他は可能な限り、科目ごとに曜日を決め時間割を組むことを基本として作成を心がけた。遠隔授業の開始とその後の対面授業の開始に合わせて、学務課が中心となり非常勤講師や専任教員と調整し、短時間での時間割変更を行った。学生への提示がギリギリとなったところもあったが、時間割に沿って必要な授業の実施ができた。

③2020年度の非常勤講師会は、栄養学科のみであったが、2022年からの看護学科の新カリキュラム開始に合わせて、次年度は両学科で非常勤講師会を開催する必要があると考える。

2)今年度は看護学科の第5期生、栄養学科の第1期生が卒業した。これまでの入学年度別卒業率(4年間で卒業)は看護が1期生から91.5%、79.0%、90.3%、86.8%、83.9%、栄養学科は92.3%(編入生含まず)と差がある。退学した学生は看護学科1期生から6名(5.7%)、11名(10.5%)、2名(1.9%)、6名(5.7%)、8名(7.5%)、栄養学科は2名(7.7%:編入生含まず)である。また休学者は1名(2021年3月12日現在)である。退学者10%以内という大学の目標は概ね達成できているが、2015年度入学生までは、3年次になってからの休学が主であったのが、2016年度以降の入学生は1、2年次の低学年で休学する学生が主となっている。今年度は、状況の把握にとどまり改善策の検討は行われなかった。休学、退学の決定に関しては、学年担任との相談の上で判断されており、今後の対策等を具体的に考える上で、学科または担任からの情報収集も必要と考える。

3)新型コロナウイルス感染症の関係で、教室と座る場所の固定を行い、履修生の人数に合わせた教室の調整を行った。大きな混乱はなかったと

	<p>考える。次年度も十分なスペースの確保と濃厚接触者の割り出しが可能 なように、固定の教室と固定の座席を基本にしていく。</p> <p>4) 今年度は、研修参加がなかったが、今後も引き続き研修会に参加する 機会を確保したい。</p> <p>5) 出席管理では、遠隔授業で Forms が返信されれば出席としているケー スが多く、実際の視聴とのギャップがあるケースも見受けられた。次年 度は元の対面授業に戻るため、不正のできない対応について情報ネット ワーク委員会と連携し、システムの導入など考えていきたい。</p> <p>6) 栄養学科の 2021 年度新カリキュラム開始に合わせ、教育課程の確認 と規定の改定を検討し、教授会審議にかけたが、開講時期の変更等で教 授会審議を 2 度行う結果になった。次年度は、看護学科の新カリキュ ラムが決っていく。適切に行えるよう努める。</p> <p>7) 申請手続きに関するシステムについては、情報ネットワーク委員会 で検討されているため、引き続き情報収集を行う。</p> <p>その他、これまで科目等履修生に対する規程が整備されていなかっ た。今後に向けて次年度整備する。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 教育課程編成および実施の方針に基づき、教育課程を円滑に運用し、 学生の成長を促す。</p> <p>(1) ガイダンスの実施</p> <p>① 新生が大学での学修に円滑に対応できるよう、入学時の新生ガイ ダンス、後期ガイダンスを行う。</p> <p>② 在学生が新学年の学修に円滑に対応できるよう、前・後期でガイ ダンスを行う。</p> <p>③ 試験前のガイダンスを 1 年次の前・後期、2 年次の前期に行う。日 程は時間割の中に組み込む。</p> <p>④ 看護学科 1、2 年次生に対し、公衆衛生看護学履修希望（保健師国 家試験受験資格取得希望）に関するガイダンスを行う。3 年次生に は、公衆衛生看護学履修者の選抜を行い、履修のためのガイダンス を行う。</p> <p>⑤ 引き続きガイダンスを通じて本学の教育理念の理解が進むように する。</p> <p>(2) 履修支援</p> <p>① 1 学生が履修の自己管理を行い、確実に単位取得ができるよう、履 修登録、出欠席、試験に関する指導を学年担任とも協力しながら実 施する。2021 年度からは、対面授業に戻す方針であるが、新型コロ ナウイルス感染症の状況によっては遠隔授業も併用される可能性 があり、遠隔授業による学習意欲の低下、履修放棄とならないよう、 学生の学修状況を学年担任と共有し、対応できるよう努める。</p> <p>② 2 学生の自己学修時間を確保するため、看護学科 3、4 年次前期を除 いて、科目ごとに曜日を決め時間割を組むことを基本としてすすめ る。また新型コロナウイルス感染症の関連で、遠隔授業が必要とな る可能性はあるため、状況に対応し学生の学修がしっかり行われる よう努めていく。</p> <p>③ 3 本学の教育理念、カリキュラム等の情報を提供し、常勤・非常勤講 師が情報交換・交流を図る。</p> <p>2) 2 退学、休学、留年等の学生の実態分析を行い、改善対策の検等を行う。 必要時、学科・学年担任より情報提供を得て、状況の把握、改善対策に 活かす。また、新型コロナウイルス感染症対策による学生動向への影響 も検討する。</p> <p>3) 3 学生が快適な環境で学修できるための環境づくりを行う。 新型コロナウイルス感染症の流行を考慮し、できるだけスペースを確 保した環境を作れるよう工夫する。</p> <p>4) 4 教務委員・教員としての能力向上及び教務に関する情報収集を行う。</p> <p>5) 5 栄養学科の 2021 年度新カリキュラム開始に必要な事項を審議・決定</p>

	<p>し進める。また、カリキュラム検討委員会からあがる看護学科の新カリキュラム（2022年度から開始）に関する教育課程の検討と規定の見直しを行う。</p> <p>6) 出欠管理、履修申請手続きに関するシステム化について、情報収集し、必要時、意見を伝える。</p> <p>7) その他、教務上必要な規程等の整備を行う（科目等履修生に関する規程、合理的配慮が必要な学生への対応など）。</p>
--	--

看護学科 ● = 在学

入学年度	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
2013年度	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	卒業							
	●	●	●	●	●	退学												
	●	●	●	●	退学													
	●	●	●	●	退学													
	●	●	●	休学	●	●	●	休学	休学	休学	●	●	休学	休学	休学	休学		
	●	●	●	●	●	休学	休学	休学	休学	退学								
	●	●	●	●	●	休学	休学	退学										
	●	●	●	●	●	●	●	休学	休学	●	●	卒業						
2014年度	●	●	●	●	●	●	●	●	●	卒業								
	●	●	●	●	休学	休学	●	●	●	●	卒業							
	●	●	●	●	休学	休学	退学											
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	卒業							
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	卒業							
	●	●	●	休学	休学	●	●	●	●	●	●	卒業						
	●	●	●	●	●	●	●	休学	休学	●	●	卒業						
	●	●	●	●	●	●	退学											
	●	●	●	●	●	●	●	休学	退学	退学								
	●	●	●	0.4	除籍													
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	卒業						
	●	●	●	●	●	●	休学	休学	休学	退学								
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	卒業						
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	卒業			卒業			
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	卒業						
	●	●	●	●	●	●	●	休学	退学									
	●	休学	●	●	●	●	●	●	●	●	退学							
	●	●	●	●	●	●	●	退学										
●	●	●	●	●	●	休学	退学											
●	●	●	●	●	●	休学	●	●	●	●	卒業							
●	●	●	●	●	●	除籍												
●	●	●	●	●	●	●	休学	休学	退学									
2015年度	●	●	●	●	●	休学	休学	休学	退学									
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	退学							
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	卒業							
	●	●	●	●	●	●	休学	休学	●	●	卒業							
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	卒業							
	●	●	●	●	●	●	休学	●	●	休学	休学	退学						
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	休学	休学	退学						
	●	●	●	●	●	●	退学											
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	卒業							
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	卒業							

入学年度	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
2016年度	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	●	●	●	休学	●	●	退学											
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	●	●	休学	●	●	休学	0.3	休学	退学									
	●	●	休学	●	除籍													
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	●	●	休学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	●	●	●	●	●	●	退学											
	●	●	●	●	0.1	退学												
	●	●	●	●	●	●	休学	休学	退学									
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	●	●	休学	●	●	●	休学	休学	休学	休学	●	●	●	●	●	●	●	●
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2017年度	●	●	休学	●	●	●	●	●										
	●	●	●	●	●	●	●	●										
	●	●	●	休学	退学													
	●	●	●	●	休学	●	●	●										
	●	退学																
	●	休学	休学	退学														
	●	●	●	●	●	●	●	●										
	●	休学	●	●	退学													
	●	●	●	●	●	●	●	●	●									
	●	休学	●	●	●	●	●	●	休学									
	休学	休学	休学	休学	退学													
	●	●	●	●	休学	休学	●	退学										
	●	●	●	●	●	除籍												
●	●	休学	●	●	●	休学	●											
●	●	●	●	●	休学	退学												
●	●	●	●	●	●	●	●											
●	●	●	●	休学	●	●	●											
2018年度	●	●	●	●	休学	●												
	●	●	●	●	休学	●												
	●	●	●	●	●	休学	●											
	●	●	●	●	休学	休学	退学											
	●	●	●	退学														
	●	●	●	●	休学	●												
	●	休学	休学	退学														
	●	●	●	●	●	休学												
	●	休学	休学	休学	休学	退学												
	●	●	休学	退学														
	●	●	●	●	休学	●												
	●	休学	●	退学														
	●	●	●	●	休学	●												
●	●	休学	休学	休学	休学	退学												
●	●	●	●	休学	休学													
●	●	●	●	休学	●													
●	●	●	●	休学	●													
●	●	●	●	●	休学													

入学年度	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
2019年度	●	●	●	休学														
	●	●	休学	●														
	●	休学	退学															
2020年度	●	●	退学															

栄養学科 ● = 在学

入学年度	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
2017年度	●	●	除籍															
	休学	退学																
2018年度	●	休学	休学	休学	休学	●	退学											
	●	退学																
2019年度	●	休学	退学															
	●	●	休学	退学														
2020年度	●	休学	退学															
	●	休学																
	●	退学																

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	学生委員会
作成者	松尾 文子

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 学生支援を継続していく。学友会活動において学生の主体性を向上させるために、特に以下の点に力を入れる。体育大会と大学祭実行委員会の早期立ち上げによって準備期間を確保し、学生みずからが行事の運営をできるように、さらに多くの学生が行事に参加するように導く。また、学友会総務部役員や体育大会実行委員、大学祭実行委員がそれぞれの委員会の後輩を指導する体制の基礎を作る。 学生相談室については、開室日を1日増やして週3日にして一層の充実を図る。</p> <p>2) 引き続き、スケジュールの許す範囲になるが、厚生補導研修会に参加できるようにする。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 以下の学生支援を行う。</p> <p>(1) 学友会活動 学生が中心となる自立した活動ができるように支援する。</p> <p>(2) 奨学金 各種奨学金の手続きや選考</p> <p>(3) 学生相談室の充実 健康管理室との連携、学担や科目担当者との連携、保護者との連携を一層強化する。</p> <p>(4) 外部講師によるセミナー 1年次生を対象とした金融セミナーと防犯セミナーを実施する。</p> <p>(5) 新入生のためのオリエンテーション 大学生活を充実したものとするために、入学当初に学生生活オリエンテーションを行う。</p> <p>(6) 卒業祝賀会 学生の意向を調査したうえで、実施する場合は支援する。</p> <p>2) スキルアップのための研修会参加 学生委員会委員が学生厚生補導に関する研修会に参加し、委員の資質の向上に努めるとともに、学生指導の充実を図る。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 支援を行った主な活動は以下のとおりである。</p> <p>(1) 学友会活動</p> <p>① 新入生歓迎会 (4月) 新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止。次年度に向けて、次年度の会長・副会長を中心に、「三密」を避けた開催方法の検討を始めた。</p> <p>② 体育大会 (5月) 新型コロナウイルス感染症拡大で緊急事態宣言が発出されていたため、中止。次年度に向けて、実行委員会を立ち上げて、「三密」を避けた開催方法の検討を始めた。</p> <p>③ 学友会総会 (6月) 新型コロナウイルス感染症予防の観点から、SharePoint を用いた web 開催となった。審議事項となる昨年度の決算(案)と今年度の予算(案)を SharePoint で発信し、それに対する意見を募った。</p>

④大学祭（10月）

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、中止。

⑤学友会新役員（会長・副会長）選挙（12月）

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、Teams を用いた web 選挙となった。選挙公示・立候補者の抱負発表は Teams で発信し、投票は Teams の Forms で行った。従来、投票日は1日だったが、投票者数を確保するため5日間とした。

⑥卒業記念品選定

学友会からの記念品として、昨年度同様、ネームペンを選んだ。

⑦サークル活動

新型コロナウイルス感染症拡大および予防のため、活動はほとんどできなかった。新入生にサークルを紹介するために、年度当初から4号館の玄関に設置されているパソコンで、紹介のパワーポイントを上映し、事務室前のロビーに紹介の掲示を行った。後期に入ってから、Teams で紹介のパワーポイントを見ることができるようにした。

従来から、各サークル内で上学年から下学年への引継ぎがきちんとされていないため、以下のことを行った。

ア. 「団体継続願」「団体解散願」の提出期限を、年度が変わった4月となっていたのを、年度内の3月に変更。

イ. 休部・廃部のルールの明確化。原則として休部は2年までとし、2年を超えると廃部とする。このことを来年度の学生便覧の記述に反映させるが、「学生規程」との整合性を検討して必要な場合は改訂する作業は、次年度に持ち越した。

ウ. サークル名変更：名称の変更を希望するサークルが出たので、申請書類を作成。

⑧その他

ア. 新入生歓迎会、体育大会、大学祭が中止となり予算を未消化、サークル活動がほとんどできずにサークル補助金も必要にならなかった。それらの費用の一部を財源に、以下のものを全学生に配布した。前期には、当時入手が困難だった不織布マスクを1人15枚ずつ、後期には、勉強や実習の疲れを癒すために、ロイズのお菓子を配布した。

イ. 後援会から学友会への助成金の使途変更：計上した大学祭助成（50万円）とサークル助成（30万円）の合計80万円を、学生の新型コロナウイルス感染症拡大防止用の消毒液やペーパーなどに振り替えた。なお、次年度は従来通りの助成を、後援会に依頼する。

(2)奨学金

①「札幌保健医療大学学業成績優秀者給付奨学金」受給候補者選考（5月）

②「札幌保健医療大学兄弟姉妹同時在学時授業料減免」受給候補者選考（5月）

③「札幌保健医療大学給付奨学金」受給候補者選考（7月）：今年度は新型コロナウイルス感染症拡大による経済状況悪化に鑑み、給付者の人数を10名程度に増やした。7月の選考での受給者は6名だったので、二次募集を行うことにした。

④「札幌保健医療大学給付奨学金」受給候補者選考 [二次募集] (8月)：4名に給付決定。

⑤「札幌保健医療大学新型コロナウイルス感染症に伴う授業料減免」受給候補者選考（7月）：今年度の特別な奨学金。定員は20名程度だったが、7月の選考での受給者は3名だったので、二次募集を行うことにした。

⑥「札幌保健医療大学新型コロナウイルス感染症に伴う授業料減免」

	<p>受給候補者選考〔二次募集〕(8月):申請者なし。</p> <p>⑦「公益財団法人北海道信用金庫奨学財団 給付型奨学生」受給者選考(9月):4月に第1学年に入学した学生で、ひとり親家庭 または 両親のいない家庭等の子女、経済的理由により修学困難な状況にある学生が対象で、2名に給付を決定した。</p> <p>⑧「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」(日本学生支援機構)を活用した学生支援:後援会より1人あたり500円程度の補助を受け、全学生にペコマカード(2,000円入金済み)を12月に配布。</p> <p>⑨規程の改正</p> <p>ア.「札幌保健医療大学給付奨学金規程」(9月):規定されていない出願条件の家計基準を別に定めて、出願の条件を明確化した。また、所得を証明すべき人物条件を規定することで、提出が求められる所得証明書を明確化した。</p> <p>イ.「札幌保健医療大学学業成績優秀者給付奨学金規程」(2月):後期に納付すべき授業料から奨学金相当額を控除する方法になっていたが、現金 または その他の方法により給付することに改正した。</p> <p>⑩日本学生支援機構の奨学金手続き 新型コロナウイルス感染症予防のため、6~7割程度の手続きを非対面で実施した。</p> <p>(3)学生相談室の充実 週3回開室し、2名の外部専門家による相談を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大によって、対面授業の日数が大幅に減ったため、学生が相談室を訪ねる機会が激減した。そのため、メールでの相談予約や、電話での相談を行った。来年度以降の相談方法の選択肢を増やすために、Teamsを用いた遠隔相談の試行を行った。すでに相談に来ている学生で、遠隔相談を希望する2名の学生を対象にした。この試行で浮上した問題点などを踏まえて、来年度に本格的に遠隔相談を実施するにあたってのルール作りを行った。 また、相談員作成による学生向けの「学生相談室通信」と教職員向けの「学生相談室レター」をそれぞれ8号分発行した。</p> <p>(4)外部講師によるセミナー 新型コロナウイルス感染症拡大と感染予防のため、中止。</p> <p>(5)新入生のためのオリエンテーション 年度当初に新入生を対象に、学生生活を送るうえでの注意事項を説明した。対象学生はほぼ全員出席した。</p> <p>(6)卒業祝賀会 新型コロナウイルス感染症予防のため、中止。</p> <p>(7)その他:「学生満足度調査」の質問項目の見直し 次年度に実施する調査にむけて、質問項目の見直しを行った。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、通常の授業や行事などが行えなかったため、新型コロナウイルス感染症対応の質問項目への変更や追加の必要性を検討した。しかし、次年度の状況が予想できないため、修正が望ましい箇所やその他の問題点や提案を、次期学生部長に伝えるにとどめた。</p> <p>2)スキルアップのための研修会参加 新型コロナウイルス感染症拡大のために、多くの研修会が開催されず、参加できなかった。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1)学生支援 (1)学友会活動 ⑥以外の①~⑤、⑦は、新型コロナウイルス感染症拡大と予防でさまざまな活動に制限がかかったため、実行できなかった。Teamsを利用して学友会から学生に向けてさまざまな情報の発信をしたが、活動には限界があった。</p>

	<p>(2)奨学金 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大で経済的に困難な状況にある学生のための奨学金の募集があったが、適切に対応できた。</p> <p>(3)学生相談室の充実 新型コロナウイルス感染症拡大で通常の対面授業ができず、学生が相談室を訪ねる機会が激減した。そのような状況下で、相談機会の確保に努めた。また、来年度から遠隔相談を本格的に開始するための準備ができた。</p> <p>(4)外部講師によるセミナーおよび(6)卒業祝賀会 新型コロナウイルス感染症予防のために、実施できなかった。</p> <p>(5)新入生のためのオリエンテーション 緊急事態宣言の発出前だったため、予定通り実施できた。</p> <p>2)スキルアップのための研修会参加 新型コロナウイルス感染症拡大・予防のために、参加できなかった。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1)学友会の活動・課外活動実施の支援 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、活動がほぼ止まってしまった。2021年度はこれらの活動を再スタートさせることになる。学友会執行部については、新入生の入部を増やして、上学年の学生が下学年の学生を指導して、次世代へと引き継ぐ形の基礎を築く。サークル活動に関しては、ほとんどのサークルが仕切り直してゼロからスタートすることになるが、サークルとしての形の確立に向かうようにする。体育大会と大学祭は、感染予防対策を講じたうえで実施するが、感染拡大の状況に応じて柔軟に対応する。 学生相談室については、遠隔相談を本格的に開始し、同時に実施状況を分析して、問題点があればそのつど改善する。</p> <p>2)スキルアップのための研修会参加 新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着かないなか、研修会の開催がどのような形になるか不明だが、スケジュールの許す範囲で研修会に参加できるようにする。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	FD 委員会
作成者	千葉 仁志

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 本年度実施した研修会は一定の成果が得られたと評価している。出席率の改善に向けて、欠席者の欠席理由を調査して背景を探り、対応可能な問題点が見つければ対応する必要がある。事務職員の出席が強く望まれる研修内容である場合には、開催日時について事務職員の意向を汲み上げること検討する。</p> <p>次年度のテーマは「教育理念の浸透のために」とし、教育目標達成のために FD・SD 研修会で学内教員間の議論を深める予定である。これに関連して、昨年度まで看護学科と栄養学科の協力で実施していた新人教職員研修は、本学の 2020 年度大学運営基本方針に述べられている「本学の教育理念と本学が求める教員像、3 つのポリシー及び各学科の教育課程の理解を図る」ことや、「両学科の教職員の一体化を図る」こと、更には「教育職員の恒常的な教育力向上」に資するものであると FD 委員会は評価している。さらに、FD 委員会が次年度のテーマとして掲げる「教育理念の浸透のために」とも合致する。同研修の継続に向けて FD 委員会は大きな役割を果たす予定である。</p> <p>学術セミナーについては、「両学科の互いの専門性を活用した共同研究の推進」(2020 年度大学運営基本方針)に沿うものとするために、両学科教員の活発な参加を促す。</p> <p>2) 欠席者の視聴用データ視聴率を高めるために、実効性のある改善策について検討する。</p> <p>3) 授業アンケートで「予習・復習など授業時間以外に学習をした」のスコアが低いことから、この項目で高いスコアの科目担当教員からスコア改善に役立つ情報を収集し、教員間で共有する必要がある。そのための方策について検討する。</p> <p>4) 授業アンケート回収率向上のために今年度に行った方策に加えて、次年度は新年度ガイダンスや定期試験の機会を利用して、授業アンケートの重要性を学生に理解させる方策を検討する。</p> <p>5) 次年度は、前期から授業見学を通年でできるようにする。見学できる科目数の増加についての検討、優れた授業を行っている教員を講師とする FD・SD 研修の実施に向けての検討を行う。</p> <p>6) 他大学との SD 共同開催の実施は、本学の「2020 年度大学運営に関する基本方針」でも述べられており、これまで以上の積極的な取り組みを行う必要がある。2020 年 9 月に予定されている北海道 FD・SD フォーラム(藤女子大学)の開催にあたり、本学は北海道地区 FD・SD 協議会幹事校の一つとして大きな役割を果たす。また、札幌大谷大学・札幌保健医療大学合同 SD 研修会の 2020 年度開催が決定されれば、本学の FD・SD 研修会との合同開催として事務部との連携のもとに実施にあたる。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 今年度テーマを「教育理念の浸透のために」とし、本学の教育理念である「豊かな感性」、「高潔な精神」、「確かな知力」、「他者との共存」に関する FD・SD 研修会を開催する。これらは前年度までの新人教育研修の内容を包含する講演とする。これに総務課主催のものを加えて、FD・</p>

	<p>SD 研修会は5回開催する。学術セミナーは3回開催し、栄養・看護・事務のそれぞれが推薦する講師に講演をお願いする。研修会・セミナーの開催にあたっては、教職員の出席率改善につながるよう開催日時について十分に検討する。</p> <p>2) 欠席者の視聴用データ視聴率向上のために、実効性のある改善策を検討する。</p> <p>3) 授業評価アンケートについては、「予習・復習など授業時間以外に学習をした」の質問で高いスコアを獲得した教員から有益な情報を収集し、教員間で共有する方策を検討する。</p> <p>4) 授業アンケート回収率向上のため、新年度ガイダンスや定期試験を利用して、教員から学生に向けて授業アンケートの重要性を説明する機会を作る。</p> <p>5) 授業見学は通年で行う。また、見学できる科目数の制限を外し、見学の機会を増やす。授業見学アンケートを通じて、優れた指導法を持つ教員の情報を収集し、教員間で共有する方策について検討する。</p> <p>6) 2020年9月予定の北海道FD・SDフォーラムで、本学は地区幹事校の責任を果たす。札幌大谷大学・札幌保健医療大学合同SD研修会の2020年度開催が決定されれば、事務部と連携して実施にあたる。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 委員会は10回開催し、第1回と第2回のみ対面で、第3回以降は新型コロナウイルス感染症予防のためメール会議となった。FD・SD研修会は「豊かな感性」、「高潔な精神」、「確かな知力」、「他者との共存」の4つの教育理念に関する講演会と、これに加えて「大学認証」に関する講演会の計5回開催した。学術セミナーは栄養、看護、事務から講師を推薦し計3回開催した。FD・SD研修及び学術セミナーの概要は以下のとおりである。</p> <p>(1) FD・SD研修会</p> <p>第1回：9月25日(金)16:30~17:30 テーマ：「豊かな感性と動機づけ」 講 師：栄養学科 教授 小島康次 形 式：リモート</p> <p>第2回：12月4日(金)16:30~17:30 テーマ：「他者との共存：異文化フィールドワーク研究紹介と人材育成」 講 師：北海道大学大学院保健科学研究院・人間文化研究機構総合地球環境学研究所 教授 山内太郎 形 式：リモート</p> <p>第3回：1月8日(金)16:30-17:30 テーマ：「高潔な精神」 *前年までの新人教育研修の内容を含む 講 師：看護学科 教授 稲葉佳江 形 式：リモート</p> <p>第4回：3月1日(水)16:00-17:00 テーマ：「確かな知力」 *前年までの新人教育研修の内容を含む 講 師：看護学科 教授 稲葉佳江 栄養学科 教授 久保ちづる 形 式：リモート</p>

第5回：3月16日(火)15:00-16:00

テーマ：「認証評価書作成のポイント」

講師：前学校法人日本医療大学 専務理事 黒澤勝昭

形式：対面

※例年、総務課主催の研修会は、札幌大谷大学合同開催 SD 研修会となるが、今年度はコロナ禍のため本学の単独開催となった。

(2) 学術セミナー

栄養・看護・事務推薦の講師により3回の講演会を開催した。新型コロナウイルス感染症予防のために全てリモート開催とした。

第1回：8月26日(水)16:50-17:50

テーマ：「あぶらの世界」

講師：栄養学科 講師 津久井隆行

形式：リモート

* コロナ禍により前年度から繰り延べて実施

第2回：9月24日(木)16:30-17:30

第一部：『科研費の事務手続き等について』

16:30~17:00 事務局総務課 主任 駒澤尚忠

第二部：『科研費の申請実例について』

17:00~17:30 看護学科 助教 網野真由美

形式：リモート

第3回：3月5日(金)10:00-11:00

テーマ：「高齢者の睡眠障害とケア」

講師：看護学科 教授 萩野悦子

形式：リモート

2) 欠席者の視聴用データ視聴率向上のために以下の活動を行った。リモート開催の研修会・学術セミナーに当日参加できなかった教職員のために、実施後1週間はオンデマンド視聴 (TEAMS 経由) を可能とした。オンデマンド視聴が可能となったことの視聴行動への影響を評価するために、研修会・セミナー実施後のアンケートは「当日視聴した」と「別の日に視聴した」を区別して集計・解析した。

3) 授業評価アンケートで、「予習・復習など授業時間以外に学習をした」の質問のスコアが低かった原因として、「課題学習」を含めることが回答用紙に明記されていないことが判明した。今年度は、これを明記することとし、その影響を今後観察することに方針を変更した。

4) 授業評価アンケートの回収率向上のために以下の活動を行った。

(1) アンケートの重要性を学生に理解させるために、看護と栄養の両学科において授業ガイダンスの時間等を利用して、アンケートの重要性の説明がなされ、アンケートへの協力を要請した。

(2) 前期授業は遠隔授業となったのでアンケート質問項目を見直した。まず、遠隔授業に対応した質問項目を増やした。また、看護学科の実習先施設についての質問項目を削除した。

(3) アンケート回収率向上のため、TEAMS 内で最終講義回に学生に対してアンケート提出を促す案内を出すように各科目担当教員に依頼した。案内されていない科目については、学務課で可能な限り案内を記載した。回収率の低い学年に対しては、学務課からチャットや TEAMS を介して回答を促した。

(4) 授業アンケート結果 (科目別・項目別平均点、経年変化グラフ、自由記載意見) は、科目担当教員に配布し、改善点・工夫点・その他の意見を回収して、「学生の授業評価アンケート結果及び学生の授業評

	<p>価に対する科目担当教員の改善点」として大学共有フォルダに保存した。冊子バージョンが完成次第に、教員が内容を確認しやすいように大学共有に保存する予定である。学生は大学ロビー・図書館で閲覧可能にする。</p> <p>5) 授業見学は、コロナ禍のために実施しなかった。</p> <p>6) 地区の大学との連携活動 2020年9月予定の北海道FD・SDフォーラムはコロナ禍により中止となった。例年行ってきた札幌大谷大学・札幌保健医療大学合同SD研修会も同様の理由で中止となった。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) FD・SD研修会、学術セミナーについて 本学創立後、一定の時を経て、教職員が改めて本学の4つの教育目標と大学認証の要件を確認し、深く学ぶ機会を作ることができた点は大きな意義があったと評価できる。研修会のなかに、前年度までの新人研修の内容を盛り込めた点は、教員の教育能力の向上に関して大きな意義があった。本学の2020年度大学運営基本方針「本学の教育理念と本学が求める教員像、3つのポリシー及び各学科の教育課程の理解を図る」、「両学科の教職員の一体化を図る」、「教育職員の恒常的な教育力向上」に沿った活動である点も評価できる。</p> <p>(1)FD・SD研修会 アンケートで「研修会が参考になった」「とても参考になった」、「参考になった」、「やや参考になった」の合計)と回答した参加者は、第1～5回の全回で100%と非常に高い評価を得たと評価している。多くの好意的な感想がアンケートに記されており、研修会が教職員の資質向上に役立っていると評価した。以下は感想の一部である。「アンダーマイニング効果を知り、やる気のない学生がどのような状況であるかを知る手がかりとなると感じた」(第1回)、「異文化フィールドで他者との共存を培っている内容が伝わってきました」(第2回)、「高潔な精神をどのようにとらえるのかの教員間の共通の認識をしっかりと持たなければ学生に4年間を通して伝わるものが曖昧になるのだと分かった」(第3回)、「学生は個人の成熟度が様々で、大学生活を通し倫理的葛藤を繰り返し看護者としての情緒的発達をしていることが理解できた」(第4回)、「本学にとって非常に重要な課題、それも早々に向き合う課題について身近に考えることができ、責任を感じるとともに緊張感が高まりました。」(第5回) 開催の時間については、4段階中の4(良かった)とするものが毎回もっとも多かった。研修会を遅くとも17時30分までに終了させるように設定したことが、多くの教職員から好感されたと評価した。 (資料:2020年度FD・SD研修会アンケート結果)</p> <p>(2)学術セミナー アンケートで「研修会が参考になった」「とても参考になった」、「参考になった」、「やや参考になった」の合計)と回答した参加者は第1～5回の全回平均92.7%で、高い評価を得たと評価している。参加者から前向きな感想が多く寄せられており、研修会が教職員の資質向上に役立っていると評価した。以下は感想の一部である。「あまり知識がない分野でしたが基本的な事柄や、具体的な研究についての話を聞くことができた」(第1回)、「一般的情報と個別の採択例のプレゼンがあるのはバランスの点でいいですね」(第2回)、「睡眠について整理されたお話しが伺え、看護の現場における睡眠の捉え方、工夫された研究手法などが特に興味深かった」(第3回)。学術セミナーは、学内共同研究の可能性を高め(第1回、第3回)、また、科研費申請のモチベーションを高めた点(第2回)で、2021年度大学運営基本方針に沿う貢献をしたと評価している。 開催の時間については、4段階中の4(良かった)とするものが毎回もっとも多く、勤務時間内に終了することが多くの教職員から高く</p>

評価されたと判断している。(資料：2020年度学術セミナーアンケート)

2) 欠席者の視聴用データ視聴率向上への取り組みについて

(1) FD・SD 研修会(第1～5回)の全視聴率は平均60%(教職員全体)、68%(教員のみ)であった。うち当日以外の視聴率は、24%(教職員全体)、29%(教員のみ)であり、これは教職員全体の視聴の40%、教員のみ視聴の43%に上った。この結果から、研修会実施後1週間はオンデマンド視聴(Teams経由)可能としたことが、欠席者に有効に利用されていると評価した。(資料：2020年度FD・SD研修会アンケート結果)

(2) 学術セミナー(第1～3回)の全視聴率平均は59%(教職員全体)、80%(教員のみ)であった。うち当日以外の視聴率は、20%(教職員全体)、29%(教員のみ)であり、これは教職員全体の視聴の34%、教員のみ視聴の40%に上った。学術セミナー実施後1週間はオンデマンド視聴(Teams経由)を可能としたことが、欠席者に有効活用されたと評価した。

(資料：2020年度学術セミナーアンケート)

3) 授業評価アンケート「予習・復習など授業時間以外に学習をした」の項目について

授業評価アンケートの「予習・復習など授業時間以外に学習をした」の項目に「課題学習」を含めることをアンケート用紙に学生に明示したことは、本項目の結果を正しく評価するうえで有意義だった。今後、本項目のスコアの変化を観察していく必要がある。

4) 授業評価アンケートの回収率向上について

(1) 学期冒頭のガイダンス時間に、教員から授業アンケートの重要性を学生に教える時間を設けたことは、学生の意識向上に有意義であったと考えている。また、回収率向上のために、FD委員と学務課が協力して粘り強く学生にアンケート提出の働きかけを行ったことは高く評価できる。

(2) 科目担当教員によるTeamsを介してのアンケート回収促進については、後期授業アンケートの回収率を見る限りではあまり機能していないと判断した。その根拠は、後期授業アンケート全体として回収率が前期に比べて著しく低かったことにある(看護：1年前期平均75.9%、後期平均42.8%；2年前期平均52.8%、後期平均20.9%；3年前期平均47.4%、後期平均29.2%；4年前期平均70.4%、後期平均52.5%)

(栄養：1年前期平均72.0%、後期平均34.7%；2年前期平均63.1%、後期平均38.9%；3年前期平均78.3%、後期平均58.1%；4年前期平均74.3%、後期平均72.0%)。特に1,2年次で、数%～10%台と回収率が非常に低い科目が両学科で散見された。それらの科目では、科目担当教員が最終講義回にアンケート提出を促していない場合があったが、科目担当教員が促している場合でも回収率が低い科目があった。

後期の回収率が低い背景として、遠隔授業が約1年間続いたことで大学の呼びかけに対する学生の反応性が低下している可能性がある。また、従来の対面授業のように授業終了時に学生が一斉に入力することがなくなったことも関係している可能性がある。現在、スマートフォンからの入力が可能である点に加えて、今年度は遠隔授業により自宅からの入力が可能となった。これにより回答方法の自由度が著しく増したが、これも低い回収率と関係している可能性がある。

(資料2020年度前期・後期授業評価アンケート)

5) 授業見学についてはコロナ禍のために実施しなかったため評価できない。

	<p>6) 地区の大学との連携活動について 2020年度の北海道FD・SDフォーラム及び札幌大谷大学・札幌保健医療大学合同SD研修会はコロナ禍により中止したので評価できない。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 本年度実施したFD・SD研修会・学術セミナーは一定の成果が得られたと評価している。次年度テーマは「With Corona and Beyond Corona」として、コロナ禍のなかで得た新しい教育経験・知見を集約し、そこから有用性の高い情報を抽出し、FD・SD活動のなかで共有することが望ましい。また、本学が発展を目指しているスポーツ栄養学に関して教職員の知識向上を図るため、専門家を招いてFD・SD研修会を開催することが望ましい。新人教育研修の内容をFD・SD研修会のなかにも含めることについて、次年度以降の在り方をFD委員会で継続して審議する必要がある。</p> <p>学術セミナーについては、「本学教員の一体化」(2021年度大学運営に関する基本方針)の観点から、今後も看護、栄養、事務の三部門から講師を選ぶ形を維持する。学術セミナー講師に対して「学内共同研究へ発展させるための提案」を求めることも検討したい。</p> <p>2) 研修会・セミナーへの出席率改善や欠席者の視聴用データ視聴率向上のために、次年度以降も一週間程度のオンデマンド視聴期間を設けることを継続する。研修会と学術セミナーの終了時刻は、勤務時間内に収めることを継続する。</p> <p>3) 授業評価アンケート「予習・復習など授業時間以外に学習をした」の項目について、スコアの変化を観察していく。必要に応じて、スコア改善の具体的な方策を検討する。</p> <p>4) アンケート回収率については、次年度は対面授業となる予定であるため改善が期待できるが、科目担当教員への働きかけの強化、学生への働きかけを最終講義回よりも早い回から開始して学生に複数回働きかけるなどの工夫が必要である。今年度はTeams学生掲示板にも回答のURLを掲載していたが、次年度の授業評価アンケートの回答については、他の通知に紛れることを防止するために、学生掲示板とは別にTeams「授業評価アンケート」を設けて、学生がいつでもすべての科目のURLを確認しやすくするなどの工夫を行う。授業アンケートの意義についてもTeamsに掲載することとする。</p> <p>5) 今年度実施できなかった授業見学は、次年度は通年で実施する予定であり、アンケートも実施する。もし次年度、遠隔授業が主体となる場合には、遠隔授業の授業見学について検討する。</p> <p>6) 北海道FD・SDフォーラムが開催される場合には、本学も貢献する。札幌大谷大学・札幌保健医療大学合同SD研修会など他大学とのSD共同開催についてはWeb開催も視野に入れて検討する(2021年度大学運営に関する基本方針)。</p>

2020年度 第1回FD・SD研修会 アンケート結果

開催日時	2020年9月25日(金)	16時30分～17時30分	開催形式	遠隔 オンデマンド				
テーマ	「豊かな感性と動機づけ」			看護学科	栄養学科	事務局	計	
講師	札幌保健医療大学 栄養学科 教授 小島 康次 先生			対象者	32名	21名	27名	80名
				当日視聴	8名	8名	3名	19名
				当日以外視聴	11名	6名	0名	17名
				視聴 計	19名	14名	3名	36名

当日出席率	24%	(80名中 19名)
当日以外視聴率	21%	(80名中 17名)
全視聴率	45%	(80名中 36名)

当日出席率 (教員のみ)	30%	(53名中 16名)
当日以外視聴率 (教員のみ)	32%	(53名中 17名)
全視聴率 (教員のみ)	62%	(53名中 33名)

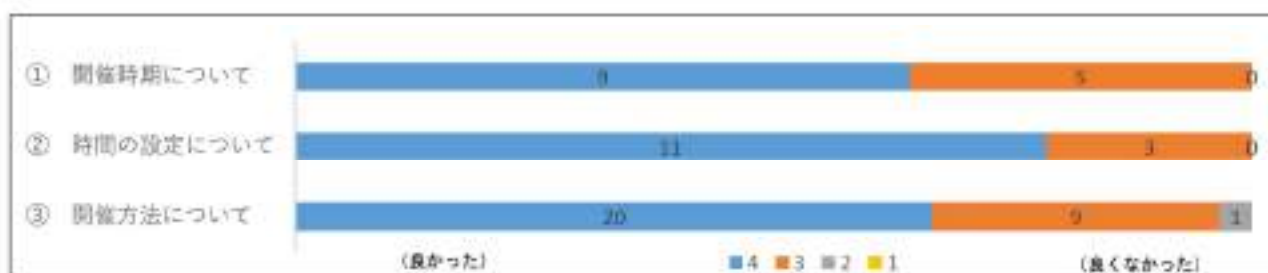
	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	28名	2名	30名	83%

視聴状況 (アンケート回答者の内訳)	回答数
① 開催日時12/4(金) 16:30～に視聴した	14
② 開催日時以外に視聴視聴した	16

当日以外で視聴した月日
9/26、27、28、29、30、 10/1、2、3、5、7、26、30

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	9	5	0	0
② 時間の設定について	11	3	0	0
③ 開催方法について	20	9	1	0

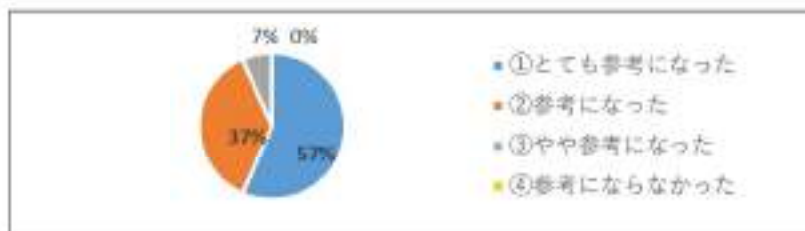
(当日視聴者のみ回答)
(当日視聴者のみ回答)
(全視聴者回答)



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	17
②参考になった	11
③やや参考になった	2
④参考にならなかった	0

回答計 30



2020年度 第2回FD・SD研修会 アンケート結果

2021年3月15日時点

開催日時	2020年12月4日(金)	16時30分～17時30分	開催形式	遠隔 オンデマンド			
テーマ：他者との共存 異文化フィールドワーク研究紹介と人材育成 講師：北海道大学大学院 保健科学研究院 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 教授 山内 太郎 氏				看護学科	栄養学科	事務局	計
			対象者	32名	21名	27名	80名
			当日視聴	8名	2名	5名	15名
			当日以外視聴	14名	12名	7名	33名
			視聴 計	22名	14名	12名	48名

当日出席率	19%	(80名中 15名)
当日以外視聴率	41%	(80名中 33名)
全視聴率	60%	(80名中 48名)

当日出席率 (教員のみ)	19%	(53名中 10名)
当日以外視聴率 (教員のみ)	49%	(53名中 26名)
全視聴率 (教員のみ)	68%	(53名中 36名)

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	33名	10名	43名	90%

※出席者foam (記名) の回答時に、教員と職員の選択を間違えている教員が3名いた (事務局で修正済)

視聴状況 (アンケート回答者の内訳)	回答数
① 開催日時12/4 (金) 16:30～に視聴した	13
② 開催日時以外に視聴視聴した	30

当日以外で視聴した月日
12/5、7、8、9、10、11、25

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	7	6	0	0
② 時間の設定について	10	3	0	0
③ 開催方法について	35	6	1	1

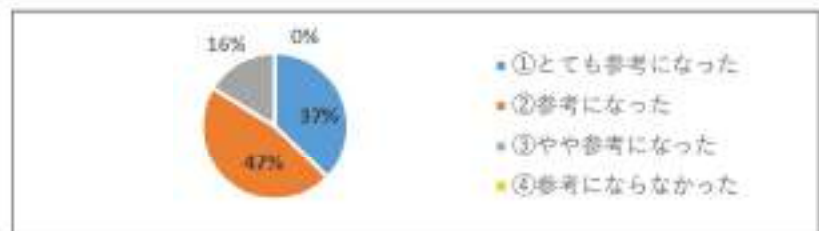
(当日視聴者のみ回答)
(当日視聴者のみ回答)
(全視聴者回答)



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	16
②参考になった	20
③やや参考になった	7
④参考にならなかった	0

回答計 43



2020年度 第3回FD・SD研修会 アンケート結果

2021年3月15日時点

開催日時	2021年1月8日(金)	16時30分～17時30分	開催形式	遠隔 オンデマンド			
テーマ：人間力教育と高潔な精神 講師：札幌保健医療大学 看護学科 教授 稲葉 佳江 先生				看護学科	栄養学科	事務局	計
			対象者	32名	21名	27名	80名
			当日視聴	16名	2名	9名	27名
			当日以外視聴	7名	12名	6名	25名
			視聴 計	23名	14名	15名	52名

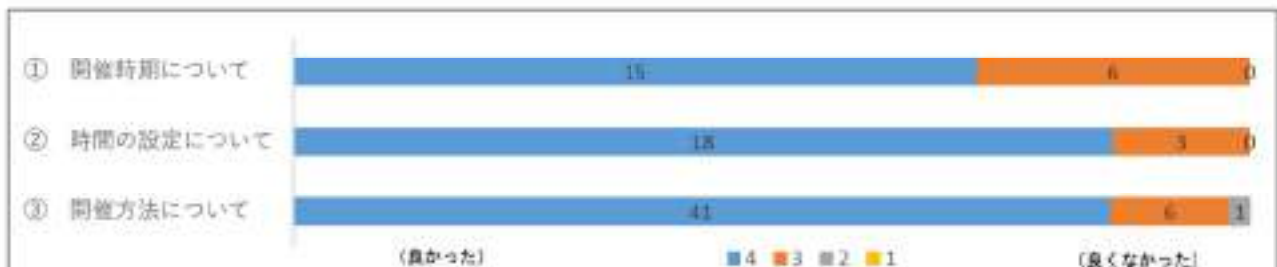
当日出席率	34%	(80名中 27名)	当日出席率 (教員のみ)	34%	(53名中 18名)
当日以外視聴率	31%	(80名中 25名)	当日以外視聴率 (教員のみ)	36%	(53名中 19名)
全視聴率	65%	(80名中 52名)	全視聴率 (教員のみ)	70%	(53名中 37名)

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	37名	11名	48名	92%

視聴状況 (アンケート回答者の内訳)	回答数
① 開催日時1/8(金) 16:30～に視聴した	21
② 開催日時以外に視聴視聴した	27

当日以外で視聴した月日
1/9、12、13、14、15、17、20、22

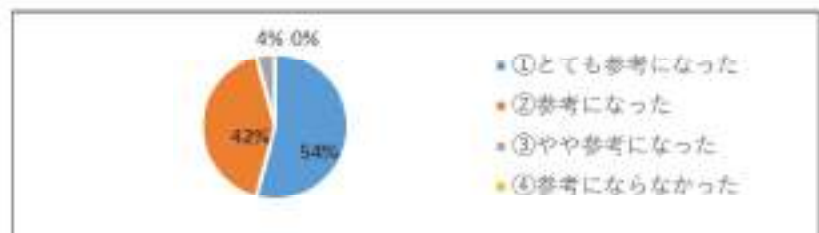
項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)	
① 開催時期について	15	6	0	0	(当日視聴者のみ回答)
② 時間の設定について	18	3	0	0	(当日視聴者のみ回答)
③ 開催方法について	41	6	1	0	(全視聴者回答)



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	26
②参考になった	20
③やや参考になった	2
④参考にならなかった	0

回答計 48



2020年度 第4回FD・SD研修会 アンケート結果

2021年3月15日時点

開催日時	2021年3月1日(月)	16時00分～17時30分	開催形式	遠隔 オンデマンド				
テーマ：確かな知力				看護学科	栄養学科	事務局	計	
講師：札幌保健医療大学 看護学科 教授 稲葉 佳江 先生 栄養学科 教授 久保 ちづる 先生				対象者	32名	21名	27名	80名
				当日視聴	14名	9名	4名	27名
				当日以外視聴	10名	4名	6名	20名
				視聴 計	24名	13名	10名	47名

当日出席率	34%	(80名中 27名)	当日出席率 (教員のみ)	43%	(53名中 23名)
当日以外視聴率	25%	(80名中 20名)	当日以外視聴率 (教員のみ)	26%	(53名中 14名)
全視聴率	59%	(80名中 47名)	全視聴率 (教員のみ)	70%	(53名中 37名)

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	30名	6名	36名	77%

視聴状況 (アンケート回答者の内訳)	回答数
① 開催日時3/1(月) 16:00～に視聴した	19
② 開催日時以外に視聴視聴した	17

当日以外で視聴した月日
3/2、4、5、6、7、8

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	14	5	0	0
② 時間の設定について	12	7	0	0
③ 開催方法について	27	8	1	0

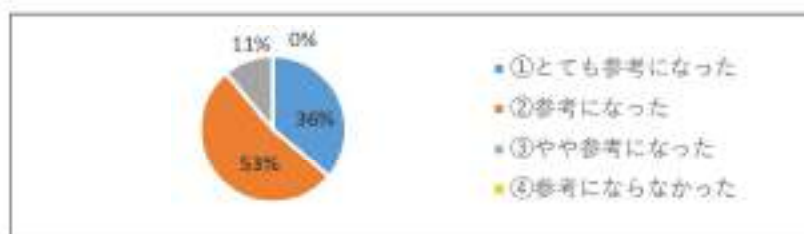
(当日視聴者のみ回答)
(当日視聴者のみ回答)
(全視聴者回答)



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	13
②参考になった	19
③やや参考になった	4
④参考にならなかった	0

回答計 36



2020年度 第5回FD・SD研修会 アンケート結果

2021年3月16日時点

開催日時	2021年3月16日(火)	15時00分～16時00分	開催形式	対面			
テーマ：「認証評価書作成のポイント」 講師：前学校法人日本医療大学 常務理事 黒澤勝昭氏				看護学科	栄養学科	事務局	計
			対象者	32名	21名	27名	80名
			当日出席	24名	13名	20名	57名
			後日視聴	0名	0名	0名	0名
			視聴 計	24名	13名	20名	57名

当日出席率	71%	(80名中 57名)
後日視聴	0%	(80名中 0名)
全視聴率	71%	(80名中 57名)

当日出席率 (教員のみ)	70%	(53名中 37名)
後日視聴 (教員のみ)	0%	(53名中 0名)
全視聴率 (教員のみ)	70%	(53名中 37名)

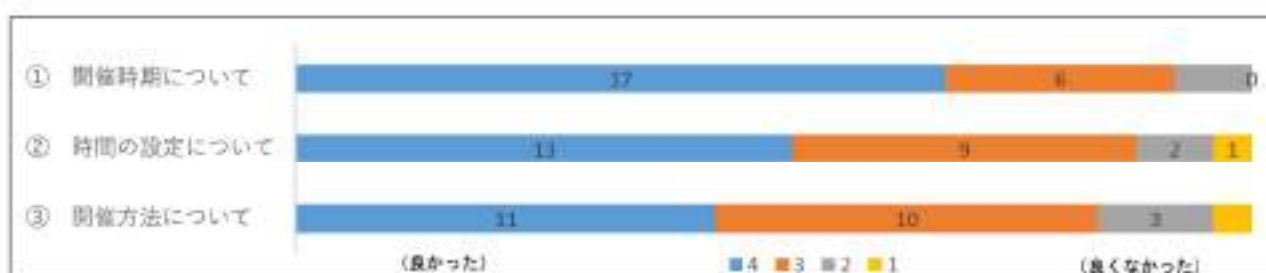
	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	17名	8名	25名	44%

視聴状況 (アンケート回答者の内訳)	回答数
① 開催日時3/16(火)に出席した(対面)	25
② 開催日時以外に視聴した	0

当日以外で視聴した月日

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	17	6	2	0
② 時間の設定について	13	9	2	1
③ 開催方法について	11	10	3	1

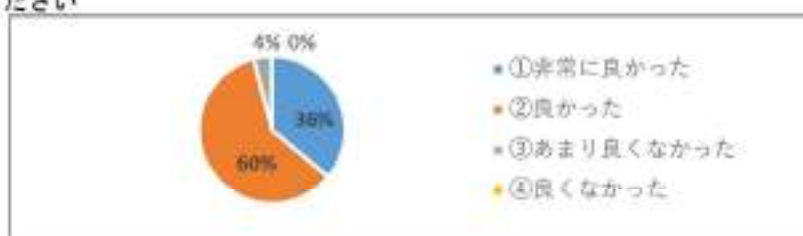
(当日視聴者のみ回答)
(当日視聴者のみ回答)
(全視聴者回答)



本日の研究会のテーマについて、お聞かせください

①非常に良かった	9
②良かった	15
③あまり良くなかった	1
④良くなかった	0

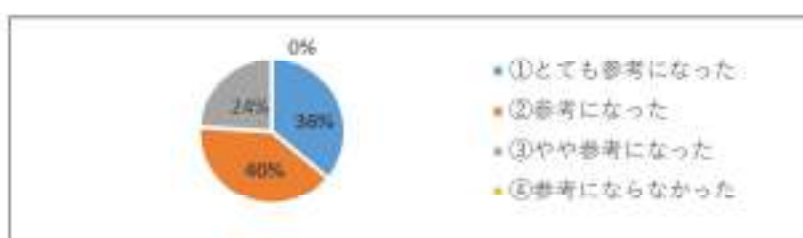
回答計 25



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	9
②参考になった	10
③やや参考になった	6
④参考にならなかった	0

回答計 25



2020年度 第1回学術セミナーアンケート結果

2021年3月15日時点

開催日時	2020年8月26日(水)	16時50分～17時50分	開催形式	遠隔 オンライン			
テーマ：あぶらの世界 講師：栄養学科 講師 津久井 隆行 先生				看護学科	栄養学科	事務局	計
			対象者	30名	21名	27名	78名
			オンライン参加	21名	11名	5名	37名
			録画視聴	3名	4名	1名	8名
			視聴 計	24名	15名	6名	45名

オンライン出席率	47%	(78名中 37名)
録画視聴率	10%	(78名中 8名)
全視聴率	58%	(78名中 45名)

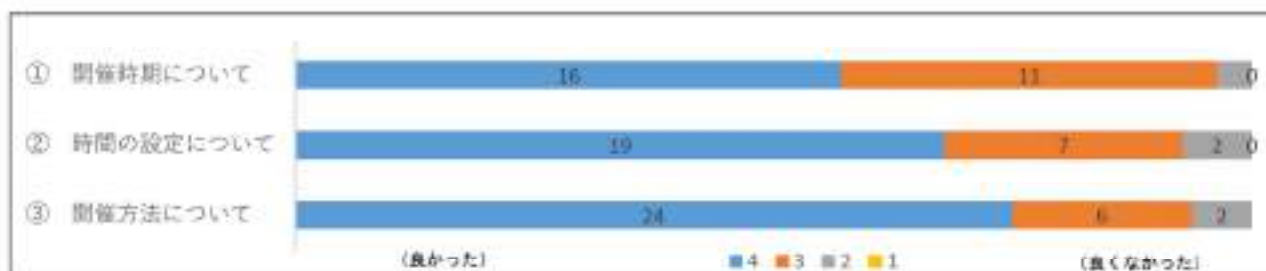
オンライン出席率 (教員のみ)	63%	(51名中 32名)
録画視聴率 (教員のみ)	14%	(51名中 7名)
全視聴率 (教員のみ)	76%	(51名中 39名)

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	30名	2名	32名	71%

視聴状況 (アンケート回答者の内訳)	回答数
① オンラインで参加した	28
② 録画 (オンデマンド) を視聴した	4

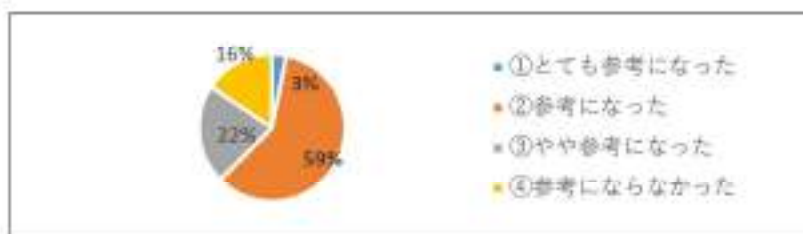
当日以外で視聴した月日
8/27、8/28、9/30

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)	
① 開催時期について	16	11	1	0	(オンライン参加者のみ回答)
② 時間の設定について	19	7	2	0	(オンライン参加者のみ回答)
③ 開催方法について	24	6	2	0	(全視聴者回答)



今後の研究の参考になりましたか。

①とても参考になった	1
②参考になった	19
③やや参考になった	7
④参考にならなかった	5



2020年度 第2回学術セミナーアンケート結果

2021年3月15日時点

開催日時	2020年9月24日(木)	16時30分～17時30分	開催形式	遠隔 オンデマンド			
テーマ：科研費について				看護学科	栄養学科	事務局	計
第一部			対象者	32名	21名	26名	79名
講師：総務課 主任 駒澤 尚忠 氏			当日視聴	13名	10名	3名	26名
第二部			録画視聴	19名	11名	1名	31名
講師：看護学科 助教 網野 真由美 先生			視聴 計	32名	21名	4名	57名

当日視聴率	33%	(79名中 26名)
後日視聴率	39%	(79名中 31名)
全視聴率	72%	(79名中 57名)

当日視聴率 (教員のみ)	43%	(53名中 23名)
後日視聴率 (教員のみ)	57%	(53名中 30名)
全視聴率 (教員のみ)	100%	(53名中 53名)

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	32名	3名	35名	61%

視聴状況 (アンケート回答者の内訳)	回答数
① 当日視聴した	20
② 後日視聴した	15

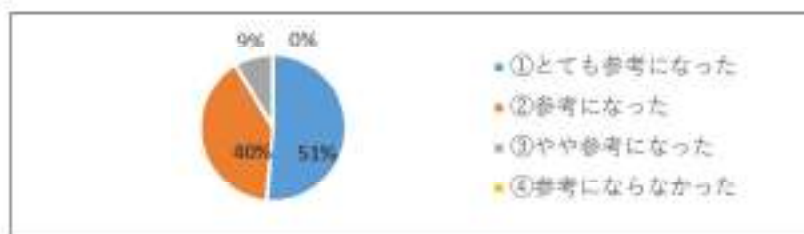
当日以外で視聴した月日
9/25、29、30、10/1、9、24、26、30

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	21	10	4	0
② 時間の設定について	18	11	6	0
③ 開催方法について	23	11	1	0



今後の研究の参考になりましたか。

①とても参考になった	18
②参考になった	14
③やや参考になった	3
④参考にならなかった	0



2020年度 第3回学術セミナーアンケート結果

2021年3月15日時点

開催日時	2021年3月5日(金)	10時00分～11時00分	開催形式	遠隔 オンデマンド			
テーマ：高齢者の睡眠障害とケア 講師：看護学科 教授 萩野 悦子 先生				看護学科	栄養学科	事務局	計
			対象者	32名	21名	26名	79名
			当日視聴	17名	9名	3名	29名
			録画視聴	5名	3名	0名	8名
			視聴 計	22名	12名	3名	37名

当日視聴率	37%	(79名中 29名)
後日視聴率	10%	(79名中 8名)
全視聴率	47%	(79名中 37名)

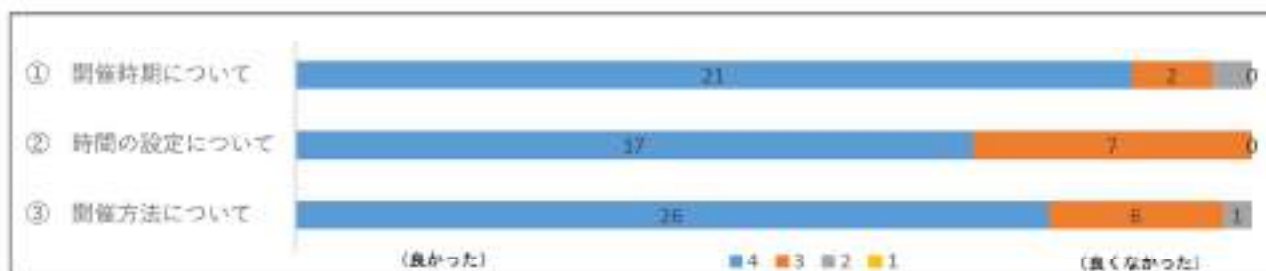
当日視聴率 (教員のみ)	49%	(53名中 26名)
後日視聴率 (教員のみ)	15%	(53名中 8名)
全視聴率 (教員のみ)	64%	(53名中 34名)

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	32名	1名	33名	89%

視聴状況 (アンケート回答者の内訳)	回答数
① 当日視聴した	24
② 後日視聴した	9

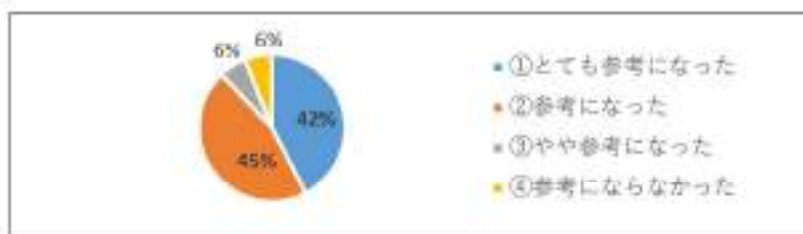
当日以外で視聴した月日
3/5、6、8、9、12

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	21	2	1	0
② 時間の設定について	17	7	0	0
③ 開催方法について	26	6	1	0



今後の研究の参考になりましたか。

①とても参考になった	14
②参考になった	15
③やや参考になった	2
④参考にならなかった	2



2020年度前期 授業評価アンケート科目・項目別平均点 【3年次】(実習科目を除く)

No.	授業科目 アンケート項目	看護学科										栄養学科										看護・栄養学科 全学年科目平均 (前期)		
		看護学科 (前期)										栄養学科 (前期)												
		疫学	成人看護学	高齢者看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	医療安全	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	看護学3 (前期)	看護学 (前期)	病態診療学Ⅱ	食品科学実験Ⅱ	応用栄養学Ⅲ	栄養教育論Ⅲ	栄養カウンセリング演習	食生活論	臨床栄養学Ⅱ	臨床栄養学Ⅰ	公衆栄養学Ⅰ		(今年演習Ⅰは後期に終了)	教育心理学
1	この授業に意欲的に取り組みましたか	3.4	3.5	3.7	3.5	3.3	3.6	3.4	3.7	3.51	3.56	3.6	3.9	3.6	3.7	3.9	3.2	3.5	3.8	3.8	3.7	3.66	3.53	3.54
2	この授業の予習・復習を行いましたか (授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む)	2.9	3.3	3.1	3.0	2.8	3.0	2.5	2.9	2.95	2.87	3.1	3.7	3.3	3.3	3.6	2.8	3.3	3.4	3.0	3.0	3.24	2.95	2.91
3	対面授業について質問します 自分の学習態度は良かったと思いませんか (例：私語をしない、遅刻しないなど)	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.6	3.9	3.73	3.81	3.9	4.0	3.8	4.0	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.91	3.77	3.79	
4	遠隔授業について質問します 自分の学習態度は良かったと思いませんか (遠隔：時間を守って学習したなど)	3.5	3.8	3.6	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.65	3.65	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.8	3.7	3.67	3.52	3.59
5	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバス または学習要項に基づいて行われましたか	3.7	3.4	3.5	3.4	3.3	3.5	3.5	3.7	3.48	3.59	3.7	3.9	3.5	3.8	3.8	3.5	3.6	3.3	3.6	3.7	3.63	3.55	3.57
6	対面授業について質問します 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	3.8	3.4	3.8	3.6	3.7	3.8	3.5	3.9	3.69	3.63	3.6	3.7	3.6	3.9	3.1	3.6	3.5	3.7	3.7	3.60	3.60	3.62	
7	遠隔授業について質問します 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか (音声が聞こえている場合、お答えください)	3.8	3.7	3.6	3.6	3.7	3.3	3.8	3.8	3.65	3.59	3.5	3.8	3.8	2.9	2.9	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.36	3.48	3.53
8	対面授業について質問します 授業やスクリン、パワーポイント、DVDなどは見やすかったですか	3.7	3.4	3.9	3.6	3.6	3.7	3.6	3.8	3.67	3.65	3.8	3.9	3.6	3.3	3.2	3.6	3.1	3.6	3.6	3.53	3.61	3.63	
9	遠隔授業について質問します 画面やダウンロードした資料は見やすかったですか	3.8	3.7	3.5	3.4	3.3	3.5	3.4	3.7	3.62	3.64	3.5	3.5	3.5	3.8	2.7	3.2	3.6	3.6	3.6	3.7	3.42	3.55	3.59
10	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いませんか (メールでの質問も含む)	3.6	3.2	3.7	3.3	3.4	3.7	3.4	3.5	3.47	3.49	3.6	4.0	3.4	3.8	3.6	3.4	3.3	3.9	3.9	3.0	3.51	3.49	3.49
11	授業の内容や要点はよく理解できましたか	3.3	3.0	3.6	3.4	3.3	3.5	3.4	3.6	3.37	3.39	3.2	3.9	3.3	3.3	3.8	2.7	3.3	3.0	3.3	3.0	3.28	3.32	3.35
12	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか (補助教材とは参考書やプリント(資料)など)	3.4	3.4	3.7	3.5	3.5	3.4	3.2	3.7	3.46	3.42	3.3	3.9	3.4	3.7	3.4	2.5	3.6	3.0	3.6	3.3	3.37	3.46	3.44
13	事前に授業のイメージができましたか (初回に提示された授業内容・配布された資料はわかりやすかったですか)	3.1	3.3	3.5	3.3	3.3	3.5	3.2	3.5	3.34	3.26	3.3	3.7	3.4	3.6	3.5	2.8	3.4	3.1	3.3	3.0	3.32	3.23	3.25
14	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	3.4	3.3	3.6	3.4	3.4	3.5	3.5	3.6	3.47	3.53	3.5	3.9	3.5	3.6	3.9	2.8	3.3	3.1	3.1	3.0	3.37	3.45	3.49
15	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思えましたか	3.1	3.1	3.6	3.3	3.3	3.6	3.3	3.4	3.35	3.35	3.2	3.7	3.2	3.1	3.5	2.5	3.2	3.0	3.0	3.0	3.12	3.31	3.33
16	対面授業について質問します この授業の教室の物的環境(温度・照明・換気など)は学習する上で適切だったと思いませんか	3.5	3.6	3.8	3.7	3.7	3.7	3.5	3.8	3.66	3.69	3.6	4.0	3.5	3.3	3.6	3.8	3.5	3.5	3.5	3.61	3.67	3.68	
17	遠隔授業について質問します 通信状況や受講環境(変換した自宅などの環境)は良かったと思いませんか	3.6	3.6	3.6	3.7	3.7	3.5	3.7	3.5	3.63	3.65	3.7	3.7	3.4	3.8	3.6	3.3	4.0	3.9	3.9	3.3	3.62	3.49	3.57
18	対面授業について質問します この授業の人的環境(学習する上で適切だったと思いませんか(人的環境とは私語・周囲の騒音など))	3.6	3.5	3.8	3.5	3.7	3.7	3.6	3.7	3.63	3.71	3.8	3.9	3.7	3.7	3.9	3.7	3.8	3.9	3.9	3.79	3.71	3.71	
19	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	3.5	3.3	3.8	3.4	3.4	3.6	3.3	3.6	3.49	3.48	3.4	3.9	3.4	3.5	3.6	2.7	3.3	3.1	3.4	3.0	3.32	3.44	3.46
	平均	3.5	3.4	3.7	3.5	3.5	3.6	3.4	3.6	3.51	3.51	3.5	3.9	3.5	3.6	3.7	3.1	3.4	3.5	3.5	3.3	3.49	3.46	3.48
	回収率	81.2%	23.1%	36.8%	30.8%	25.6%	33.3%	65.3%	83.3%	47.4%	64.1%	68.2%	71.4%	95.0%	80.0%	84.2%	65.0%	86.4%	72.7%	100%	60.0%	78.3%	70.2%	67.4%

※ 点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数点第2位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数点第3位以下四捨五入。回収率は、小数点第2位以下四捨五入。
★ ☆ 合向科目、学科別に集計。

2020年度前期 授業評価アンケート科目・項目別平均点【4年次】(実習科目を除く)

No.	授業科目 アンケート項目	看護学科										栄養学科						看護・栄養学科 (前均)全学年科目平均	
		保健医療福祉行政論Ⅱ	保健統計学Ⅱ	精神看護活動論Ⅱ	リハビリテーション看護論	がん看護論	クリティカル看護論	慢性看護論	終末期看護論	公衆衛生看護活動論Ⅲ	看護学科(前4期)学年科目平均	(保健医療福祉行政論Ⅱ)	食品栄養学Ⅰ	臨床栄養学Ⅳ	臨床栄養学Ⅲ	地域栄養活動演習	総合演習Ⅱ		栄養学科(前4期)学年科目平均
1	この授業に意欲的に取り組めましたか	3.1	3.2	3.6	3.4	3.6	3.5	3.3	3.9	4.0	3.52	3.56	3.0	3.7	3.9	3.7	3.4	3.54	3.54
2	この授業の予習・復習を行いましたか(授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む)	2.4	2.4	3.2	2.8	2.7	3.0	3.0	2.7	3.7	2.87	2.87	2.0	3.1	3.3	3.1	3.1	2.92	2.91
3	対面授業について質問します 自分の学習態度は良かったと思いますか (対面：私語をしない、遅刻しないなど)	3.7	3.6	3.8	3.8	3.8	3.9	3.5	3.9	4.0	3.78	3.81		3.9	3.9	3.7	3.9	3.85	3.79
4	遠隔授業について質問します 自分の学習態度は良かったと思いますか (遠隔：時間を守って学習したなど)	3.4	3.5	3.7	3.3	3.7	3.7	3.4	3.8	4.0	3.61	3.65	4.0	3.6		3.6	3.7	3.72	3.59
5	この授業は授業計画表により新たに示されたシラバスまたは学習事項に基づいて行われましたか	3.4	3.3	3.6	3.7	3.6	3.7	3.1	3.7	4.0	3.57	3.59	4.0	3.8	3.7	3.6	3.3	3.69	3.57
6	対面授業について質問します 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	3.3	3.6	3.9	3.1	3.8	3.7	3.5	3.8	4.0	3.62	3.63		3.8	3.9	3.9	3.9	3.88	3.62
7	遠隔授業について質問します 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか (音声がついている場合、お答えください)	2.5	3.5	3.8	3.8	3.5	3.8	3.3	3.3	4.0	3.50	3.59	4.0	4.0		3.6	3.8	3.85	3.48
8	対面授業について質問します 板書やスクリーン、パワーポイント、DVDなどは見やすかったですか	3.3	3.3	3.8	3.9	3.8	4.0	3.5	3.8	4.0	3.71	3.65		3.9	3.9	3.8	3.8	3.85	3.63
9	遠隔授業について質問します 画面やダウンロードした資料は見やすかったですか	2.8	3.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.4	3.7	4.0	3.54	3.64	4.0	3.8		3.6	3.8	3.79	3.59
10	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか(メールでの質問も含む)	2.9	3.6	3.6	3.9	3.8	3.8	3.2	3.7	4.0	3.60	3.49	4.0	3.9	3.8	3.6	3.8	3.82	3.49
11	授業の内容や要点はよく理解できましたか	2.8	2.9	3.5	3.7	3.6	3.6	3.1	3.7	4.0	3.42	3.39	4.0	3.8	3.8	3.6	3.6	3.75	3.35
12	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか(補助教材とは参考書やプリント(資料)など)	3.2	2.8	3.5	3.5	3.4	3.6	3.1	2.9	4.0	3.33	3.42	4.0	3.9	3.8	3.8	3.6	3.82	3.46
13	事前に授業のイメージができましたか (初回に提示された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか)	2.9	2.9	3.4	3.7	3.3	3.6	2.9	3.3	4.0	3.33	3.26	4.0	3.8	3.7	3.4	3.4	3.65	3.25
14	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	3.0	3.2	3.5	3.7	3.6	3.8	3.3	3.9	4.0	3.56	3.53	4.0	3.9	3.9	3.7	3.4	3.79	3.49
15	この授業によって、刺激を受けさらに学びを深めたいと思えましたか	2.6	2.6	3.4	3.8	3.5	3.7	3.1	3.7	4.0	3.37	3.35	4.0	3.9	3.8	3.6	3.4	3.74	3.33
16	対面授業について質問します この授業の教室の物的環境(温度・照明・換気など)は学習する上で適切だったと思いますか	3.5	3.7	3.6	3.7	3.7	3.6	3.5	3.7	4.0	3.67	3.69		3.9	3.9	3.8	3.7	3.83	3.68
17	遠隔授業について質問します 通信状況や受講環境(受講した自宅などの環境)は良かったと思いますか	3.3	3.4	3.6	3.4	3.6	3.7	3.3	3.5	4.0	3.55	3.65	4.0	3.6		3.7	3.7	3.75	3.49
18	対面授業について質問します この授業は学習する上で適切だったと思いますか(人的環境とは私語・周囲の騒音など)	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	3.9	3.4	3.8	4.0	3.71	3.71		3.9	3.9	3.8	3.7	3.82	3.71
19	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	2.7	3.1	3.7	3.8	3.6	3.7	3.0	3.7	4.0	3.46	3.48	4.0	4.0	3.9	3.7	3.4	3.80	3.46
平均		3.1	3.2	3.6	3.6	3.6	3.7	3.3	3.6	4.0	3.51	3.51	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.73	3.48
回収率		89.9%	54.5%	68.8%	92.3%	71.8%	75.0%	65.3%	89.7%	27.3%	64.1%	64.1%	25.0%	89.3%	100%	100%	57.1%	74.3%	70.2%

※ 点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数点第2位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数点第3位以下四捨五入。回収率は、小数点第2位以下四捨五入。
★ ☆ 合同科目、学科別に集計。

2020年度前期 実習評価アンケート科目・項目別平均点
【看護学科 前期 実習科目】

No.	授業科目 アンケート項目	1年次		4年次			4年次実習科目平均	前期実習科目平均
		看護基礎実習Ⅰ	精神看護実習	在宅看護実習	看護総合実習			
1	この実習に意欲的に取り組んだ	3.95	3.80	3.79	3.22	3.60	3.69	
2	実習期間中、予習・復習などの事前・事後学習をした	3.77	3.42	3.37	2.96	3.25	3.38	
3	自分の実習態度（挨拶・身だしなみ・言葉遣い・学習の取り組み）はよかった	3.86	3.75	3.75	3.74	3.75	3.78	
4	この実習では実習要項を活用した	3.82	3.62	3.69	3.22	3.51	3.59	
5	実習オリエンテーションはわかりやすく事前に実習のイメージができた	3.27	3.08	3.13	2.13	2.78	2.90	
6	教員の指導・助言は適切でわかりやすかった	3.74	3.83	3.75	2.26	3.28	3.40	
7	教員に質問や相談、援助を求めやすかった	3.58	3.82	3.65	2.43	3.30	3.37	
8	実習現場スタッフの指導・助言は適切でわかりやすかった							
9	実習現場スタッフに質問や相談、援助を求めやすかった							
10	この実習により看護への興味や関心を深めることができた	3.88	3.74	3.81	2.74	3.43	3.54	
11	この実習により実習目標に到達できた	3.53	3.51	3.44	2.91	3.29	3.35	
12	実習病院や病棟の環境（記録スペース・学生控室等）は学習する上で適切だった							
13	総合的に判断して、この実習は満足できるものだった	3.73	3.74	3.69	2.52	3.32	3.42	
	平均	3.71	3.63	3.61	2.81	3.35	3.44	
	回収率	67.6%	69.9%	55.9%	24.7%	50.2%	54.5%	

※ 点数は、4点を満点とし小数点第3位以下四捨五入。回収率は小数点第2位以下四捨五入。

	1年次		4年次		
	実看護 実習 I 基礎		実精神 実習 看護	実在宅 実習 看護	実看護 実習 総合
履修人数	108		93	93	93
回収数	73		65	52	23
回収率	67.6%		70%	56%	25%

2020年度後期・通年 授業評価アンケート科目・項目別平均点【2年次】(実習科目を除く)

No.	授業科目 アンケート項目	看護学科 授業科目										栄養学科 授業科目										看護学科 (後期・通年 科目平均)	栄養学科 (後期・通年 科目平均)	看護学科 (後期・通年 科目平均)	栄養学科 (後期・通年 科目平均)						
		★教育学	疾病治療論Ⅱ	社会福祉論	看護技術論Ⅲ	健康教育論	看護倫理	看護理論	成人看護活動論Ⅰ	成人看護活動論Ⅱ	高齢者看護活動論Ⅰ	小児看護活動論Ⅰ	母性看護活動論Ⅰ	家族看護論	看護学	看護学(後期・通年科目平均)	★教育学	健康管理概論	公衆衛生学実習Ⅱ	形態機能学実習Ⅱ	病態診療学Ⅰ	食品科学Ⅲ	応用栄養学Ⅱ	栄養教育論Ⅱ	臨床栄養学Ⅰ	給食経営管理論実習Ⅰ	講義特別指導	生後指導			
1	この授業に意図的に取り組みましたか	3.2	3.4	2.8	3.8	3.5	3.7	3.4	3.5	3.8	3.5	3.6	3.7	3.3	3.47	3.54	3.4	3.5	3.6	3.3	3.3	3.5	3.4	3.3	3.4	2.9	3.1	3.36	3.51	3.52	
2	この授業の予習・復習を行いましたか(授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む)	1.2	2.3	2.1	3.7	2.5	3.5	3.3	3.6	3.4	2.6	3.3	3.6	2.4	2.88	2.87	2.8	3.2	3.3	3.0	2.9	3.0	3.2	2.9	3.4	2.3	1.9	2.91	3.11	2.99	
3	対面授業について質問しましたか(例:私語をしない、遅刻しないなど)				3.8		3.7	3.9	3.7	3.8	3.9	3.9	3.9		3.81	3.74			3.8	3.7		3.8			3.4	3.4	3.6	3.61	3.73	3.73	
4	自分の学習態度は良かったと思いますか(速報:時間をうまく使ったなど)	3.3	3.5	3.6	3.6	3.6		3.7	3.7	3.8	3.7	3.8	3.6	3.6	3.65	3.67	3.5	3.8	3.8	3.5	3.2	3.5	3.7	3.4	3.7			3.56	3.64	3.66	
5	この授業は授業料面により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか	3.6	3.7	3.2	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	3.5	3.7	3.8	3.8	3.67	3.59	3.5	3.5	3.8	3.9	3.4	3.7	3.8	3.4	3.6	2.9	3.5	3.50	3.48	3.53	
6	対面授業について質問します(教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか)				3.8		3.6	3.8	3.6	3.8	3.8	3.5	3.8		3.69	3.66			3.5	3.6		3.8			2.9	2.1	2.99	3.41	3.52		
7	遠隔授業について質問します(教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか)	2.7	3.7	2.5	3.7	3.5		4.0	3.9	3.9	3.9	3.2	3.8	3.9	3.56	3.50	2.5	3.6	3.5	3.7	3.5	3.8	3.8	3.6	3.7			3.54	3.42	3.46	
8	対面授業について質問します(音声が聞こえていない場合、お答えください)				3.7		3.6	3.7	3.6	3.7	3.8	3.6	3.8		3.68	3.64			3.5	3.6		3.9			3.3	2.9	3.19	3.42	3.51		
9	遠隔授業について質問します(画面やウェブボードと資料は見やすかったですか)	3.4	4.0	3.0	3.8	3.7		4.0	3.9	3.6	3.7	3.5	3.8	3.8	3.68	3.60	3.0	3.5	3.5	3.7	3.7	3.8	3.7	3.4	3.8			3.55	3.55	3.58	
10	教員は学生の質問・意見に適切に対応していたと思いますか(メールでの質問も含む)	3.7	3.3	2.4	3.8	3.4	3.3	3.8	3.7	3.8	3.8	3.2	3.8	3.8	3.53	3.52	3.6	3.4	3.7	3.7	3.3	3.5	3.6	3.7	3.4	2.6	2.7	3.37	3.42	3.46	
11	授業の内容や進捗はよく理解できましたか	2.9	3.7	2.6	3.6	3.2	3.5	3.6	3.4	3.8	3.7	3.6	3.6	3.4	3.42	3.43	3.3	3.2	3.8	3.6	3.4	3.4	3.5	3.4	3.3	3.1	2.5	2.2	3.23	3.31	3.37
12	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか(補助教材とは参考書やプリント(資料)など)	3.6	3.7	2.9	3.7	3.4	3.6	3.6	3.6	3.4	3.6	3.5	3.7	3.5	3.53	3.49	3.3	3.2	3.8	3.7	3.6	3.6	3.8	3.6	3.4	3.5	3.1	3.4	3.50	3.46	3.47
13	事前に授業のイメージができましたか(事前に提示された授業内容・貼付された資料はわかりやすかったですか)	2.7	3.1	2.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.6	3.5	3.4	3.5	3.5	3.29	3.28	2.9	3.4	3.6	3.7	3.3	3.4	3.6	3.3	3.1	2.6	2.6	3.21	3.28	3.28	
14	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	3.5	3.6	2.9	3.8	3.4	3.7	3.6	3.7	3.7	3.5	3.6	3.7	3.5	3.55	3.56	3.3	3.6	3.7	3.6	3.4	3.5	3.8	3.5	3.4	3.5	3.0	3.1	3.44	3.44	3.49
15	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思えましたか	3.2	3.5	2.4	3.7	3.2	3.5	3.6	3.7	3.7	3.5	3.5	3.5	3.3	3.39	3.41	3.3	3.5	3.4	3.2	3.5	3.5	3.3	3.4	3.0	2.7	2.8	3.25	3.29	3.35	
16	対面授業について質問します(この授業の教室の物理的環境(温度・照明・換気など)は学習する上で適切だったと思いますか)				3.8		3.6	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8		3.71	3.74			3.6	3.9		3.9			3.5	3.0	2.9	3.46	3.53	3.62	
17	遠隔授業について質問します(通信状況や受講環境(受講した自宅などの環境)は良かったと思いますか)	3.3	3.9	3.8	3.8	3.3		3.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.8	3.8	3.70	3.68	3.9	3.8	3.9	3.7	3.8	3.8	3.8	3.5	3.8			3.77	3.60	3.64	
18	対面授業について質問します(この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか(人的環境とは私語・周囲の騒音など)				3.8		3.6	3.8	3.9	3.9	3.7	3.7	3.8		3.78	3.77			3.5	3.7		3.9			3.0	3.5	3.6	3.52	3.60	3.67	
19	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	3.6	3.6	2.6	3.8	3.2	3.7	3.4	3.6	3.8	3.6	3.3	3.6	3.7	3.49	3.54	3.3	3.5	3.7	3.7	3.5	3.3	3.7	3.4	3.4	2.9	2.6	3.31	3.38	3.46	
	平均	3.1	3.5	2.8	3.7	3.4	3.6	3.7	3.7	3.7	3.6	3.5	3.7	3.5	3.55	3.54	3.2	3.5	3.7	3.6	3.4	3.4	3.7	3.5	3.4	3.3	2.9	3.38	3.45	3.49	
	回収率	50.0%	12.9%	15.8%	32.0%	14.9%	19.8%	15.8%	18.3%	15.4%	10.1%	22.1%	20.8%	23.5%	20.9%	34.7%	23.5%	47.2%	30.8%	19.4%	33.3%	39.4%	44.4%	35.3%	38.9%	29.4%	68.8%	38.9%	42.2%	38.4%	

★ 点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数第2位以下四捨五入、回収率は、小数第2位以下四捨五入。

2020年度後期・通年 授業評価アンケート科目・項目別平均点 【4年次】(実習科目を除く)

No.	授業科目 アンケート項目	看護学科 授業科目					薬学学科 授業科目					看護学 (後期4年次科目平均)	薬学 (後期4年次科目平均)	看護学・薬学 (後期平均 連年科目平均)					
		★英語Ⅳ(総合)	★国文学と人間	★国際社会論	看護課題研究	看護国際看護論	看護総合演習	★英語Ⅳ(総合)	★国際社会論	★国文学と人間	管理栄養士総合演習				国際栄養学	栄養教育実習事前・事後指	職業実践演習		
1	この授業に意欲的に取り組めましたか	4.0	3.5	3.3	3.5	3.4	3.5	3.51	3.54	3.4	3.1	3.5	3.7	3.0	3.5	3.8	3.43	3.51	3.52
2	この授業の予習・復習を行いましたか (授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む)	3.0	2.0	2.8	3.5	3.4	3.4	3.00	2.87	2.7	2.6	3.2	3.3	3.3	3.5	3.1	3.10	3.11	2.99
3	対面授業について質問します 自分の学習進度は良かったと思いますか (対面：満足を感じない、選別しないなど)				3.7	4.0	3.6	3.78	3.74			3.6		3.4	3.8	3.8	3.64	3.73	3.73
4	遠隔授業について質問します 自分の学習進度は良かったと思いますか (遠隔：時間を守って学習したなど)	4.0	3.5	3.5	3.9	3.6	3.70	3.67	3.4	3.3	3.6	3.7	4.0	3.9	3.8	3.66	3.64	3.66	3.66
5	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバス または学習要項に基づいて行われましたか	3.0	2.5	3.3	3.2	3.6	2.9	3.07	3.59	3.4	2.9	3.5	4.0	3.4	3.3	3.5	3.43	3.48	3.53
6	対面授業について質問します 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか				3.4	3.8	3.0	3.40	3.66			3.6		3.4	3.8	3.6	3.61	3.41	3.52
7	遠隔授業について質問します 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか (音声がかかっている場合、お答えください)	2.0	1.5	2.8	3.4	3.0	2.54	3.50	3.7	2.4	3.4	3.3	4.0	4.0	3.8	3.51	3.42	3.46	3.46
8	対面授業について質問します 授業やスクリーン、パワーポイント、DVDなどは見やすかったですか				3.5	3.8	3.1	3.46	3.64			3.7		3.4	3.8	3.66	3.42	3.51	3.51
9	遠隔授業について質問します 画面やダウンロードした資料は見やすかったですか	3.0	2.0	4.0	3.5	2.6	3.02	3.60	3.8	3.4	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	3.6	3.76	3.55	3.58
10	教員は学生の質問・発言に適切に対応していたと思いますか (メールでの質問も含む)	4.0	2.0	3.5	3.4	3.2	2.4	3.07	3.52	3.3	2.4	3.6	3.7	3.4	3.3	3.6	3.33	3.42	3.46
11	授業の内容や要点はよく理解できましたか	4.0	3.0	2.8	3.5	3.6	2.8	3.28	3.43	3.1	3.0	3.2	3.7	4.0	3.3	3.5	3.39	3.31	3.37
12	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか (補助教材とは参考書やプリント(資料)など)	4.0	3.0	3.3	3.1	2.8	2.7	3.15	3.49	2.9	3.1	3.4	4.0	4.0	3.6	3.5	3.50	3.46	3.47
13	事前に授業のイメージができましたか 初回に提供された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか	4.0	1.5	2.3	2.8	2.8	2.6	2.66	3.28	3.2	2.7	3.1	3.7	3.7	3.1	3.4	3.28	3.28	3.28
14	この授業によって、知識が増え自分の考えを深めることができましたか	4.0	3.5	3.3	3.5	3.6	3.1	3.49	3.56	3.1	2.9	3.4	4.0	4.0	3.4	3.5	3.46	3.44	3.49
15	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いますか	4.0	3.0	3.3	3.1	3.4	2.9	3.28	3.41	2.9	3.0	3.2	4.0	4.0	3.4	3.3	3.39	3.29	3.35
16	対面授業について質問します この授業の教室の物理環境(温度・照明・換気など)は学習する上で適切だったと思いますか				3.5	4.0	3.1	3.55	3.74			3.8		3.4	3.8	3.5	3.61	3.53	3.62
17	遠隔授業について質問します 遠隔授業状況や受講環境(受講した自宅などの環境)は良かったと思いますか	4.0	3.5	3.0	3.5	3.2	3.43	3.68	3.7	3.4	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	3.6	3.75	3.60	3.64
18	対面授業について質問します この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか (人的環境とは教員・周囲の講師など)				3.6	4.0	3.2	3.58	3.77			3.8		3.4	3.8	3.6	3.64	3.60	3.67
19	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	4.0	3.5	3.3	3.4	3.6	2.8	3.41	3.54	3.1	3.0	3.2	4.0	4.0	3.4	3.5	3.46	3.38	3.46
平均		3.6	2.7	3.1	3.4	3.4	3.0	3.28	3.51	3.3	2.9	3.5	3.8	3.7	3.6	3.51	2.92	3.49	3.49
回収率		100.0%	66.7%	40.0%	35.5%	41.7%	31.2%	52.5%	56.9%	60.0%	100.0%	60.7%	50.0%	100.0%	66.7%	72.0%	46.7%	46.7%	36.4%

※ 点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数第3位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数第2位以下四捨五入。

★ 合算科目

【看護学科 実習科目】

No.	授業科目 アンケート項目	2年次		3年次					4年次			4年次実習科目平均	看護学科実習科目平均 後期・通年
		看護基礎実習Ⅱ	成人看護実習Ⅰ	成人看護実習Ⅱ	高齢者看護実習	小児看護実習	母性看護実習	3年次実習科目平均	公衆衛生看護実習Ⅰ	公衆衛生看護実習Ⅱ	公衆衛生看護実習Ⅲ		
1	この実習に意欲的に取り組んだ	3.93	3.71	3.88	3.94	3.70	3.91	3.83	4.00	4.00	4.00	4.00	3.90
2	実習期間中、予習・復習などの事前・事後学習をした	3.72	3.66	3.68	3.79	3.43	3.66	3.64	4.00	4.00	3.80	3.93	3.75
3	自分の実習態度（挨拶・身だしなみ・言葉遣い・学習の取り組み）はよかった	3.67	3.79	3.75	3.82	3.60	3.86	3.76	4.00	3.75	4.00	3.92	3.81
4	この実習では実習要項を活用した	3.63	3.68	3.70	3.74	3.53	3.51	3.63	4.00	4.00	4.00	4.00	3.76
5	実習オリエンテーションはわかりやすく事前に実習のイメージができた	3.02	3.21	3.15	3.81	3.09	3.71	3.40	3.25	3.50	2.80	3.18	3.28
6	教員の指導・助言は適切でわかりやすかった	3.74	3.26	3.23	3.97	3.47	3.89	3.56	4.00	4.00	4.00	4.00	3.73
7	教員に質問や相談、援助を求めやすかった	3.72	2.76	3.33	3.94	3.21	3.94	3.43	4.00	4.00	3.80	3.93	3.63
8	実習現場スタッフの指導・助言は適切でわかりやすかった												
9	実習現場スタッフに質問や相談、援助を求めやすかった												
10	この実習により看護への興味や関心を深めることができた	3.72	3.11	3.60	3.92	3.26	3.77	3.53	4.00	4.00	3.60	3.87	3.66
11	この実習により実習目標に到達できた	3.37	3.26	3.58	3.61	3.23	3.66	3.47	3.75	3.50	3.20	3.48	3.46
12	実習病院や病棟の環境（記録スペース・学生控室等）は学習する上で適切だった												
13	総合的に判断して、この実習は満足できるものだった	3.48	3.08	3.35	3.94	3.25	3.77	3.48	3.25	3.50	2.60	3.12	3.36
	平均	3.60	3.35	3.52	3.85	3.38	3.77	3.57	3.83	3.83	3.58	3.74	3.63
	回収率	67.6%	31.9%	33.3%	53.0%	45.7%	29.4%	38.7%	69.9%	55.9%	24.7%	50.2%	45.7%

※ 点数は、4点を満点とし小数点第3位以下四捨五入。回収率は小数点第2位以下四捨五入。

	1年次		2年次		3年次					4年次						4年次實習科目平均	
	看護基礎實習 I		看護基礎實習 II		成人看護實習 I	成人看護實習 II	高齢者看護實習	小児看護實習	母性看護實習	精神看護實習	在宅看護實習	看護総合實習	公衆衛生看護實習 I	公衆衛生看護實習 II	公衆衛生看護實習 III		
履修人数	108		100		119	120	117	116	119		93	93	11	11	11		
回収数	73		46		38	40	62	53	35		65	23	4	4	5		
回収率	67.6%		46.0%		31.9%	33.3%	53.0%	45.7%	29.4%		69.9%	24.7%	36.4%	36.4%	45.5%		44.8%

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	キャリア開発委員会
作成者	萩野 悦子

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 国家試験に向けた学修支援</p> <p>(1) 看護学科 これまで同様、キャリア開発委員会と看護課題研究担当教員との連携を密にし、学生個々への継続的支援を実施していくことが必要である。加えて学科全体で行う支援についてもより具体的なシステム作りが必要である。</p> <p>①業者補講、模試の内容の選定（当該学年の学修状況にあわせた） ②委員会と担当教員の情報共有 ③成績不振学生への支援体制の確立 ④低学年からの国家試験対策への意識の強化 ⑤国家試験不合格者への支援</p> <p>(2) 栄養学科 1～4 年次生への学生に、学生個々の学修状況に応じた学修計画を立案し、支援を行う</p> <p>①業者補講、模試の内容の選定（3・4 年次の学修状況にあわせた） ②国家試験学内模試の継続 ③模試受験後の補講継続 ④4 年次の成績不振学生への支援体制の確立 ⑤保護者との連携</p> <p>2) 適切な就職先を見つけるための支援活動</p> <p>(1) 看護学科 1 年次からのキャリア形成が継続されるよう、4 年次の担当教員と早期に面談し、支援することが必要。</p> <p>①学内就職説明会の継続（保健師・看護師） ②三職種講演会の継続 ③進路支援希望調査結果の把握と担当教員との連携 ④既卒生への再就職支援</p> <p>(2) 栄養学科 1～4 年次生の学年進行に伴い、キャリア形成が具体的に進むようにガイダンス、個別支援を充実させていく必要がある。</p> <p>①学内ガイダンス、業者ガイダンスの充実 ②個別の面談によるキャリア形成支援 ③インターンシップ、学外就職説明会などの推奨 ④4 年次の進路支援希望調査の実施</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 国家試験に向けた学修支援</p> <p>(1) キャリア支援室の活用（看）（栄） (2) 国家試験対策ガイダンスの実施（看）（栄） (3) 学年進行にあわせた模擬試験や補講の実施（看）（栄） (4) 保護者と連携した学修支援（看）（栄） (5) 視聴覚教材や WEB サービスの活用による学修支援（看） (6) 国家試験が不合格となった既卒生への対応（看） (7) 国家試験対策教員セミナーへの参加（看）</p>

	<p>2) 適切な就職・進学先を見つけるための支援活動</p> <p>(1) キャリア支援室の活用 (看) (栄)</p> <p>(2) ガイダンスによる支援 (看) (栄)</p> <p>(3) 職業観や専門職意識の育成を図る (看) (栄)</p> <p>(4) 業者による就職活動ガイダンスの実施 (看) (栄)</p> <p>(5) 学内就職説明会の実施 (看)</p> <p>(6) 進路希望調査の実施 (看) (栄)</p> <p>(7) 進学および就職に関する学校推薦選考基準の作成 (看) (栄)</p> <p>(8) 4年次就職・進学支援と状況把握報告 (看) (栄)</p> <p>(9) 保護者との連携・支援 (看) (栄)</p> <p>(10) 求職求人への来客対応 (看) (栄)</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のために、計画していた活動内容に変更が生じた。</p> <p>1) 国家試験に向けた学修支援</p> <p>看護学科は、年間活動計画に基づき下記の活動を実施した。委員会では、学年別に国家試験担当委員(4年次、1~3年次、保健師)を決め、学生の国家試験対策委員と連携して学修支援を行った。4年次は、昨年からの継続し看護課題研究担当教員との連携を強化した。</p> <p>栄養学科は、年間活動計画に基づき各学年へ管理栄養士国家試験への意識付け、知識の定着をねらい活動を実施した。</p> <p>(1) キャリア支援室の活用 (看) (栄)</p> <p>国家試験対策に関する情報提供、自己学修資料の提供、国家試験問題資料の提供、学外補講などの情報提供を行った。</p> <p>(2) 国家試験対策ガイダンスの実施 (看) (栄)</p> <p>4月のガイダンス時にそれぞれの学年に対し年間スケジュールに基づいた資料を作成し委員から説明した。</p> <p>①看護学科</p> <p>4年次に対しては4月ガイダンス以外にも、模試等の機会を利用して都度ガイダンスを実施した。</p> <p>3年次に対しては5月に外部講師を招いて、実習と国家試験学修のつながり等に関するガイダンスを計画していたが、新型コロナウイルス感染症対策のために中止した。</p> <p>1年次、2年次、3年次に対しては後期試験終了後に、領域別実習前の事前学修課題(春期休業中の課題)を配付し、春期休業中の学修や国試対策講座などのガイダンスを行った。保健師国家試験受験者に対してガイダンスを行った。</p> <p>②栄養学科</p> <p>4年次(編入4年次含む)および3年次(編入3年次含む)は、学期開始時のガイダンス(4月)を行った。</p> <p>2年次は、各学期開始時にガイダンスを行った。</p> <p>1年次は、8月に国家試験の概要と学修方法、過去問題の配付と夏期休業中の課題を説明した。学年末ガイダンス時には春期休業中の課題を説明し、新年度に行う国家試験模試の案内と低学年からの意識付けと学修支援を行った。</p> <p>(3) 学年進行にあわせた模擬試験や補講の実施 (看) (栄)</p> <p>①看護学科</p> <p>4年次に対しては模試・補講の結果はその都度学科会議で報告し、看護学科の教員全員が学生の学修状況を把握し、学生指導に活用できるように努めた。学修のタイミングに合わせて必修模試を2回、模試6回(うち1回無料分)を行い、その結果を委員会で把握するとともに、詳細な成績は各看護課題研究担当教員に配付し、学生個々の学修方法に合わせた指導を依頼し学修支援を行った。</p> <p>11・12月の模試成績結果を分析し、必修問題の得点が合格基準を満たしていない学生を対象に「強化クラス」を設け、必修問題対策</p>

と学修習慣の形成のために登校しての学修支援を行った。

4年次の業者による補講は、新型コロナウイルス感染症対策のため3年次3月末に開催中止になった国家試験ガイダンスと補講（さわ研究所）を5月にオンデマンド配信した。8月下旬には専門基礎補講（4コマ・さわ研究所）と専門基礎補講（8コマ・東京アカデミー）、10月末には専門補講（22コマ・東京アカデミー）を原則対面で行った。なお、2020年度は学内実習になったために例年とは開催時期が異なった。また、保健師選択学生は実習と重なったために、オンデマンドで視聴した。

保健師国家試験対策としては、業者模試を3回行った。専門基礎（疫学・保健統計等）、専門科目の補講を学内教員が担当し実施した。

3年次の後期は遠隔講義期間になっていたが、危機管理委員会に確認しながら、国家試験対策委員が2回の模擬試験を企画して学内で実施した。

2年次は、2月に低学年模試（メディックメディア）を企画したが、新型コロナウイルス感染症対策のために自宅受験に変更した。

①栄養学科

4年次に対しては模試の結果を学科会議で報告し、栄養学科教員全員が学生の学修状況を把握し、学生指導に活用できるように努めた。チューター制を導入し、学生のチューター（学科全教員が各々1～2名の学生を担当）は、模試の結果を参考に、個別面談を行いながら各学生に適した学修計画の添削や助言、学修方法の相談などを行った。

模擬試験は、7月から概ね月1回程度行い（業者：日本医歯薬研修協会、RDC、かんもし、東京アカデミー）、ほかにも模擬試験を希望する学生には業者模試の紹介をして自費で受験した。

国家試験対策講座（東京アカデミー・8月2日間、9月2日間、12月と2月は各1日）を行った。

模試の成績が基準に達していない学生に対しては「強化クラス」を設け、自己学修のための教室を確保し、授業の空き時間に自主的に学内で学修する習慣をつけられるように支援した。

3年次（編入3年次含む）および4年次（編入4年次含む）は、学期開始時のガイダンス（4月）に合わせて模擬試験を実施し、春期休業中の学修の成果を確認した。8月に業者による対策講座（東京アカデミー・2日間）を行った。業者模試を9月と1月（日本医歯薬研修協会）に行った。

2年次は、各学期開始時のガイダンス（4月、10月）に合わせて模擬試験を行い、休業中の学修の成果を確認した。

1年次は、後期開始ガイダンス時あわせて模試試験を実施した。

(4) 保護者と連携した学修支援

看護学科、栄養学科ともに例年11月の保護者懇談会にて、国家試験対策の概要を説明していたが、今年度は新型コロナ感染症対策のために中止した。

栄養学科では、4年次生の保護者に対し、郵送にて国家試験模試結果報告、国家試験に関するスケジュール、保護者から学生への支援等についての依頼を行った。

(5) 視聴覚教材やWEBサービスの活用による学修支援（看）

4年次に対して模試業者が提供している看護師・保健師国家試験アプリを利用して学修できるよう、適宜情報提供を行った。

3年次に対して国家試験対策委員が3回のDVD学修会を企画して実施した。3年次の後期は遠隔講義期間になっていたが、危機管理委員会に確認しながら対面で実施した。

教員むけには、医学書院が提供している「系統別看護師（保健師）

国試 WEB 法人サービス 看護師国家試験 WEB (教員用プラン)」を活用して、講義や看護課題研究担当学生への国家試験対策、強化クラスの際に国家試験の過去問題や予想問題を学生に出題した。

(6) 国家試験が不合格となった既卒生への対応 (看)

該当学生の看護課題研究担当教員と連携し、学修支援・就職支援を行った。

(7) 国家試験対策教員セミナーへの参加 (看)

業者が開催している教員対象の看護師国家試験対策セミナー (遠隔) に委員会メンバーが出席し、看護師国家試験新出題基準の傾向と対策についての情報収集を行った。またその内容を学科会議で報告した。

2) 適切な就職・進学先を見つけるための支援活動

(1) キャリア支援室の活用 (看) (栄)

新型コロナウイルス感染症対策のために休校期間中も、感染予防対策を取りながら、キャリア支援室では専任の担当者が就職活動についての相談業務、面接の練習や履歴書、小論文等について個別に学生対応を行った。また、両学科ともキャリア開発委員会の SharePoint を作成して学外からでも就職活動に必要な情報・資料を自由に閲覧できるように環境を整えた。

(2) ガイダンスによる支援 (看) (栄)

① 看護学科

1 年次には 4 月にキャリア開発委員会の役割機能についてガイダンスを行った。

2 年次には 4 月に「就職ガイダンス 2 年次用」リーフレットを用いてガイダンスを行った。

3 年次、4 年次に対しては「就職活動のてびき」を活用してガイダンスを行った。

② 栄養学科

1 年次には 4 月のガイダンスで「就職活動のてびき」を配布し、概要と 4 年間のスケジュールを中心にガイダンスを行った。

2~4 年次に対しては「就職活動のてびき」を活用してガイダンスを行った。

(3) 職業観や専門職意識の育成を図る (看) (栄)

① 看護学科

11 月に、1 年次を対象に専門職業人としての意識を涵養するために三職種講演を今年度は遠隔で行った。学生が身近な存在として考えられるように卒業生を招き新人看護師・助産師・保健師 (保健師のみオンデマンド配信) の講演会を実施した。

② 栄養学科

2 年次を対象に、病院、福祉施設、行政、委託給食会社など様々な場で活躍する管理栄養士から経験談を聞く機会 (遠隔講座) を設けた。

(4) 業者による就職活動ガイダンスの実施 (看) (栄)

① 看護学科

3 年次に対しては、5 月に業者による「就職・実習マナーガイダンス」は新型コロナウイルス感染症対策のために中止した。11 月には就職活動のスケジュール、就職先を決定するための考え方、面接マナーについてのガイダンスを遠隔で実施した。また、例年 12 月・1 月には志望理由書、自己 PR 文の対策講座を開催し、具体的な記載方法の説明、希望者に対しては個別の添削指導も行っていたが、今年度は 3 月中にオンデマンド配信に変更した。保健師志望学生の公務員試験対策として、例年 12 月に外部業者が実施していた公務員試験対策セミナーは、2 月下旬に遠隔で開催し、オンデマンド配信も行った。

	<p>②栄養学科</p> <p>1年次に対しては、1月にコミュニケーションガイダンス（札幌新卒応援ハローワーク）を実施した。</p> <p>2年次には、11月に、病院、福祉施設、行政、委託給食会社の各現場で働く管理栄養士等による遠隔講座を実施した。2、3年次に向けて12月に公務員・栄養教諭採用試験対策ガイダンス（東京アカデミー）を遠隔で実施した</p> <p>3年次には、4月に就活スタートアップ講座（リクルートキャリア）、10月にインターンシップについて（リクルートキャリア）、12月と2月にエントリーシート・履歴書の書き方（Ⅰ・Ⅱ）の講座（進路支援課）を対面で実施した。</p> <p>(5)学内就職説明会の実施（看）</p> <p>学生のキャリア形成の具現化と実習先施設への就職につなげるために、2018年度から実習病院を中心に学内就職説明会が開始され、今年度も11月に開催するための企画・準備を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大時期にあたり中止した。</p> <p>保健師についても、2019年度から保健師活動の実際を学び、就職活動に役立てることを目的に保健師就職説明会が開始され、今年度も5月に実施予定であったが、これも同様に中止した。</p> <p>(6)進路希望調査の実施（看）（栄）</p> <p>看護学科の3・4年次ならびに栄養学科の4年次を対象にガイダンス時に進路希望調査用紙を配布、回収、全体集計を行った。担任が進路指導に活用できるよう今年度の傾向を情報提供した。</p> <p>(7)進学および就職に関する学校推薦選考基準の作成（看）（栄）</p> <p>学校推薦枠がある進学先や就職先を希望する学生が、推薦枠を超えたことから、学内選考基準を作成した。学校推薦人数の上限がある募集と学校推薦人数の上限がない募集について、選考手順、選考基準、留意事項について定めた。</p> <p>(8)4年次就職・進学支援と状況把握報告（看）（栄）</p> <p>就職試験の受験報告書や進路決定届の提出状況を確認し、提出のない学生については、看護学科は看護課題研究担当教員と連携し、栄養学科は学担・チューターと連携して、学生の進学、就職状況について把握した。</p> <p>(9)保護者との連携・支援（看）（栄）</p> <p>例年11月の保護者懇談会にて、就職活動状況について説明していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のために中止した。</p> <p>(10)求職求人への来客対応（看）（栄）</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症対策のために来学者が減少し、道内外併せて看護学科22件、栄養学科10件であった。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 国家試験に向けた学修支援</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策のために中止や遠隔になったガイダンスがあったが、学科、学年に対しておおむね年間計画に従って学修支援を実施できた。学担との連携を強化し、Teams やメール、電話等を活用しながら学生の支援できたと考える。</p> <p>(1)キャリア支援室の活用（看）（栄）</p> <p>キャリア支援室にあるDVD や国試対策の書籍は、活用されていた。キャリア支援担当者が常に専任として運営することで、学生のニーズにタイムリーに対応できた。</p> <p>(2)国家試験対策ガイダンスの実施（看）（栄）</p> <p>①看護学科</p> <p>4年次は年度当初に看護課題研究担当教員との面談を行い、国試までの学修計画の立案等の支援により、学生の動機付けや学修計画の主体的な取り組みを促すことにつながった。</p> <p>低学年は、年度初めのガイダンスにより、学修への取り組みと国</p>

試対策について関連を知る機会となった。

①栄養学科

1～4年次へのガイダンスを新学期開始時、終了時の機会を捉えて行い、あわせて新学期開始時には国家試験模試も行ったことにより、当初、国家試験へ向かう姿勢が不十分だった学生でも、学年が上がるにつれ、少しずつ学修の必要性を感じ、学修方法が身につけてきた。

(3) 学年進行にあわせた模擬試験や補講の実施（看）（栄）

①看護学科

4年次の看護師国家試験模試は、5月から1月までに6回（うち1回無料分）実施した。1月の模試は東京アカデミー札幌校で受験した。国家試験会場のイメージや雰囲気を実感できる模擬試験であり、ほぼ全員が受験した。模擬試験結果や出席状況については適宜学科会議や個々の看護課題研究担当教員に連絡し個別の学修指導につなげるよう依頼した。

11・12月の模試成績結果を分析し、必修問題の得点が合格基準を満たしていない学生に対して「強化クラス」を設け、11月の模試結果の分析にて、12月中旬の時点で模擬試験の必修問題の得点が合格基準を満たしていない学生に対して「強化クラス」を設け、委員会と学科会議の承認を得て、強化クラスを追加計画し、2月1日まで平日に毎日実施した。キャリア開発委員会の他に、学科教員も毎日交代で担当することで、学生は様々な領域の教員から指導を受けることができた。毎日午前中は必修強化クラスに参加し午後はそのまま大学で学修と継続する学生もおり、学修時間を増やすことには一定の効果があった。

今年度は、強化クラスの参加で学修習慣が形成され必修問題の得点が合格基準に達した学生は自宅学修に切り替えたり、自宅の方が学修に集中できるとする学生には問題を配付したりといった方法も取り入れた。

保健師国家試験対策としては、業者模試を3回行った。専門基礎（疫学・保健統計等）、専門科目の補講を学内教員が担当し実施した。7月に専門基礎2コマと専門補講12コマ、9月中旬には専門補講3コマをすべて対面で行った。これにより、模擬試験の偏差値が上昇した。

3年次の模試試験は、国家試験対策委員が中心となり12月と2月に行った。12月はメディカコンクールの「解剖生理学・病態生理学」を50名が受験した。2月は学研「必修問題チャレンジテスト」をい、1回名51名、2回目57受験した。

2年次は、2月に低学年模試（メディックメディア）を企画したが、新型コロナウイルス感染症対策のために急遽自宅受験に変更した。申込者は45名で、マークシート返送者は19名だった。

3年次・2年次いずれも、いつどのような模試を受けるかを学年の意向をふまえながら選択しTeamsを用いて周知し、Formsを用いた受験希望者の集約、模試代金集金も委員が自主的に行った

4年次の業者補講は9月にさわ研究所による補講をオンデマンド配信で実施した。また、9～11月にかけては東京アカデミーによる対面形式の補講を実施した。参加した学生による補講内容の評価は概ね好評であった。

ただし、東京アカデミー補講の出席率は7割であったのに対して、さわ研究所の出席率は7～4割と回を重ねるごとに低下しており、オンデマンド配信だと出席率が低下することが考えられた。さらに、今年度は新型コロナウイルス感染症対策により実習の時期が変更となり、公衆衛生看護実習の期間と重なったことも出席率の低下に影響していた。

②栄養学科

4年次業者講座は、8月は3年次と同じ内容で行い、出席者は28名、9月は「社会・環境と健康」「公衆栄養」「臨床栄養」の内容で行い14名が出席、12月は「応用栄養」と「応用力問題」で27名が出席、2月は直前講習として全科目を行い25名が出席した。欠席学生には録画を配信し、視聴を促した。開催時期に適した科目を選択したことにより、弱点科目克服の一助となった。

3年次は8月に業者による対策講座（「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」「食べ物と健康」「基礎栄養」）を行い、出席者は21名であった。講座の内容は学年に即したものであった。

(4) 保護者と連携した学修支援（看）（栄）

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のために保護者懇談会が中止になった。

(5) 視聴覚教材やWEBサービスの活用による学修支援（看）

3年次に対してDVD視聴学修を行った。学生の国家試験対策委員が主になってDVD視聴学修スケジュールを調整し視聴計画を立てて実施した。委員の学生を中心に、連絡用チラシを作成しTeamsでの参加の呼びかけやFormsを用いて出席の確認も行った。12～1月は札幌市内の新型コロナウイルス感染症者数が多い時期であったが感染予防対策を行いながら3回実施した。参加者は1回目20名、2回目10名、3回目13名であった。出席した学生からは、DVDで学修したことが模擬試験に出た、大学で集中してDVDを見ると理解しやすい等有益であったとの評価であった。そのため、学修会以外にもDVDの視聴が可能という旨を3年次生に対してメールで情報を提供した。

医学書院が提供している「系統別看護師（保健師）国試WEB法人サービス 看護師国家試験WEB（教員用プラン）」の活用状況は、延べ128時間（4月～3月）、165回のアクセスがあった。強化クラスや看護課題研究担当学生の国家試験対策などを中心に活用していた。

保健師国家試験対策WEBサービス教員用は、延べ11時間（4月～3月）、46回のアクセスがあった。特に実習後、明確になった弱点科目の克服に活用し、基礎学力の定着につながった。

なお、教員用プランは今年度で廃止となり、2021年度から小規模プラン（同時アクセス数教員3台、学生3台）に契約変更となった。

(6) 国家試験が不合格となった既卒生への対応（看）

4年次に在籍した看護課題研究担当教員が窓口となって、国家試験再受験の意思確認、心理面のサポート、国家試験対策進捗状況を確認するために定期的に連絡を取った。

(7) 国家試験対策教員セミナーへの参加（看）

業者が開催している教員対象の看護師国家試験対策セミナー（東京アカデミー主催・遠隔）に、委員会メンバー2名が出席し、第109回看護師国家試験の傾向と対策についての情報収集を行った。またその内容を学科会議で資料を配付して報告した。看護課題研究担当学生への指導に役立つ知見を共有できた。

2) 適切な就職・進学先を見つけるための支援活動

(1) キャリア支援室の活用（看）（栄）

今年度は栄養学科が完成年度をむかえ、両学科の学生の面接練習や履歴書等の文書指導など個別対応件数が増加した。J-mottoのスケジュールに記録された内訳は、模擬面接の回数は254回、履歴書、小論文の添削指導は15回、進路相談は、44回だった。従来の対面式に加えて、今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策のためにWeb面接練習やメールによる添削も行い、遠隔での対応数は200件を超えた。その他DVD視聴や資料閲覧、国試対策学修についての対応は16回行った。

キャリア開発委員会のSharePointを作成したことで学外からでも

情報へアクセスしやすくなった。しかし、遠隔対応で急遽 SharePoint を導入したことから学生へのオリエンテーションが不足し、利用の仕方がわからない、うまく情報を探せないといった学生からの感想があった。

(2) ガイダンスによる支援（看）（栄）

4 年次、3 年次に対する「就職活動のてびき」を活用したガイダンスを前・後期に実施している。最近では就職活動の開始時期が早くなっている傾向があり、就職先が早期に決定されるケースが多い。しかし、自己の適正にあった就職先の選定が難しい学生や何を基準に就職先を選定すると良いのか迷うが学生もおり、今後もガイダンスを継続するとともに、学年担当教員、看護課題研究担当教員と連携しながら、適切な時期に必要な支援ができるように取り組む必要がある。

(3) 職業観や専門職意識の育成を図る（看）（栄）

① 看護学科

1 年次を対象に専門職業人としての意識を涵養するために、学生にとってより身近な存在である卒業生を招き三職種講演を今年度は平日に行った。今年度から全員本学の卒業生に講演を依頼することが出来た。大学生活の話を含め、具体的な講話内容であった。

オンライン配信のために出席者数は確定できなかったが、1 年次 78 名からアンケートの回答が得られた。「将来のイメージが少し具体的になった」「先輩方も進路に迷うこともあったと聞いて安心した」「いろいろな分野の話聞いて興味があった」などの感想があり参加者からの感想は概ね好評であった。質疑応答時に音声が入ることもあったため後日オンデマンド配信で対応した。

① 栄養学科

2 年次から病院、福祉施設、行政、委託給食会社など様々な場で活躍する管理栄養士業務について、実際に従事している方の話を聞く機会をもつことで、職業観や専門職意識の育成のきっかけを作ることが出来た。

(4) 業者による就職活動ガイダンスの実施（看）（栄）

① 看護学科

3 年次に対しては、5 月に業者による「就職・実習マナーガイダンス」は新型コロナウイルス感染症対策のために中止となった・11 月には就職活動のスケジュール、就職先を決定するための考え方、面接マナーについてのガイダンスを遠隔で実施した。遠隔のために出席者は確定できないが、アンケートは、3 年次 78 名、2 年次 1 名、1 年次 1 名から回答があった。アンケートの内容としては「今取り組むべきことが分かった」「自らインターネットで病院等の情報を調べて行動していかなければならない」「自己分析に早めに取り掛からなくてはならない」等おおむね好評であった。3 月 1 日から 3 月 31 日まで業者による「自己 PR 作成講座」・「WEB 面接対講座」をオンデマンド配信で実施しているが視聴数が少なく、実施方法を検討する必要がある。

公務員対策セミナーの出席者は 3 年次公衆衛生看護履修生 9 名中 8 名だった。参加した学生からは「初めて保健所・市町村の試験日程や内容を聞くことができ、とても参考になった」「問題解説がわかりやすかった」等、高評価であった。

② 栄養学科

1 年次を対象に、札幌新卒応援ハローワーク学生ジョブサポーターを講師に「コミュニケーション力を磨く」というテーマで対面によるガイダンスを行った(出席者 27 名)。2 年次対象に、福祉施設・行政・病院・委託給食会社によるガイダンス（遠隔）は、出席者が 32 名であった。2・3 年次生を対象に行った「公務員試験対策ガイダンス」の出席者は 15 名であった。3 年次を対象に行った「就活ス

	<p>「タートアップ講座」は出席者 19 名、「インターンシップについて」の出席者は 22 名、「エントリーシート・履歴書の書き方Ⅰ・Ⅱ」の出席者は各々 22 名、21 名であった。どのガイダンスも受講した学生からは、とても参考になり今後の就職準備活動に活用したいとの意見が多く聞かれていた。様々な就職先の存在を理解でき、自己のキャリア形成に繋げることができるガイダンスとなっていた。</p> <p>(5) 学内就職説明会の実施 (看) 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のために 5 日前に中止の判断をして関係機関に連絡した。 保健師就職説明会は新型コロナウイルス感染症対策のために中止となった。</p> <p>(6) 進路希望調査の実施 (看) (栄) 進路希望調査は、年度初めに実施した。看護学科 4 年次の中には、看護課題研究担当教員が決定した時には既に進路が決定している学生もいるが、両学科ともなかなか進路決定できずにいる学生や、決定後に変更となる場合もあるため、全員が進路決定できるまで担当教員が継続してサポートする必要がある。</p> <p>(7) 進学および就職に関する学校推薦選考基準の作成と適用 (看) (栄) 看護学科において、北海道教育大学函館校の学校推薦枠 2 名に対して 3 名の希望者があったことから、進学および就職に関する学校推薦選考基準に基づいて 2 名の学生を選考した。</p> <p>(8) 4 年次就職・進学支援と状況把握報告 (看) (栄) 看護学科では、就職試験の受験報告書や進路決定届の提出状況に大きな変化はなかった。両学科共に最終進路確認票が未提出の学生については、国試受験票配付日などの登校日にその場で記載してもらうなどにより、回収率が上昇した。</p> <p>(9) 保護者との連携・支援 (看) (栄) 今年度は新型コロナ感染症対策のために保護者懇談会が中止になった。</p> <p>(10) 求職求人への来客対応 (看) (栄) 昨年度同様、事務局を含めた委員会メンバーが交代で対応し、情報は委員会で共有した。看護学科では実習施設や卒業生が同行する訪問もあるため、学科会議にて来学予定施設 (者) について共有し、適宜関係者が対応するように調整した。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 国家試験に向けた学修支援</p> <p>(1) キャリア支援室の活用 (看) (栄) キャリア支援室にある DVD や国試対策の書籍の閲覧は次年度も継続する。キャリア支援室が 4 号館 2 階に移動したことを、4 月のガイダンス周知し活用されるようつなげていく。</p> <p>(2) 国家試験対策ガイダンスの実施 (看) (栄)</p> <p>① 看護学科 学期初めガイダンスは継続する。ただし、1 年次、2 年次、3 年次に対する事前学修課題 (春期休業中の課題) が演習・実習前課題の出題になっていることから、科目担当者とキャリア開発委員間でガイダンスの内容の整理が必要である。</p> <p>② 栄養学科 次年度も学生の学修状況を確認しながら、取り組み方法の改善、追加していく。</p> <p>(3) 学年進行にあわせた模擬試験や補講の実施 (看) (栄) 両学科とも今後も学担との連携を強化しながら、キャリア開発委員が担うべき成績不振者の国家試験対策について検討していく必要がある。また、国試対策委員を中心とした学生の主体的な国試対策の活動を 4 年次まで継続できるよう支援する必要がある。 看護学科の補講は、公衆衛生看護の履修生のスケジュールを把握し</p>

て日程調整を行うこと、出席率を上げるためには感染症予防対策を講じながら対面形式で開催できるよう調整する

(4) 保護者と連携した学修支援（看）（栄）

新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、可能であれば例年通り保護者懇談会にて4年次生の具体的な国家試験対策の現状、奨学金、国家試験対策、就職活動の現状、学修成績・実習成績と就職活動が密接に関連している事等を説明し、保護者と大学と連携して学修支援にあたることの重要性を説明する。

(5) 視聴覚教材やWEBサービスの活用による学修支援（看）

次年度も継続する。

(6) 国家試験が不合格となった既卒生への対応（看）

卒業直後の既卒生は比較的連絡が取れやすいが、数年経過した既卒生とは連絡がとれない例もあり、キャリア開発委員会として卒業何年間対応するか今後検討していく。

(7) 国家試験対策教員セミナーへの参加（看）

次年度も継続する。

2) 適切な就職・進学先を見つけるための支援活動

(1) キャリア支援室の活用（看）（栄）

両学科ともキャリア支援室が4号館2階に移動したことを「就職活動のてびき」に明記する、4月のガイダンスで周知することで活用されるようつなげていく。

次年度もSharePointを用いて求人情報や就職説明会、就職セミナーの情報を発信していく。今年度急遽SharePointを導入したが、学生から利用の仕方がわからない、うまく情報を探せないといった声が聞かれ有効に活用されなかったため、次年度の4月のガイダンスではSharePointの利用方法を周知していく。

(2) ガイダンスによる支援（看）（栄）

次年度も、ガイダンスを継続するとともに、学年担当教員、看護課題研究担当教員と連携していく。オンライン上でも「就職活動のてびき」を閲覧できるように電子ファイルでの掲示方法を検討する。

(3) 職業観や専門職意識の育成を図る（看）（栄）

次年度も継続する。

(4) 業者による就職活動ガイダンスの実施（看）（栄）

次年度以降も同様に計画し、学年進行にあわせて計画的に実施していく。

(5) 学内就職説明会の実施（看）

新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、可能であれば開催する。対面式と遠隔の混合など方法を工夫する。

(6) 進路希望調査の実施（看）（栄）

次年度も継続する。看護学科は3・4年次の4月に進路希望調査をしていたが、3年次生は未決定の学生がほとんどだったことから、今後は4年次4月のみ調査に変更する。

(7) 進学および就職に関する学校推薦選考基準の作成（看）（栄）

次年度も必要時、学校推薦選考基準を適用する。次年度は、学生の進路が明らかになる4月の時点で、学校推薦選考基準について教員に周知する。

(8) 4年次就職・進学支援と状況把握報告（看）（栄）

次年度も継続する。

(9) 保護者との連携・支援（看）（栄）

新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、可能であれば例年通り保護者懇談会にて4年次生の具体的な国家試験対策の現状、奨学金、国家試験対策、就職活動の現状、学修成績・実習成績と就職活動が密接に関連している事等を説明し、保護者と大学と連携して学修支援にあたることの重要性を説明する。

	(10) 求職求人の来客対応 (看) (栄) 次年度も継続する。
--	-------------------------------------

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	図書・紀要委員会
作成者	森山 隆則

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 各学科、学年にあわせた情報リテラシー教育支援を継続して実施する。 2) 蔵書構成および利用率等を勘案し適切な選書を行う。また、蔵書の収容能力に限界があるため電子資料の収集や書庫の整備等、書架の狭隘化対策を検討する。 3) 図書購入費を充実させるため外部資金獲得に向けて情報収集に努める。 4) 後援会の学修助成費を活用して実施する「ブックハンティング」「図書リクエストキャンペーン」を継続して実施する。また、参加者を増やすため広報活動等を検討する。 5) 図書館を利用する上でのマナーや著作権遵守の啓発活動を継続的に実施する。また、近年は館内での飲水を認める傾向にある等、従来とは状況が変わってきているため利用上のマナーについては見直しを検討する。 6) 紀要の安定した刊行を継続する。

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 各学科、学年にあわせた情報リテラシー教育を行う等、学生支援を充実させ図書館の利用を促進する。 2) 栄養学科の基本計画書に掲げる所蔵数等を目標とし図書等資料の整備を進める。資料整備にあたっては、利用率や蔵書構成を意識し適切な選書を行う。特に新型コロナウイルス感染症拡大に伴う登校制限により図書館を自由に利用できない状況が継続すると予想されるため、これまで以上に電子資料の収集および活用を図る。この他、書架の狭隘化対策として紛失図書等の除籍処理を計画的に実施する。 3) 図書購入費の補充を図るため外部資金獲得に向けて情報収集に努める。 4) 新型コロナウイルス感染症拡大により例年開催している「ブックハンティング」は実施困難と考えられることから、後援会の学修助成費について新たな活用方法を検討し学生の読書環境の充実を図るとともに読書推進のための活動を行う。 5) 図書館を利用する上でのマナーや著作権遵守の啓発活動を継続的に実施するとともに、利用上のマナーについて見直しを検討する。 6) 本学における教育の向上と研究の推進並びにそれらの成果を発表する場を提供することを目的として、札幌保健医療大学紀要第7巻の刊行を目標とする。
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 各学科、学年にあわせた内容でガイダンス及び講義を実施した。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護学科・栄養学科1年次生 <ol style="list-style-type: none"> ① 図書館の利用方法 (2020/4/8・9) 前期ガイダンス期間に、図書館の利用方法及び情報リテラシーと大学図書館に関するDVDの視聴(60分)、図書館見学(30分)の内容でガイダンスを実施した。 ② 資料の探し方 (2020/5/20 実施) 講義「学びの理解」において、資料の探し方についてオンライン

で講義（1コマ）を実施した。講義では、目的の資料を探せるようになることを目標として、図書館資料の種類、自館の資料の探し方（図書の種類と請求記号、OPACの使い方と検索結果の見かた）、他館の資料の探し方・利用方法（CiNii Books、ILL等）、電子書籍（Maruzen eBook Library）の利用方法について説明した。また、Formsを利用して講義内容の理解度を確認する課題及び講義内容に関するアンケートを実施した。

(2) 看護学科3年次生（2020/11/6実施）

「看護学研究法」で、文献検索について演習形式の講義（1コマ）を実施した。講義では、医中誌Webを使った文献検索について理解し、実際に文献を入手できるようになることを目標として、資料の種類と調べ方、各種文献検索データベースの概要、医中誌Webを使った文献検索および文献の入手方法について説明した。また、講義内容に関するアンケートを実施した。

(3) 栄養学科3年次生（2020/10/23実施）

「英語文献講読演習」で、文献検索について演習形式の講義（1コマ）を実施した。講義では、文献検索データベースを使った文献検索について理解し、実際に文献を入手できるようになることを目標として、資料の種類と調べ方、各種文献検索データベースの概要、医中誌WebおよびPubMedを使った文献検索および文献の入手方法について説明した。また、講義内容に関するアンケートを実施した。

2) 今年度は教員による図書選定を2回実施した他、学生からのリクエスト、継続購入図書（主に参考図書）、シラバス掲載の教科書・参考書等の受入、また冊子体購入費用とは別に電子書籍購入費用を予算計上し電子書籍を受入した。教員による図書選定では、電子コンテンツの充実を図るため選書を依頼する際、和書について「Maruzen eBook Library」で購入可能なタイトルは電子書籍を優先的に購入することとした。

また、書架の狭隘化対策として保健看護大学校からの転用図書で紛失してから複数年経過している図書165冊（1,271,712円）について除籍処理を行う予定であったが、会計との調整がつかず次年度へ持ち越すこととなった。

3) 法人担当部署に該当の通知が届いた際にはメールを転送してもらうようにした。また、書店から情報収集を行った。私立大学等研究設備整備費等補助金について、令和3年度までに事業に着手する分の実施計画調査が6月及び12月にあったため、これに研究装置『電子書籍「栄養学コレクション」』を要望する旨の回答を提出した。

4) 年度当初、新型コロナウイルス感染症対策のため後援会からの補助（学修助成費）金額が確定しなかったこと、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う安全面等を考慮した結果、例年開催している「ブックハンティング」は開催しないこととした。その後、学修助成費の金額が確定したことからブックハンティングに代わる活用方法を検討した結果、学外からアクセス可能な小説やレシピ本等の一般図書が収載されている電子図書館システムを導入することとした。導入した電子図書館システムは、名称を「札幌保健医療大学 Digital Library 後援会文庫」（以下、後援会文庫。）として2020年11月12日から利用を開始した。

また、学生の読書への興味、関心を喚起するため企画展示の実施や資料を紹介するポスター等を作成し学内に掲示した。

【企画展示・資料紹介】

4月：本屋大賞受賞作品コーナー及び感染症関連図書コーナー設置

6月：新型コロナウイルス感染症関連図書紹介

7月：医療コミックランキング紹介

8月：「はたらく細胞」特集コーナー設置（コミック・DVD）

10月：「沖田×華」特集コーナー設置

12月：映像化図書紹介コーナー設置（継続展示中）

	<p>1月：本屋大賞ノンフィクション大賞紹介 2月：本屋大賞ノミネート作品紹介</p> <p>5) 学生便覧および図書館利用案内に利用上の注意事項、著作権について掲載しガイダンスで周知した。また、新型コロナウイルス感染症に対応して変更した利用方法等について周知及び注意喚起を行った。</p> <p>6) 投稿予定エントリーシートの締切りを2020年10月5日までとし投稿を募った。エントリーの周知を徹底するため教授会での委員会報告や学科会議、メールでの全体通知を行った。その結果、7編のエントリーがあった。原稿締切りは、2020年11月13日とした。一部、提出が遅れたものもあったが1月末にはすべての原稿が提出された。査読は、執筆者からの推薦を考慮しつつ1論文につき2名の査読者を委員長が選定、依頼を行った。現在、2021年3月末の刊行に向けて作業を進めている。</p>																		
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 各学科、学年にあわせた内容でガイダンス及び講義を実施したことは評価できる。(別添資料参照)</p> <p>(1) 看護学科・栄養学科1年次生 ガイダンス及び講義をとおして、大学での学びにおける図書館の有用性や図書館の利用方法について説明した。②資料の探し方で実施した課題の回答から、説明内容については概ね理解されたと思われる。また、受講アンケートで「図書館に興味を持った」と回答する学生が多くいることから、今後の利用を喚起するものとなったと考える。</p> <p>(2) 看護学科3年次生 昨年度は受講アンケートの回答数が2件であったが、今年度は受講アンケートの回答をもって出席としたため回答数は100件となった。回答内容は、全ての質問項目(資料及び説明のわかりやすさ、文献検索及び文献の入手方法の理解、全体的な内容の難易度)において高評価であった。</p> <p>(3) 栄養学科3年次生 「英語文献講読演習」は、選択科目であり履修登録者7名(当日出席者7名)、アンケートの回答数が4件であった。回答内容は、全ての質問項目(資料及び説明のわかりやすさ、文献検索及び文献の入手方法の理解、全体的な内容の難易度)において高評価であった。受講者からは、「論文を検索することに関して非常に役立つ講義だったと思う」、「具体的な検索方法について様々なサイトを知ることができ勉強になった」との感想があり、今後は同講義を履修していない学生が同様の知識を得られる機会を提供することが課題である。</p> <p>2) 図書館資料は、順調に蔵書を増やすことができたことは評価できる。2021年3月31日現在の蔵書数は以下のとおり。</p> <table border="0"> <tr> <td>【図書】</td> <td>34,041冊(和33,108冊、洋933冊)</td> </tr> <tr> <td>【製本雑誌】</td> <td>2,029冊(和1,981冊、洋48冊)</td> </tr> <tr> <td>【電子書籍】</td> <td>777点(和777点)</td> </tr> <tr> <td>【学術雑誌】</td> <td>228種(和209種、洋19種)</td> </tr> <tr> <td>【電子ジャーナル】</td> <td>66種(和1種、洋65種)</td> </tr> <tr> <td>【視聴覚資料】</td> <td>1,143点(和洋区分なし)</td> </tr> </table> <p>また、開学以来初の大量除籍を行う予定であったが達成できず、関係部署との連絡調整に課題が残る結果となった。</p> <p>3) 実施計画調査における回答の有無が採択の取り扱いに係ることから、本調査に回答したことは評価できる。</p> <p>4) 後援会の学修助成費が確定した10月に電子図書館システムの導入を決定し、そこから購入タイトルの選定、名称決定、画面レイアウトのデザイン作成等の準備を行い約1ヶ月で利用開始した。利用状況は以下のとおり(2020/11/12~2021/3/4)。</p> <table border="0"> <tr> <td>【総ログイン回数】</td> <td>105回</td> </tr> <tr> <td>【閲覧回数】</td> <td>94回</td> </tr> <tr> <td>【貸出回数】</td> <td>34回</td> </tr> </table>	【図書】	34,041冊(和33,108冊、洋933冊)	【製本雑誌】	2,029冊(和1,981冊、洋48冊)	【電子書籍】	777点(和777点)	【学術雑誌】	228種(和209種、洋19種)	【電子ジャーナル】	66種(和1種、洋65種)	【視聴覚資料】	1,143点(和洋区分なし)	【総ログイン回数】	105回	【閲覧回数】	94回	【貸出回数】	34回
【図書】	34,041冊(和33,108冊、洋933冊)																		
【製本雑誌】	2,029冊(和1,981冊、洋48冊)																		
【電子書籍】	777点(和777点)																		
【学術雑誌】	228種(和209種、洋19種)																		
【電子ジャーナル】	66種(和1種、洋65種)																		
【視聴覚資料】	1,143点(和洋区分なし)																		
【総ログイン回数】	105回																		
【閲覧回数】	94回																		
【貸出回数】	34回																		

	<p>【利用人数】 26人</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により登校禁止の措置や登校制限があり図書館の利用は全体的に減少したが、学生の読書への興味や関心を引き出すような活動や電子コンテンツの充実を図る等、読書を推進する活動を行ったことは評価できる。</p> <p>5) 図書館の利用マナー及び著作権の遵守、新型コロナウイルス感染症に対応して変更した利用方法について、ガイダンスや館内掲示、口頭での注意喚起等を適時実施できているが、依然として注意することがなくなるわけでないため継続して注意喚起を行っていく必要がある。なお、利用上のマナーの見直しについては、館内での飲水に関してルールの見直しを考えていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により状況が変わったことから検討を保留した。</p> <p>6) 年度当初予定したスケジュールで概ね進行できた。年度内に第7巻発行にかかわる作業を終了したことは紀要発行の継続性から評価できる。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 各学科、学年にあわせて情報リテラシー教育を行う等、図書館の利用を促進する活動を継続する。</p> <p>2) 蔵書構成および利用率等を勘案し適切な選書を行う。また、蔵書の収容能力に限界があるため電子資料の収集及び書庫の整備を継続する。書架の狭隘化対策として計画的に除籍処理を行う。</p> <p>3) 図書購入費を充実させるため外部資金獲得に向けて情報収集に努める。</p> <p>4) 後援会の学修助成費を活用して実施する「ブックハンティング」「図書リクエストキャンペーン」の再開を検討する等、学生の読書環境の充実及び読書推進のための活動を行う。</p> <p>5) 図書館を利用する上でのマナーや著作権遵守の啓発活動を継続的に実施する。</p> <p>6) 紀要の安定した刊行を継続する。また、電子媒体での公開を検討する。</p>

学びの理解 第3回「資料の探し方」 課題回答 集計結果

1. OPAC では、どんなことができますか？（複数回答可）

	看護	栄養	%
正解	104	45	81.3
不正解	29	8	22.8
未回答	1	0	0.5

2. CiNii Books では、どんなことができますか？（複数回答可）

	看護	栄養	%
正解	120	48	90.1
不正解	13	5	11.8
未回答	1	0	0.4

3. OPAC を使って「高齢者の健康」に関連する図書を出来るだけ多く探してください。そして、検索結果の件数を回答してください。

	看護	栄養	%
正解	118	49	90.3
不正解	15	4	9.4
未回答	1	0	0.4

4. OPAC を使って「人体の構造と機能（第5版） 内田さえ, 佐伯由香, 原田玲子編集」を探してください。そして、出版者、出版年を回答してください。

	看護	栄養	%
正解	125	39	83.4
不正解	8	14	16.2
未回答	1	0	0.4

5. 「6」で探した「人体の構造と機能（第5版）」の請求記号を回答してください。なお、配架場所が指定されている場合は、配架場所も回答してください。

	看護	栄養	%
正解	88	35	65.9
不正解	45	18	33.8
未回答	1	0	0.4

6. 次の検索キーワードを CiNii Books でフリーワード検索し、検索結果の件数を回答してください。

検索キーワード「感染症予防」

	看護	栄養	%
正解	128	40	85.5
不正解	5	13	14.1
未回答	1	0	0.5

7. 次の検索キーワードを CiNii Books でフリーワード検索し、検索結果の件数を回答してください。

検索キーワード「感染症」「予防」

	看護	栄養	%
正解	117	39	80.4
不正解	16	14	19.2
未回答	1	0	0.4

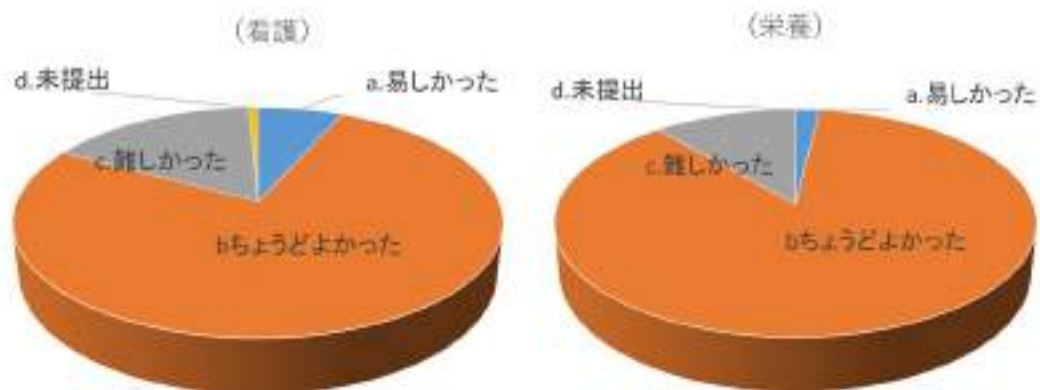
8. 次の検索キーワードを CiNii Books でフリーワード検索し、検索結果の件数を回答してください。

検索キーワード「感染」「予防」

	看護	栄養	%
正解	118	38	79.9
不正解	15	15	19.7
未回答	1	0	0.4

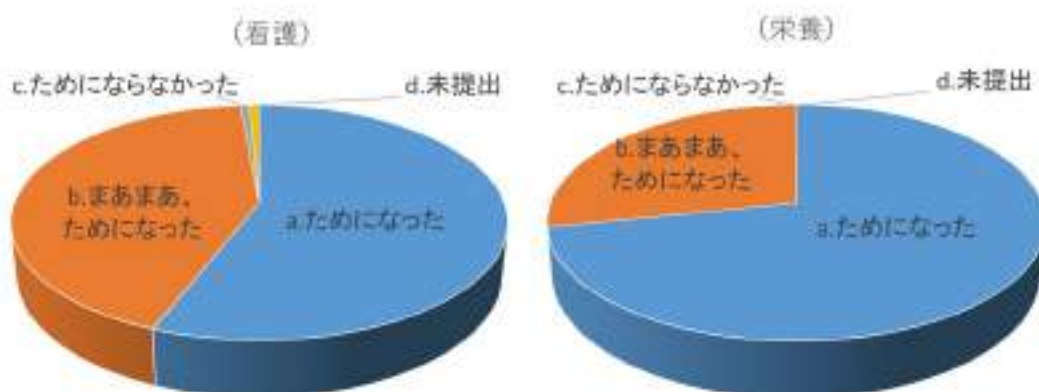
「学びの理解」受講者アンケート集計結果

1. 全体的なレベルについて



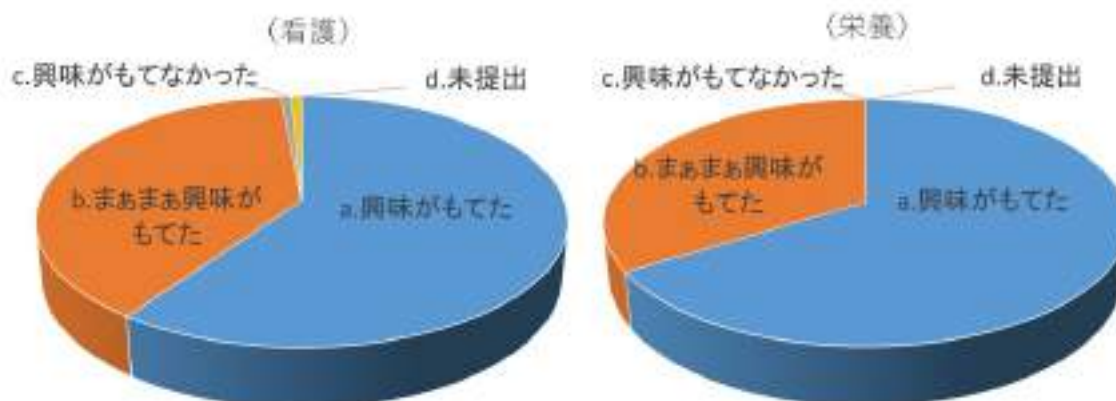
	看護	栄養
易しかった	9	1
ちょうどよかった	102	46
難しかった	22	6
未回答	1	0

2. 内容について



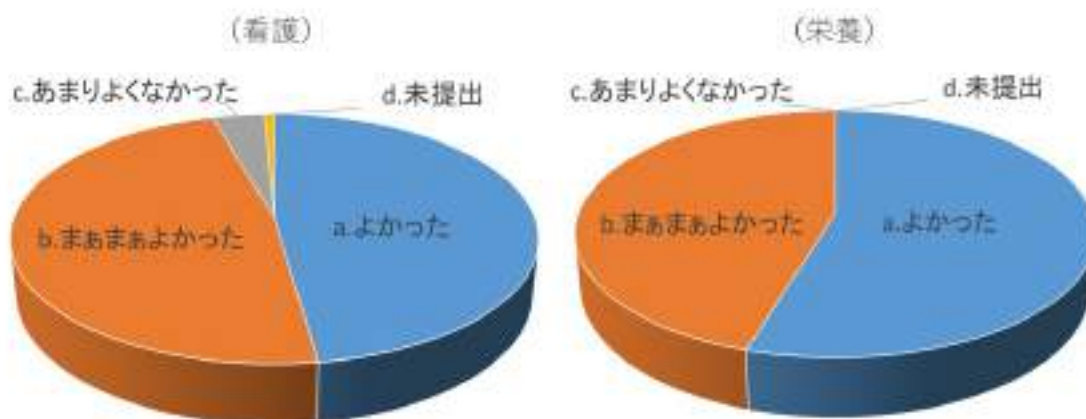
	看護	栄養
ためになった	75	38
まあまあためになった	57	15
ためにならなかった	1	0
未回答	1	0

3. 図書館について



	看護	栄養
興味をもてた	80	35
まあまあ興味をもてた	52	18
興味をもてなかった	1	0
未回答	1	0

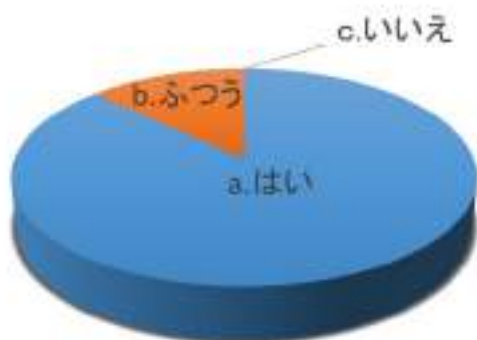
4. 図書館職員の説明



	看護	栄養
よかった	64	29
まあまあよかった	64	24
あまりよくなかった	5	0
未回答	1	0

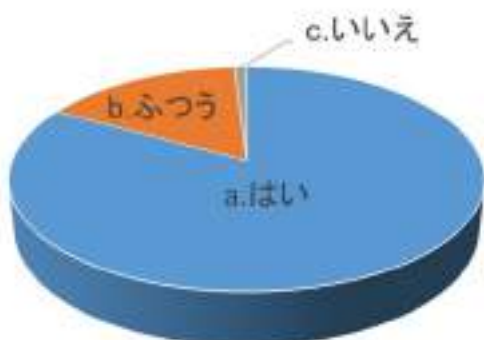
「看護学研究法」受講者アンケート集計結果

1. 資料（パワーポイント）はわかりやすかったですか



	回答数
はい	87
いいえ	13
ふつう	0

2. 説明はわかりやすかったですか



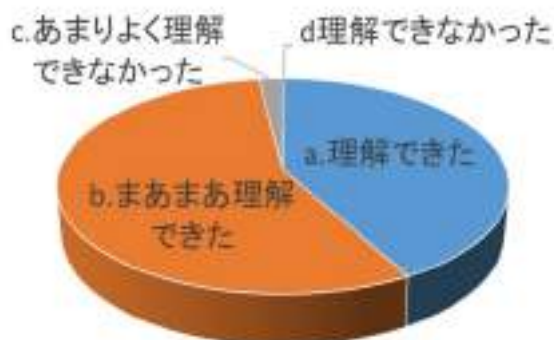
	回答数
はい	83
いいえ	16
ふつう	1

※「いいえ」と回答した方は、どのような点を改善すればよいと思われますか。

具体的にお聞かせください。

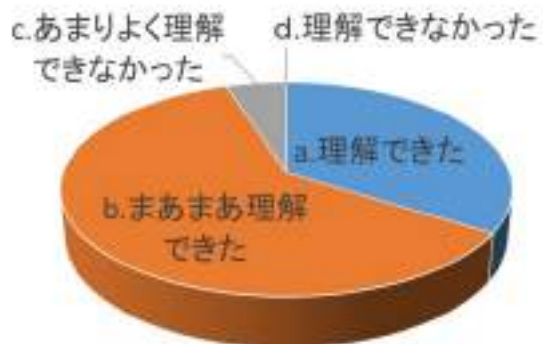
	回答数
スピードが早い	0
声が小さい	0
説明がわかりにくい	1

3. 医中誌 Web を使った文献検索について理解できましたか。



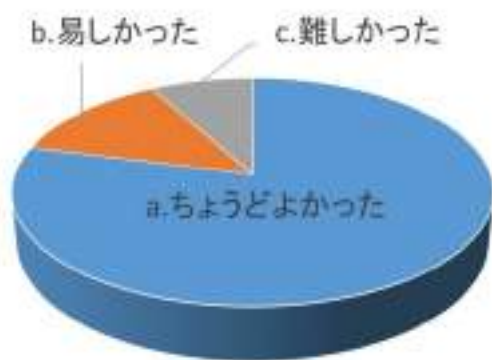
	回答数
理解できた	42
まあまあ理解できた	56
あまりよく理解できなかった	2
理解できなかった	0

4. 文献の入手方法について理解できましたか。



	回答数
理解できた	34
まあまあ理解できた	61
あまりよく理解できなかった	5
理解できなかった	0

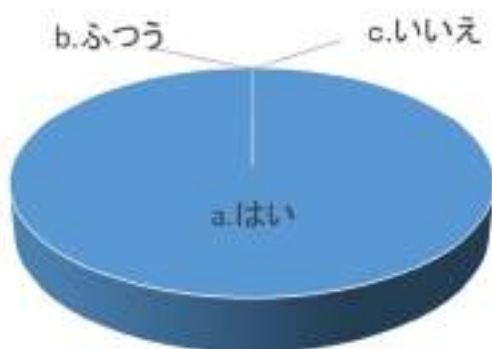
5. 全体的な内容について



	回答数
易しかった	79
ちょうどよかった	13
難しかった	8

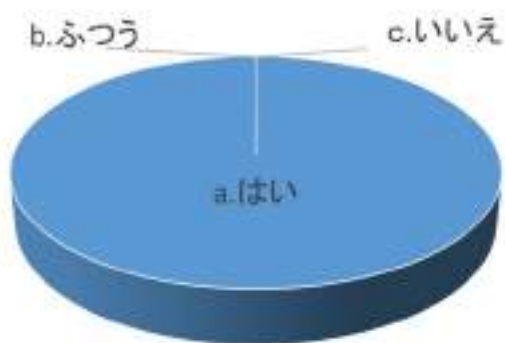
「英語文献講読演習」受講者アンケート集計結果

1. 資料（パワーポイント）はわかりやすかったですか。



	回答数
はい	4
いいえ	0
ふつう	0

2. 説明はわかりやすかったですか。

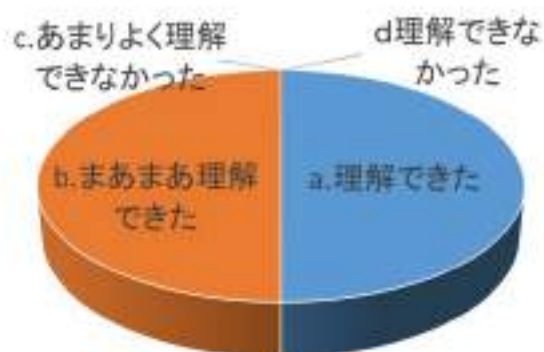


	回答数
はい	4
いいえ	0
ふつう	0

※「いいえ」と回答した方は、どのような点を改善すればよいと思われますか。
具体的にお聞かせください。

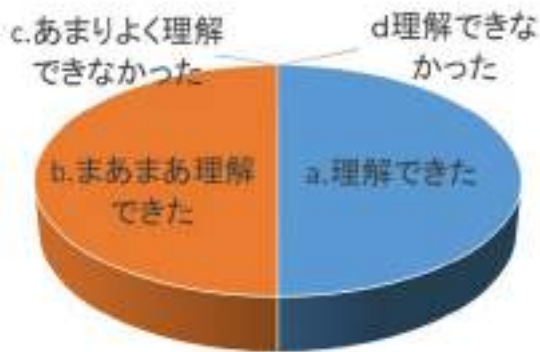
	回答数
スピードが早い	0
声が小さい	0
説明がわかりにくい	0

3. 医中誌 Web を使った文献検索について理解できましたか。



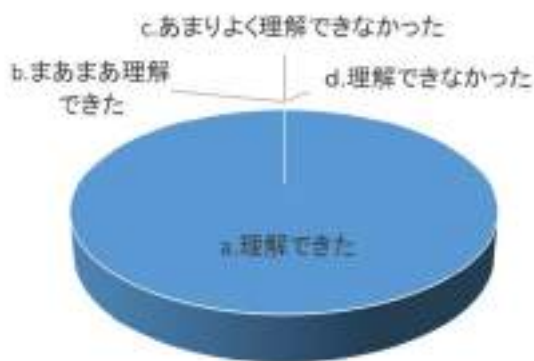
	回答数
理解できた	2
まあまあ理解できた	2
あまりよく理解できなかった	0
理解できなかった	0

4. EBSCOhost を使った文献検索について理解できましたか。



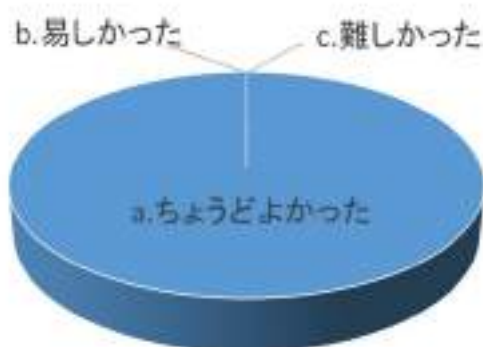
	回答数
理解できた	2
まあまあ理解できた	2
あまりよく理解できなかった	0
理解できなかった	0

5. 今後、文献データベースを使って必要な文献を探したり、入手したりできそうですか。



	回答数
理解できた	4
まあまあ理解できた	0
あまりよく理解できなかった	0
理解できなかった	0

6. 全体的な内容について



	回答数
易しかった	4
ちょうどよかった	0
難しかった	0

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	国際交流委員会
作成者	小島 悦子

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 講演会の開催については、両学科の 2020 年度の学事歴や 2019 年度のアンケート結果をもとに、講演内容、開催時期を検討し、参加者募集方法を検討する。 2) 短期海外研修の実施に向けて、旅行会社から示された 3 案をもとに、委員会で検討する。また、感染症に伴う研修のキャンセル等についても検討が必要である。 3) 国際交流等の開催情報の提供については、次年度も情報提供だけでなく、体験会等の情報を収集し、企画・実施する。 4) 外国大学との交流や海外留学等についての情報収集を継続する。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 講演会の開催 国際協力の活動経験者からの国際協力の実際についての講演 2) 短期海外研修の実施、及び今後の計画の策定 3) 国際交流等の開催情報の提供 札幌国際プラザ、JICA 北海道等のイベント情報の提供 4) 外国大学との交流、海外留学等についての情報収集
活 動 内 容 (Do)	1) 講演会の 1 講演会の開催について 2021 年 1 月 25 日(月)11:40~12:40 に、本学栄養学科助手の大山達也先生から、青年海外協力隊の保健医療分野でアフリカ南東部にあるマラウイ共和国で管理栄養士としての活動経験をもとに「世界最貧国で「食べる」を考える」をテーマに講演をしていただいた。 2) 短期海外研修の実施、及び今後の計画の策定について 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により今年度は短期海外研修を中止した。また、次年度も海外研修の実施が困難と考えられることから、オンラインでの海外研修について情報を収集した。 3) 国際交流等の開催情報の提供について 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により国際交流に関する開催情報の提供や JICA 北海道の見学会は実施しなかったが、学生に国際交流に関する情報を提供するために国際交流委員会の Teams を立ち上げた。 4) 外国大学との交流、海外留学等について インターネットで他大学の外国大学との交流や留学事情について情報収集した。
活動内容の評価 (Check)	1) 講演会の開催について 講演会は対面とオンラインで実施した。対面で参加した学生は 1 名であったが、アンケートの回答数からオンラインでの参加を含め 10 名の学生の参加があった。アンケートは栄養学科 9 名、看護学科 1 名の回答が得られ、「講演会のテーマ」「開催時期・配信期間」「開催・配信時間」「開催場所・配信方法」について全員が「非常に良かった」「良かった」と回答した。「講演会はテーマを理解する参考になった」についても全員が「非常に参考になった」「参考になった」と回答していた。自由記載から、マラウイ共和国の文化や環境、食べることの意義について理解が深まったと同時に、挑戦することの大切さや海外への関心が高まったと考えられ

	<p>た。今後の講演会について、看護師に関する内容、世界の給食に関する内容の意見があったことから、次年度の講演会の企画に活かす。また、オンラインを併用したことにより参加する学生が増えたことから、今後も対面だけでなくオンラインを併用していく必要がある。</p> <p>2) 短期海外研修について 京王観光が企画する「オンラインスタディセミナー」に関する情報を収集した。プログラムは10名以上からの開催で、1プログラム(50~70分程度)の基本費用が10万円、参加費用が1名6000円であった。次年度に向けて、コストに見合った内容であるか、また他の研修の情報についても収集し、内容を検討し、必要な情報を発信していく必要がある。</p> <p>3) 国際交流等の開催情報の提供について 今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため開催情報を提供できなかったが、次年度は国際交流委員会の Teams も活用し、異文化理解につながる JICA の新着記事の紹介や講演会等の開催情報を定期的にチェックし、タイムリーに情報を提供していく。</p> <p>4) 外国大学との交流、海外留学等について 海外留学ができると記載されている大学は複数の学部がある大学で、1学部2学科の本学に役立つ情報ではなかった。次年度も情報収集を継続し、本学における海外交流について検討していく。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 講演会の開催について 2021年度の学事歴や2020年度のアンケート結果をもとに、講演内容、開催時期を検討し、次年度も対面とオンラインによる開催ができるように準備する。</p> <p>2) 短期海外研修について 2022年度に向けた短期海外研修の情報収集及びオンラインセミナーの情報を収集し、必要な情報を学生に提示する。</p> <p>3) 国際交流等の開催情報の提供について 感染状況をみながら、情報提供及び体験会等の情報を収集し、企画・実施する。</p> <p>4) 外国大学との交流や海外留学等について 情報収集を継続する。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	情報ネットワーク委員会
作成者	末光 厚夫

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 学生がソーシャルメディアの特徴を自覚し、正しく利用できるよう啓発活動を継続的に行う。</p> <p>(1) 作成したソーシャルメディア教育のための入学前配布パンフレットについて、入学前に読んでいるか、また内容の理解しやすさはどうだったのかを調査し、内容および表現の修正を検討していく。</p> <p>(2) 限られた時間の中で効率よく教育を行うことができるよう、学生実態調査の結果を基にして、昨今の高校生が犯しやすい問題や巻き込まれやすい脅威など（本年度問題として見えた個人情報の種類も含む）を中心に教育内容を取捨選択していく。また、情報倫理 DVD による教育の実施については、委員の役割分担を見直し、全委員で協力して実施できるよう改善を図る。</p> <p>(3) 本年度一部の学年は日程調整と周知に問題があり、ソーシャルメディアについてのガイダンスを予定通り実施できなかった。このようなことが起きないように、学務と日程を十分に摺り合わせし、学生への周知を徹底することで解決を図る。また、情報倫理 DVD による教育の実施については、委員の役割分担を見直し、全委員で協力して実施できるよう改善を図る。</p> <p>2) 学生の ICT 利用・情報管理・セキュリティに関する実態調査を行い、本学学生の状況と課題を明らかにして、委員会の施策に反映していく。調査結果から見てきた周知すべき事項については、大学校内の掲示板・その他学生の目に付く場所への掲示、大学ポータルサイト等への掲示を通じて発信することも検討する。また、大学の施策に沿って Web による実態調査の実施も検討するが、回答率が大きく下がると意味がなくなるので Web 実施への移行は慎重に進める。</p> <p>3) 次年度起ち上がる教育関連 ICT 整備に向けたワーキンググループと連携して、電子教材や LMS の本学導入に向けた取り組み（講習会の実施、トライアルの企画等）を検討していく。</p> <p>4) 新しく登場してくる教育向けの技術や機器、サービスに本委員会がきちんとついて行けるように、引き続き教育向け ICT の情報収集や普及啓発を行う。また、教育関連 ICT 整備に向けたワーキンググループとの情報共有も行う。</p> <p>5) 新しいネットの脅威や、ネット社会の新たな潮流をフォローして情報倫理教育に反映できるように、引き続き情報モラルやセキュリティのセミナーや講習会に参加して情報収集を行う。また、教職員の情報モラル・セキュリティのリテラシーを高めるための情報発信や研修会を実施していく。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 学生がソーシャルメディアの特徴を自覚し、正しく利用できるよう啓発活動を行う。</p> <p>(1) ソーシャルメディア教育のために入学前の新入生に配布するパンフレットを作成する。</p> <p>(2) 新入生向けにソーシャルメディアを正しく活用できるよう啓発教育を行う。</p>

	<p>(3) 在学生向けにソーシャルメディアを正しく活用できるよう啓発教育を行う。</p> <p>2) 学生の ICT 利用・情報管理・セキュリティに関する実態調査を実施して現状把握を行い、必要に応じて対策を講じる。</p> <p>3) 電子教材や LMS の本学導入に向けた取り組みを検討する。</p> <p>4) 教育向け ICT の情報収集・普及啓発を行う。</p> <p>5) 情報モラル・セキュリティに関する情報を収集し、有益な情報の発信や研修会を実施する。</p>
<p>活動内容 (Do)</p>	<p>1) 学生のソーシャルメディア利用に関する啓発活動について</p> <p>(1) 入学前配布パンフレットの通読状況等についてアンケート調査を行った。また、その調査結果に基づいて、次年度の新入生向けの入学前配布パンフレットを作成し、入学生への送付物に同梱した。</p> <p>(2) 新入生ガイダンスにおいて、カスペルスキー製作の「セキュリティとモラルのガイドブック」を配布し、情報倫理の説明および、ソーシャルメディアの使用上の留意点について説明を行った。また、情報倫理 DVD の中から、新入生にとって重要な内容の動画を視聴してもらった。続いて、後期における教育では、コロナ禍を考慮して、情報倫理の動画をネット配信し、自宅等でも学習できるようにした。</p> <p>(3) 在学生に対しても新入生と同様に、新学期ガイダンスにおいて、ソーシャルメディアの使用上の留意点について説明を行った。また、情報倫理 DVD の中から、在学生にとって有益な内容の動画を視聴してもらった。続いて、後期における教育では、コロナ禍を考慮して、情報倫理の動画をネット配信し、自宅等でも学習できるようにした。</p> <p>2) 新入生および在学生に対して、学生の ICT 利用・情報管理・セキュリティに関する実態調査を行った。</p> <p>3) 教育関連 ICT 整備に向けたワーキンググループの報告を受けた後、今後本委員会が取り組む内容の検討を始めた。</p> <p>4) 新型コロナウイルス感染症の流行を鑑みて、教育 IT ソリューション EXPO への参加を見送った。</p> <p>5) 新型コロナウイルス感染症の流行を鑑みて、情報モラル・セキュリティに関するセミナーやワークショップへの参加は見送った。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 学生のソーシャルメディア利用に関する啓発活動について</p> <p>(1) パンフレットに関する調査結果より、入学前に約 60%が、入学後も含めると約 70%の新入生が読んでいることがわかった。また、内容の理解についても、読んだ新入生のほぼ全員が「十分に理解できた」または「ある程度理解できた」と回答していた。これらの結果より、概ね想定していたパンフレットが作成できていたものと思われる。</p> <p>(2) 新入生ガイダンスの中で 60 分かけて情報倫理とソーシャルメディアについての説明や動画上映を行ったので、必要な内容はほぼ伝えることができた。一方、情報倫理の動画のネット配信については、視聴数が非常に低調であった。ネット配信の契約に時間がかかったため、配信時期が年明けになり、定期試験等に重なったことが低調な要因の一つとして考えられる。</p> <p>(3) 在学生は、新学期ガイダンスとは別日に約 60 分かけて情報倫理とソーシャルメディアについての説明と動画上映を行ったので、必要な内容はほぼ伝えることができた。今回は、授業と授業の間の空きコマにガイダンスを設定したので、出席率は良かった。一方、ネット配信の情報倫理動画の視聴については、在学生も非常に低調であり、あまり効果的ではなかった。</p> <p>2) 上記の新入生および在学生のガイダンス時に、紙の調査票を配布して実施した。回収率は約 68%で昨年より 10%増加した。在学生のガイダンスを授業と授業の空きコマに設定することで、出席率を高めた効果と思われる。学生の現状や課題など明らかになった主な結果は次の通りである。</p>

	<p>(1)PC の所有率 (4 月時点) は 1 年が両学科とも約 40%、2 年の看護が 65%・栄養が 76%、3 年以上は両学科とも 95%以上であった。</p> <p>(2)PC を所有している学生 (273 名) のうち、ウィルス対策を行っている割合は約 90%であり、昨年 (約 80%) よりも増加している。</p> <p>(3)SNS の利用形態 (どのサービスを使用しているか) については、全国的な平均とほぼ同じであった。</p> <p>(4)USB メモリにパスワードをかけていない在学生在が多かった。 看護 : 2 年(約 85%), 3 年(約 7%), 4 年(約 21%) 栄養 : 2 年(約 68%), 3 年(約 78%), 4 年(約 83%)</p> <p>(5)在学生の個人情報の認識は昨年同様問題ないが、新入生の認識は若干良くなかった。</p> <p>(6)「札幌保健医療大学ソーシャルメディアガイドライン」と「Office365 を利用した情報ネットワークのガイドライン」を読んだことがない在学生在が多かった。 看護 : 2 年(約 86%), 3 年(約 74%), 4 年(約 78%) 栄養 : 2 年(約 52%), 3 年(約 42%), 4 年(約 42%)</p> <p>3) 教育関連 ICT 整備に向けたワーキンググループより提言があり、「2021 年度大学運営に関する基本方針」に記載された内容のうち、以下の項目について本委員会で検討することとなった。</p> <p>(1)教育研究及び大学事務の効率化を図るために、全学及び教職員レベルで ICT 機器等の整備・充実を推進する。</p> <p>(2)大学発行物のデジタル化や照明器具の LED 化などを推進し、経費削減に努める。</p> <p>(3)会議を効率的に運営し、時間及び資源コストを削減するために、学内会議の Web 化及び会議資料のペーパーレス化をテスト導入し、2022 年度以降の全面導入に向けた検証を行う。</p> <p>(4)LMS 導入や学籍システムの Web 化に向けたシステム選定と検証を行い、導入の可否を検討する。</p> <p>4) 評価なし。</p> <p>5) 評価なし。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 学生がソーシャルメディアの特徴を自覚し、正しく利用できるよう啓発活動を継続的に行う。</p> <p>(1)作成したソーシャルメディア教育のための入学前配布パンフレットについて、いつ読んでいるか、内容を理解できているか等を引き続き調査し、必要に応じて追加・修正を行っていく。また、このパンフレットの効果を見るために、本学が作成している「札幌保健医療大学ソーシャルメディアガイドライン」と「Office365 を利用した情報ネットワークのガイドライン」を読んでいる学生数の年次変化を追跡調査する。</p> <p>(2)ガイダンスでは、限られた時間の中で効率よく教育を行うことができるよう、学生実態調査の結果より問題のあった内容に対する説明、昨今の高校生が犯しやすい問題や巻き込まれやすい脅威などを中心に教育内容を取捨選択していく。また、ガイダンス以降の情報倫理教育については、ネット配信による自主的な学習は現状では効果的でないので、大学の教室で実施することを第一として計画していく。さらに、学年の進度に合わせた内容を教育していくことも目標とする。</p> <p>(3)本年度のガイダンスは出席率が良かったので、次年度も本年度と同様に授業と授業の間の空きコマに設定していく。ガイダンス以降の情報倫理教育では、ネット配信による自主的な学習は現状では効果的でないので、大学の教室で実施することを第一として計画していく。さらに、学年の進度に合わせた内容を教育していくことも目標とする。特に本年度購入した「映像で考える！看護のための情報リテラシー」の DVD の中から、それぞれの学年に合った内容を上映していく。</p>

- | | |
|--|--|
| | <p>2) 学生の ICT 利用・情報管理・セキュリティに関する実態調査を行い、本学学生の状況と課題を明らかにして、委員会の施策に反映していく。なるべく高い回収率を実現するために、当面は、新年度ガイダンスの中で、紙で用紙を配布し、その時間内に回答してもらう方法で行う。ただし、Web で回答する仕組みも導入し、紙の調査票に QR コードを記載して、スマホでも回答できるようにして、回答の傾向をあわせて調査する。</p> <p>3) 「2021 年度大学運営に関する基本方針」の 4 つの項目について、総務課や教務委員会等と連携して、本委員会で貢献できることを議論する。</p> <p>4) 新しく登場してくる教育向けの技術や機器、サービスに本委員会がしっかりとついて行けるように、引き続き教育向け ICT の情報収集や普及啓発を行う。なお、新型コロナウイルス感染症の影響によって、直接参加することが難しくなった場合には、リモート参加可能な教育向け ICT のための EXPO や展覧会を探して情報収集する。</p> <p>5) 新しいネットの脅威や、ネット社会の新たな潮流をフォローして情報倫理教育に反映できるように、情報モラルやセキュリティのセミナーや講習会に参加して情報収集を行う。なお、新型コロナウイルス感染症の影響によって、直接参加することが難しくなった場合には、リモート参加可能で有用なウェビナー（オンラインセミナー）や講習会を探して情報収集する。また、教職員の情報モラル・セキュリティのリテラシーを高めるための情報発信や研修会を実施していく。新型コロナウイルス感染症の影響で集まらない場合は、リモートでの実施も検討する。</p> |
|--|--|

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	地域連携委員会
作成者	千葉 昌樹

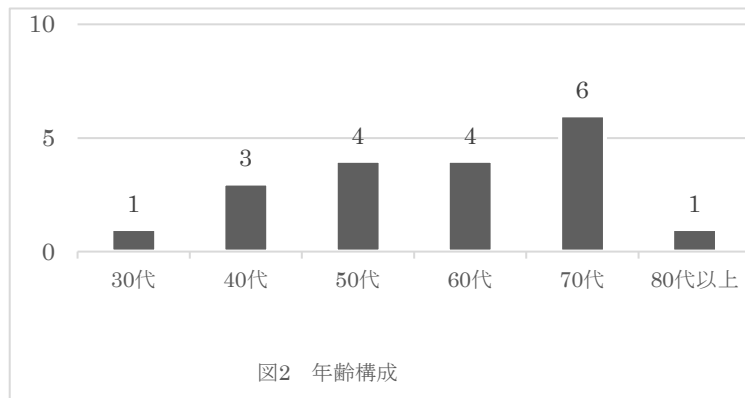
項 目	内 容
<p style="text-align: center;">【前年度】</p> <p style="text-align: center;">次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 栄養学科が4年間の学年進行終了となることから、看護学科、栄養学科の二学科体制を生かした横断的で連携のある取組みをさらに進める。また、五者連携事業や地域の取組など、学生の主体的な取組を進め、大学としてのField workが確立できるよう働きかけを行う。</p> <p>2) 地域に開かれた大学の取組として、地域や社会の知の拠点の一環として、「公開講座」を紀伊国屋札幌本店インナーガーデンで行うこととする。形式は現在のスタイルですすめ、多くの市民の参加を促すために、幅広く働きかけを行う。</p>

項 目	内 容
<p style="text-align: center;">今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 地域活動 本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、地域での活動が大幅に制限され、地域連携活動の在り方を根本的に見直す必要がある。しかし、札幌市及び東区との協定に基づいた五者(札幌市東区、札幌保健医療大学、天使大学、札幌大谷大学、北海道スポーツ専門学校)連携事業のすべてが滞っている現状では、新たな体制づくりは難しい。この様な制限下においても様々な工夫を重ね、北海道、札幌市、東区に貢献する活動を進める。 新型コロナ禍において町内会の関連事業のすべてが中止になっており、この様な状況において、町内会との対話は進め、体制維持の継続に努める。</p> <p>2) 公開講座について、紀伊国屋札幌本店との話し合いを進めることとする。この講座の推進について、市民の幅広い参加の働きかけを行うことを趣旨としていることから、今後も会場を紀伊国屋札幌本店インナーガーデンで行うこととし、コロナ禍における地域住民と学生、大学の持続可能で効果のある活動について、公開講座より窺い知る。</p>
<p style="text-align: center;">活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 地域活動 (1)五者連携事業に基づく活動 「ひがしく健康・スポーツまつり2020」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の恐れから中止となった。 「第18回東区健康づくりフェスティバル」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の恐れから中止となり、代わって東区により「健康づくりパネル展」を開催することとなり出展した。 (2)中沼西地区の活動(中沼西夏祭り) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の恐れから中止となる。</p> <p>2) 公開講座 本学主催の公開講座は、多くの市民の参加が望める紀伊国屋札幌本店で年2回開催しているところであるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の恐れから年1回の開催とし、定員48名で開催した。 (1)第11回公開講座 開催日:2020年10月31日(土) 主 催:札幌保健医療大学, 紀伊国屋書店札幌本店 後 援:札幌市 時 間:14:00~15:30(90分) 場 所:紀伊国屋書店札幌本店 1Fインナーガーデン</p>

	<p>定員：48名 テーマ：フォーラム「今の時を豊かに生きるために！」 パネラー： 「語ること、語りをきくこと～違いを認め、つながりを見出す～」 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科 教授 佐藤郁恵 「共感すること、されることで満たされる“心の栄養”～今、改めて考える「共感」を通してもたらされる安心感～」 札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科 准教授 岡本智子 コーディネーター： 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科 教授 針金佳代子</p>						
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 五者連携事業への参画や地区活動が5年目を迎え、年間のスケジュールや他大学の参加状況などを捉えた活動が可能となったが、コロナ禍であらゆる活動の停滞が余儀なくされた。看護技術向上研究会の活動も停止せざるを得ない状態である。今後は、社会情勢とオンラインの在り方も含めて活動を模索する必要がある。</p> <p>中沼西夏祭りでは、コロナ禍で町内会の活動が停止された状況であり、今後の活動については、町内会との連絡を密にして、今後の活動を押し量る必要がある。</p> <p>2) 公開講座について、コロナ禍での開催が推測されたので、紀伊国屋札幌本店との連携を密にして進める必要があった。その様な状況下、開催した第11回公開講座は、「今の時を豊かに生きるために！」をテーマに、看護学科 佐藤郁恵教授により「語ること、語りをきくこと～違いを認め、つながりを見出す～」と題し、さらに栄養学科 岡本智子准教授より、「共感すること、されることで満たされる“心の栄養”～今、改めて考える「共感」を通してもたらされる安心感～」について学んだ。またこの2人のパネラーによるスピーチをコーディネーターである看護学科 針金佳代子教授により、さらに掘り下げて、公開講座参加者との共有を深めた。公開講座で行ったアンケート結果については、次の通りであった。</p> <p>【アンケート集計結果】</p> <p>(1)参加人数およびアンケート回収数(率)</p> <p>参加者27名。コロナ禍での開催で定員48名と規模縮小となった上に、直前に市内の感染者数増加も参加者が伸びなかった原因だと考えられる。アンケートは、参加者19名から回収した。回収率は70%程度であり、昨年度の回収率50%に比べても多くの方々にアンケートのご協力をいただいたものと考ええる。</p> <p>(2)性別(図1)</p> <p>19名中13名が女性、6名が男性であり、女性の割合が高かった。健康に関する内容や、より良い暮らしに繋がる内容は女性の興味関心があるものと考ええる。</p> <div data-bbox="584 1632 1299 2051" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>図1 性別</caption> <thead> <tr> <th>性別</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>女性</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>男性</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> </div>	性別	人数	女性	13	男性	6
性別	人数						
女性	13						
男性	6						

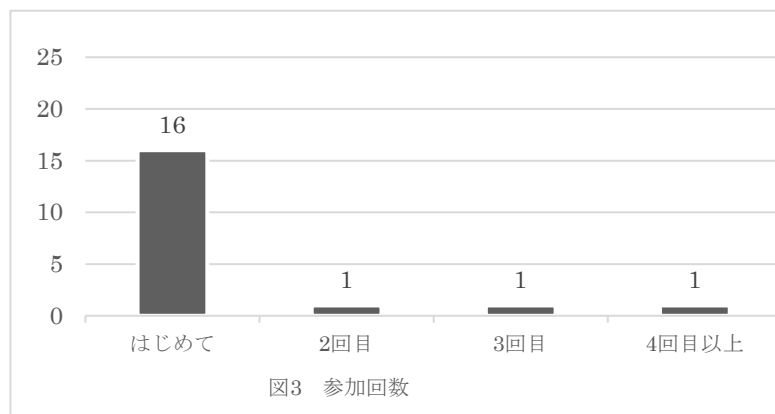
(3) 年齢 (図 2)

30代から80代以上までの幅広い世代の参加者であり、地域内外の方々に当大学の活動内容や成果を伝えることができたと考えられ、公開講座の目的は達成されたと考える。大学のPRとしては、10代およびその親世代の参加がよりいっそう必要である。



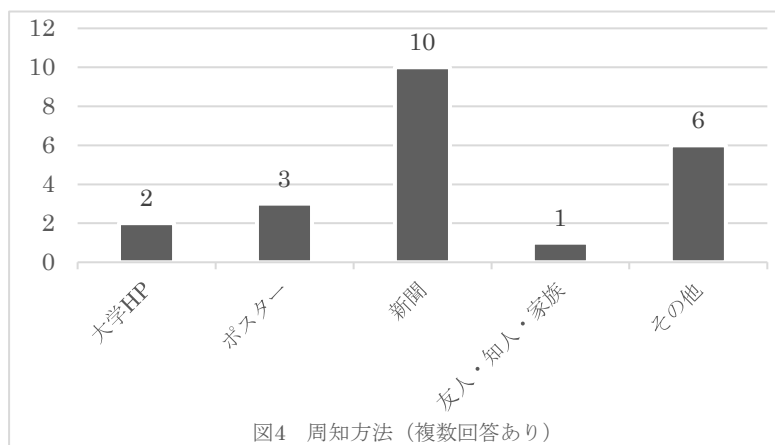
(4) 参加回数 (図 3)

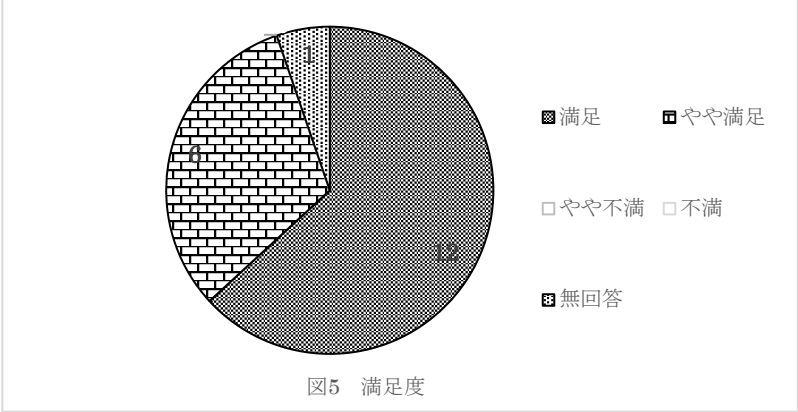
はじめて参加の方が16名で大半を占めているが、2回目、3回目、4回目以上の方が各1名と、リピーターの方も少数いる。定例行事として、定着するように継続して公開講座を実施するとともに、多くの市民に参加していただけるように幅広く働きかけを行っていく必要がある。



(5) 周知方法 (図 4)

参加者の大半は、新聞での周知となり、大学HP、ポスター、友人・知人・家族からの周知も少数あり、その他では、道民カレッジ、ガイドブック、当日会場での呼びかけによる飛び込み参加等であった。効果的な周知方法として、新聞が明確となった。更に大学HPやポスター、そして当日の呼びかけで周知していく必要がある。



	<p>(6)満足度 (図5)</p> <p>無回答 1 名を除き、18 名が満足、やや満足と回答しており、やや不満、不満と回答した方はいなかった。全体の満足度は高かったと考える。しかし、外の音がうるさかった、会場内が寒かった(感想、意見欄記載)など、改善点もあげられており、対応を考えていく必要がある。</p>  <p>図5 満足度</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1)看護学科及び栄養学科の二学科体制を活かした協働の取組みをさらに進め、学生の主体的な取組みができるよう積極的な働きかけを行う。また、コロナ禍における新しい共同事業のあり方、可能性を推進することについて再検討する必要がある。五者連携事業についても東区を中心に新しい在り方を検討しなければならない。特に、学生の参加は、地域貢献の側面だけではなく、学生自身の成長にもつながることから、新しい地域連携のスタイルを確立するとともに、積極的に社会活動に参加する働きかけを行う。</p> <p>2)公開講座については、会場を紀伊国屋札幌本店インナーガーデンで行うことと内容は現在のスタイルですすめる。またコロナ禍においても、多くの市民の参加を促すために、幅広く働きかけを行う。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	教職課程委員会
作成者	所 伸一

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教職課程ガイダンスを今年度の経験を踏まえて引き続き魅力ある形で実施する。 2) 年次進行の新規科目および再課程認可後の新設科目(「特別活動・総合的学習指導論」をふくむ科目)をふくめて授業を円滑に実施する。「履修カルテ」活用に関連する指導、教員採用試験対策講座を引き続き実施する。 3) 教職課程委員会を学科の完成年度にともない拡大する業務に対応し、機敏に開催するようにつとめる。 4) 再課程認定時の留保条件をクリアする関連業績の論文化を推進する。

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新入生向け教職課程ガイダンスを魅力ある形で実施し、意欲のある学生をひきつける。 2) 教職課程科目の新規科目(「栄養教育実習」ほか)をふくむ円滑な開講、「履修カルテ」の書き方指導、「栄養教育実習」の事前ガイダンス、教員採用試験「対策」をそれぞれ実施する。 3) 教職課程委員会を機敏に開催して運営する。札幌市教育委員会等との折衝ほか新たな業務を実施する。 4) 関連業績達成への実質的な研究を進める。
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新入生ガイダンス時に、新4年生の応援を得て、親密度を増した雰囲気ガイダンスを行った。 2) 1年次向けの教職課程科目(教職概論、教育制度論、教育原理)、2年次向け科目(教育課程論、教育方法論、道徳教育論、生徒指導論、特別活動・総合的学習指導論)、3年次向け科目(教育心理学、教育相談論)と共に、はじめて4年次向けの科目(栄養教育実習事前・事後指導、栄養教育実習、教職実践演習)を実施した。「教職課程履修カルテ」の書き方について、全般的な指示のほかに、個別の改善指導を行った。3年次生を対象に教員採用試験対策講座を実施した(2021年2月中旬3日間、計7コマ)。 3) 教職課程委員会は持ち回りで1回開催のみにとどめ、外部との折衝など残余の実務はおおむね委員長と担当者の協議で運営した。新型コロナウイルス感染対策に伴う栄養教育実習の時期変更(5月から8月末~10月初への移動)ほか関連の指導・演習の内容・時間変更などの対処他を協議した。北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会総会(6月予定から11月のWeb開催に変更)に参加した。 4) 認可時の留保条件をクリアする研究業績を達成するため当該科目担当の講師と共同勉強会をもった(6月、10~11月)。
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教職課程の選択学生数では、前年度は新入生36名中21名であったのに対して、今年度は43名中15名を得ることができた。課程選択率の面では下がった(58.1%→34.9%)が、教職への意欲のある学生を引きつけていると考えている。 2) 予定した科目の授業を、コロナ禍による実施時間・形式などの変更後も事故無く実施することができた。「履修カルテ」の書き方に関わる文章指導は学生個別に行うにとどめた。4年生のカルテに対する最終コメン

	<p>トは各履修生の成長と到達点・課題に即して詳しく行った。「栄養教育実習」の事前ガイダンスは、準備をできるだけ早くから行いたいという学生の希望により2月に実施した。教員採用試験対策講座は2月中旬に実施され、内容・形態ともに好評であった。</p> <p>3) 教職課程委員会は諸条件の変動に応じ柔軟に運用された。</p> <p>4) 計画に沿って関連業績を「教科課程編成における総合的学習の歴史考察-1920年代ロシアのコンプレックス(合科教授)システム検討から-」として論文化し、本学紀要第7巻(2021年3月刊行)に投稿することができたため、留保条件をクリアする見通しである。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 新入生向け教職課程ガイダンスを魅力ある形で実施し、関心と意欲のある学生を引きつけるよう努める。</p> <p>2) 教職課程の新規科目(3年次「特別支援教育概論」)をふくむ円滑な開講、「履修カルテ」の書き方指導、「栄養教育実習」の事前ガイダンス、教員採用試験「対策」をそれぞれ実施する。</p> <p>3) 教職課程委員会を機敏に開催して運営する。</p> <p>4) 教員養成関係の行政動向に適切に対応し、かつ本学教職課程の体制維持と発展のための態勢をとる。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	看護学科 実習運営部会
作成者	木津 由美子

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 実習水準確保のための対策 (1) 実習施設との連携体制の維持継続 (2) 実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫 (3) 学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行 2) 事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討をする。 (1) 各領域の特性から事故防止に対するオリエンテーションの強化 3) 実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い 4) (必要時) 新型コロナウイルス感染症の流行による影響に対応

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 実習水準確保のための対策 (1) 実習施設との連携体制の維持継続 (2) 実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫 (3) 学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行 2) 事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討をする。 (1) 各領域の特性から事故防止に対するオリエンテーションの強化 3) 実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い 4) (必要時) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応
活 動 内 容 (Do)	1) 実習水準確保の対策 (1) 実習施設との連携体制の維持継続のために実習運営部会で担った役割は以下の点である。 ① 実習協議会の企画・運営 2020 年度の臨地実習協議会に関しては 2020 年 3 月 12 日に開催予定で準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止とし、2020 年度の臨地実習に関する資料一式を本学看護学科の全実習施設(72 か所)に後日発送した。資料送付となったが、2019 年度の実習評価に関しては、すでに各領域で個別に行っており問題はなかった。 2021 年度の実習にについては、新型コロナウイルス感染症対策に基づき、オンラインでの協議会を 2021 年 3 月 18 日に開催予定で準備を進めている。 ② 実習指導者研修会の企画・運営 毎年 11 月に実習指導者研修会を開催しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、開催を見送った。 ③ 2020 年度の実習の学内実習への変更 今年度 4 月最初の時点では、新型コロナウイルス感染症の流行はあったが、臨地での実習予定で進めていたが、学生と病院施設の患者の安全を守るため、今年度の臨地実習は全領域学内実習に変更となった。実習施設からは学内実習に対して指導者のメッセージや動画撮影、紙上事例への助言など協力が得られた。 また学内実習では、新型コロナウイルス感染症対策として三密を回避する必要から、「学内実習の進め方(演習)ガイドライン」を作成し、学内での実習を行うための教室や実習室の確保・実習の方法のルールを作成し看護学科の教員と学生に周知をした。

④「臨地実習共通要項」の見直しと作成。

2021年度臨地実習に向け、「臨地実習共通要項」の見直しを行った。学生のワクチン接種に関しては、「医療従事者のためのワクチンガイドライン」が第2版から第3版に改正となり、大学の方針に沿い変更した。

実習ファイルの返却に関する方針を加えた他、学生が自身の課題を明確にして主体的に実習に取り組めるようにという学科の方針に従い、自己課題および実習での学びと振り返り等の記載様式を加えた。

また、大学の新型コロナウイルス感染症対策（別冊版）と臨地実習での新型コロナウイルス感染症対策のフローシートを新たに追加し、従来の実習を行するための基本事項と新型コロナウイルス感染症対策を同時に確認できるように工夫をした。

⑤「指導の手引き」の見直し

2021年度用として「指導の手引き」を見直したが、次年度については、ワクチンガイドラインの版変更のみで大きな変更はなく使用した。

⑥重複施設の調整内容

領域で重複している実習施設は、担当者を決め調整内容をフォーマットに記入、共有することを引き続き行った。また、2021年度実習に関しても病院オリエンテーションを実習前に行う施設に関しては、科目責任者と協働し日程調整を行った。

(2)実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫

4月最初の時点では、実習施設で実習をする予定であったことから、3、4年次の全体オリエンテーションを4月のガイダンスに実施した。その後学内実習へ変更となったため、各領域で学内実習のオリエンテーションを実施した。

(3)学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行

人事に関する内容であり、今回は学内実習であったため、非常勤指導員の配置も最小限であり検討する余地はなかった。

2) 事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討

(1)昨年度に「臨地実習共通要項」の実習における危機管理に関する説明を充実させているため今年度は引き続き活用した。同時に昨年度変更したインシデントとアクシデント報告書および一昨年から実施している「迅速版事故報告書」を引き続き活用し、学生の情報がタイムリーに教学に周知されるようにした。

実習をすすめるうえでの共通の留意点の説明は、看護基礎実習Ⅰ・Ⅱのオリエンテーションでは、基礎看護領域の教員が行い、3、4年生の領域別看護実習では、実習運営部会の委員が全体オリエンテーションで実施した。また、その後の領域実習のオリエンテーションでも引き続き、その領域の特性と合わせての事故防止について領域担当者に注意喚起を行ってもらった。

(2)学生情報の共有、インシデント・アクシデントの報告は、今年度からメールで発生したことを周知し、共有フォルダに迅速版事故報告書を作成し発生した内容を迅速にアップし、学科教員に周知を図った。今年度からは、実習運営部会内でインシデント・アクシデントの発生状況について報告を行い、部会の委員から各領域へ情報共有を行った。年度末に、発生件数などをまとめ報告書を作成した。

3) 実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い

大学で「医療従事者のためのワクチンガイドライン」を基にワクチン接種を進めており、それに応じて、1年生には入学後に母子健康手帳のコピーを提出してもらっている。ワクチン接種対象の選定は、ガイドラインに沿ったフローシートを用い健康管理室が主体で行っている。実習運営部会では、個人の抗体価検査結果、ワクチン接種の記録等のコピー

	<p>を「臨地実習共通要項」の裏表紙に貼付するようにし、必要に応じ学生がいつでも自分の状態を提示できるようにしている。今回ワクチンガイドライン改定に伴い、2020年9月に本学健康管理室作成のフローに基づいてガイドラインの基準を満たさない学生には、フローチャートに沿って追加の接種を促した。</p> <p>4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応 今年度の実習がすべて学内実習へと変更となり、今まで病院や施設で現地での実習が当然であったことから、学内実習で何をどこまで行うことができるのか手探り状態であった。大学の危機管理委員会での方針のもと、実習で感染者が発生しないよう健康管理票の作成・発熱時のフローシートの作成、海外渡航の自己申告票の作成など学内での感染者発生を事前に把握できる準備や消毒薬の準備と消毒の徹底、三密回避の徹底を周知した。また実習施設から様々な協力を得て、また感染対策の一環としてWebによる実習を一部取り入れ、学内実習が要因で新型コロナウイルス感染症が発生することなく今年度の実習は終了できた。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 実習水準の確保の対策 (1) 実習施設との連携体制の維持継続 ①2020年度実習協議会の開催は中止となり、資料を送付する形となったが2019年度の実習評価に関しては、すでに各領域で個別に行っており問題はなかった。2021年度の実習協議会は、2020年度末(2021年3月18日)にオンラインで実施する予定で現在準備を進めている。協議会では学内実習の取組みの実際を紹介し、実習成果と課題を各領域で10分程度の時間で報告する予定である。 ②実習指導者研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、感染リスクを回避する必要から今年度は中止とした。この研修会は、本学の臨地実習の学生指導を実施する実習指導者、非常勤講師、専任教員が一堂に会し同じ講演を基に、各々が自身の関わり方を基本から見直し、学生指導の共通の基盤づくりに効果があるため、コロナ禍においてどのように開催可能であるかを検討する必要がある。 ③今年度は、臨地実習はすべて学内実習となったが、次年度に向けて実習施設で実習を行う方向で病院をはじめ実習施設と調整を図っている。しかし飲食を介してクラスターが発生することが判明したことから、実習は終日行うことは難しい状況となっている。感染防止と本来の臨地実習の実現の両方の目的を達成させるように今後も調整をしていく必要がある。 ④2020年度の「臨地実習共通要項」の変更の主なものは、新型コロナウイルス感染症対策の一環として健康管理票の変更・発熱時のフローシートの作成・海外渡航の自己申告票の作成が主な部分である。2021年度は、共通要項に新型コロナウイルス感染症対策に関する内容を追加し、本学の対策冊子の加えて1冊で従来の実習のルールと新型コロナウイルス感染症対策が確認できるようにした。 ⑤「指導の手引き」は大きく変わることがなかったが、今後も必要に応じて修正をしていく。新しい非常勤指導員には、本学の教育理念、方針等を理解してもらうよう活用を促していく。 ⑥重複施設の調整 重複施設に関しては、担当を決め「重複施設の調整内容フォーマット」情報を記載し、情報共有は図られたと考える。また、必要に応じて科目責任者と連携を取り、事前の病院オリエンテーションの日程調整、必要書類の確認等を行ってきた。病院オリエンテーションに関しては、2020年度に関しては早めに調整を行ってもらい、2020年度の時間割に入れることができたが実際には学内となり実施しなかった。2021年度は、現在病院と調整を行い順調に実施している。</p>

(2) 実習オリエンテーションは、3、4年次の全体オリエンテーションを行った。領域のオリエンテーションは各領域で学内実習について行っている。また、基礎看護実習に関しては、基礎の領域が担当し行われた。次年度の3、4年次のオリエンテーションでは、時間が限られるため、内容を厳選する必要があるが、例年指導事例があるような一部の学生が体調不良のまま実習に行き、特に感染症罹患の可能性があるため帰宅を命じられたり、パソコンに置き忘れたUSB内に過去の実習データがパスワードなしで残されていたりという事案が発生しないように、個人情報保護に関する指導と、体調管理の重要性と感染予防の行動についての指導を特に強化する必要があると考える。

2020年度から新しく、学生が各学年の実習を振り返り、自己課題を明確にしたうえで実習に主体的に取り組むことができる様に、「臨地実習共通要項」に新たな様式を追加した。3、4年次の学生にも目的を伝え、活用してもらえようようにオリエンテーションで説明していく必要がある。また、実習ファイルの返却についても、オリエンテーションで説明し、学生の責任と自覚を促していく。

(3) 学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行

人事に関する内容であり、今回は学内実習であったため、非常勤指導員の配置も最小限であり検討する余地はなかったが、次年度は通常の臨地実習を行う方向のため、新規採用の非常勤指導員も加わることが予測される。本学の教育と指導の重要性について、「指導の手引き」をもとにガイダンスを行い、教員・非常勤指導員一丸となって実習教育を行う。

2) 事故防止・個人情報保護に対する対策

(1) 一昨年から実施している「迅速版事故報告書」は引き続き活用されており、定着したと捉えられるが、新しい報告書に合わせた記載内容の変更がされていなかったため、早急に変更を行う必要がある。

インシデント・アクシデントに関する報告書は新しいものとなり、今年度はアクシデントの発生はなかったことから、インシデントの報告書のみが使われている状況である。新報告書は、発生の原因など新しい情報が整理できるようになった利点がある。

(2) インシデントは学内での実習であったため 22 件であった。学内という場所であったため経年での比較はできないが、1、2年次生の発生が多く看護基礎実習Ⅰでは5件、看護基礎実習Ⅱが7件と数が多かった。

また、発生時期は、実習クールの前半に多く、その後徐々に発生件数が減っていた。4年次生での発生は1件である。内訳は個人情報に関することが多く、次いで物品の持ち出し・紛失であった。発生要因としては、確認不足や失念・不注意、危険性の予測が不十分であった。オリエンテーションで繰り返し実習のすすめ方を指導することに加え、個々のケースでしっかり振り返りを行い、自覚を促す指導を行っていく必要がある。

今年度発生したインシデントの分析について当部会で行い、学科会議で報告し、実習協議会で実習施設へ報告するという流れで行い、今回方法を変更したことで特に大きな問題はなかった。

3) 実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い

母子健康手帳のコピーを提出することで確実に予防接種歴を把握することができた。また次年度にむけて抗体価検査結果については、「医療従事者のためのワクチンガイドライン」改正に伴い、新たに作成したワクチン接種に関するフローチャートの作成をしたことから、最新のガイドラインに基づいて確認できるようになった。またガイドラインの基準を満たさない学生には、フローチャートに沿って追加の接種を促しているが、まだ報告してきていない学生もいるため実習に向けて確認する。

	<p>4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応 昨年2月から新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、緊急事態宣言が出され、学校は一斉休業となりオンラインでの授業等に対応を開始した。実習も学内実習となり、一部は学生が登校しないよう配慮しWeb実習となった。次年度は実習施設で実習を行う予定であるが、感染症発生状況を踏まえて実習方法や内容を変更する可能性があることを予測しつつ臨地実習に臨む。臨地実習の際は、大学の危機管理委員会を連携協働し、実習状況について情報共有をしていく。 また現在医療従事者からワクチン接種が開始されているため、学生の接種についても実習施設・大学で調整を図っていく。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 実習水準確保のための対策 (1) 実習施設との連携体制の維持継続 ①2022年度実習協議会の実施方法の検討 ②2021年度実習指導者研修会の実施方法の検討 ③2021年度の臨地実習について実習施設との新型コロナウイルス感染症対応の調整 ④2022年度版の臨地実習共通要項の見直し・作成 ⑤2022年度版の指導の手引きの見直し・作成 ⑥2021年度の重複実習施設の担当者の確定と調整方法の検討 (2) 実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫 ①3,4年次の実習全体オリエンテーションの内容の検討 ②個人情報保護に関するオリエンテーションの内容の検討 ③体調管理の重要性と感染予防の行動に関するオリエンテーションの強化 (3) 学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行 ①指導の手引きに基づくガイダンスの実施 ②非常勤指導員の確保 2) 事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討 (1) インシデント・アクシデント発生時の報告書の作成と情報共有の検討 (2) 年間に発生したインシデント・アクシデントの発生状況・要因の分析と報告 (3) インシデント・アクシデント発生防止の対策の検討 3) 実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い 4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 実習運営部会
作成者	久保 ちづる

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 本年度は特段の問題点や事故がなく終了したが、来年度は学生がさらに積極性を身に着け、活動的な姿勢で実習に臨めるように指導が必要である。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 臨地実習を滞りなく実施するため下記の内容を実施する。 (1) 実習目的・内容から効果的な実習開始前準備を計画し、実施する。 (2) 実習準備のために担当教員を中心としつつ、学科内での連携協力体制とする（科目担当教員以外に実習巡回を担当するなど）。 (3) 実習受け入れ施設の担当者との連携を十分はかり、学生が充実した実習ができるように準備を行う。 (4) 実習後には実習報告会を行い、実習での学び、反省点などを共有し今後の学修に役立てる。 2) 事故防止・個人情報保護に対する対策 (1) 学内での講義・演習を工夫し、実習先の指導者、対象者（入所者・患者・地域住民・児童等）の特性に対応した事故防止と個人情報保護に対する学生の理解を深める。 (2) オリエンテーションをしっかりと行い、実習中の事故防止および個人情報保護に関するインシデント・アクシデントを防ぐ。
活 動 内 容 (Do)	1) 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実習期間が大幅に変更され（後半に移動）、一部の臨地実習は学内での実習に変更となったため、臨地実習へ臨むにあたっての事前指導や巡回方法等も変更しざるを得なかった。 (1) 新型コロナウイルス感染症対策として給食経営管理論実習Ⅱ・Ⅲ、臨床栄養学実習Ⅳについては学内での（臨地）実習となり、公衆栄養学実習Ⅱ、栄養教育実習は予定通りそれぞれ保健所と小学校で実習を行なうことができた。学内外での臨地実習となったが、いずれも学内では担当教員は学生各自が実習を有意義なものとするため目標や課題作成の指導を行った。その後、学外での臨地実習学生は各自が施設を訪問、指導者から課題等に関する指導や新たな課題について打ち合わせを行った。学内で臨地実習を行った2教科については、実習予定施設の内の数施設の指導担当者（管理栄養士）から協力をあおぎ、本学で対面指導または遠隔での指導を受けた。また、臨床栄養学の学内（臨地）実習では対人実習として事務局職員と看護学科教員の協力を受け、食事摂取調査・分析などを行った。 (2) 学科会議において実習の概要の報告、巡回指導については、栄養教育実習では実習担当の2教員のみで全実習校を巡回、公衆栄養学実習Ⅱでは実習先の保健所の要請により訪問巡回でなく電話巡回とし、実習施設や指導者等とのコミュニケーションをはかり本学の実習に関しての要望・意見の集約を行った。 (3) 実習先訪問または電話での連絡後に実習担当教員による課題の確認、指導を行い、必要に応じて施設指導者と担当教員の打ち合わせを

	<p>行った後、学生が臨地実習へ不安なく臨めるようにした。</p> <p>(4) 実習終了後実習報告会を行い栄養学科教員の参加を得て、学生各自が実習で得られた成果や今後の自分の学修について発表するよう事前に内容等について指導した。</p> <p>2) 事故・個人情報に関する対策</p> <p>(1) 学内での総合演習(栄養教育実習においては、「栄養教育実習事前・事後指導」)においての事故・過失などについて説明、報告、連絡、指示に従うよう指導した。</p> <p>(2) 個人情報の取り扱いについては具体的に課題作成とも関連があることを含め、具体例をあげて指導を行った。さらに実習施設への学生の個人情報についても必要最小限の情報のみを提供した。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 臨地実習へ臨むにあたり、学生各自が実習の目的、目標を明確にするための指導を行った。</p> <p>(1) 総合演習(栄養教育実習では、「栄養教育実習事前・事後指導」)を通して、臨地実習が管理栄養士(栄養教育実習では、「栄養教諭」)にとってどのような意義を持つのか等指導することで、学生が自覚することができた。</p> <p>(2) 担当教員による巡回指導では実習施設や指導者等とのコミュニケーションをはかり本学の実習に関しての要望・意見の集約を行った。公衆栄養学実習Ⅱでは今年度は巡回指導できなかったため、担当教員が実習機関や実習先指導者等と積極的に電話連絡等によりコミュニケーションをとり本学の実習に関しての要望・意見の集約を行った。</p> <p>(3) 教員は実習施設指導者との連携をはかり、学生の実習の準備を通してアドバイスや指導を行い、学生が不安なく実習に臨む環境を整えた。学生各自は目標や課題等に関して事前に準備を整え、各自が課題を達成した。</p> <p>(4) 学生は現場で管理栄養士(栄養教育実習では、「栄養教諭」)の仕事や責任について学び、管理栄養士(または栄養教諭)としての職務や多職種連携などを経験したことについて多くの学びがあったこと、また具体的に今後の自分の学びについて何が必要なかが明確になったと報告していた。これらから学生は今回の実習の目的・目標を達成したと考える。</p> <p>2) 事故・個人情報に関する対策</p> <p>(1) 指導の成果として、実習中は、大きな事故は無かった。しかし、忘れ物による実習内容の変更(1施設)はあった。</p> <p>(2) 学生は個人情報についても、適切な対応を行っていた。また、実習施設への学生の個人情報については必要最小限の情報のみを提出した。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 本年度は新型コロナウイルス感染症対応のために実習時期の変更や臨地実習を学内で行うなど大幅な変更を余儀なくされた。給食経営管理(高齢者施設)と臨床栄養(病院)は学内での臨地実習となり、学生が実習の目的、目標の具体的なイメージがつかみにくい状況であった。このような制約のなかでは実習先との連携をしっかりと取り、実習先の先生方の協力をいただきながら、現場での実習に近い内容で授業を進める工夫が重要であり、実習の目的、目標をたてるために学修内容を具体的に示す必要がある。来年度は3年生、4年生ともに臨地実習を初めて学外で行うことになるため、学生がさらに積極性を身に着け、活動的な姿勢で実習に臨めるように指導が必要である。</p> <p>2) 実習中に忘れ物による実習内容の変更が1件あった。今後は実習の事前指導を徹底しチェック表を作成するなど、学生がしっかりと自己管理ができるような仕組みを作ること、また実習期間中に必要に応じメールで注意喚起や情報提供を行うことも必要である。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	看護学科カリキュラム専門部会
作成者	小島 悦子

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) カリキュラム改訂に向けた検討 (1) 看護学科の教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの一貫性を確認しながら、カリキュラムマップを作成する。 2) 現行カリキュラムの評価方法について継続的に検討する (1) 卒業生に対して質問紙調査を実施する。 (2) カリキュラム評価の方法と対象を検討する。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 2022 年度の新カリキュラム改正に向け、検討する。 (1) 看護学科の教育目標、ディプロマ・ポリシーを完成させ、その後、学年目標を作成する。 (2) 本学看護学科のカリキュラム改正の趣旨及び看護学科教員や学生に実施したアンケート結果をもとに抽出した現行カリキュラムの問題点、各領域から出された意見をもとに、科目の内容や単位数、順序性を検討する。 (3) カリキュラム・ポリシー、カリキュラムマップを作成し、全体のカリキュラム内容の一貫性、全体の単位数と時間数の妥当性、科目配置の運用可能性の確認を行う。 (4) カリキュラム改正に必要な書類として、教育課程と指定規則との対比表、科目担当講師の確認と科目概要を作成する。 2) 現行カリキュラムの評価方法について検討する。 (1) 2020 年度卒業生に対し、カリキュラム評価に関する質問紙調査を実施する。 (2) 2020 年度卒業生以外を対象としたカリキュラム評価の方法を検討する。
活 動 内 容 (Do)	1) 2022 年度カリキュラム改正に向け、以下を検討した。 (1) 大学の教育目標に合わせて作成した看護学科の教育目標、ディプロマ・ポリシーについて、カリキュラム検討委員会に提案し、複数回の修正の後、10 月 7 日の大学評価委員会へカリキュラム検討委員長が提案した。看護学科の教育目標、ディプロマ・ポリシーが決定した後、学年目標を検討し、作成した。 (2) カリキュラム改正に向け、各領域の実習時期と単位の見直し、4 年次前期科目の検討、地域・在宅看護論の新設を受け、初年次から地域で暮らす人々の理解を深める科目の検討、栄養学科との合同科目の検討、看護学科の特徴となる科目の検討を行った。 (3) カリキュラム・ポリシー(案)、カリキュラムマップ(案)を作成し、卒業時の看護技術到達度をもとに各領域で教授している看護技術、各領域で取り上げる疾患、理論等の過不足を確認・検討し、全体のカリキュラム内容の一貫性、全体の単位数と時間数の妥当性、科目配置の運用可能性の確認を行いながら進めた。 (4) カリキュラム改正に必要な教育課程と指定規則との対比表、教授会に必要な教育課程表新旧対比表を作成しながら上記(2)(3)を検討した。

	<p>2) 現行カリキュラムの評価方法について</p> <p>(1) 第5期生に対し、教育目標、学生生活、環境の視点等、カリキュラムに関する質問紙調査を実施した。</p> <p>(2) カリキュラム評価の方法として、現在、対象を4年次生としているが、1～3年次、就職後の卒業生、就職先の上司等があり、方法も量と質を組み合わせるなどがあるが、今年度は検討できなかった。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 2022年度カリキュラム改正に向けた検討について</p> <p>(1) 看護学科の教育目標、ディプロマ・ポリシーの最終決定が10月となり、その後、看護学科のカリキュラム専門部会において学年目標を検討したが、議論の時間を十分に確保できなかったことから、今後も内容について継続して検討していく必要がある。</p> <p>(2) 各領域の実習時期と単位、4年次前期科目の見直し、初年次から地域で暮らす人々の理解を深める科目の設置、栄養学科との合同科目の設置、看護学科の特徴となる科目の設置についての検討はできたが、実習施設の確保ができていない実習科目があるため、早急に実習施設を確保していく必要がある。</p> <p>(3) 上記(1)(2)の検討が終了していないため、申請書類の準備は途中である。学務課と協力しながらカリキュラム改正に必要な書類</p> <p>2) 現行カリキュラムの評価方法の検討について</p> <p>(1) 昨年同様の内容で、2月に第5期生に質問紙調査を実施した。メールでFormsでのアンケート協力を依頼し、42名から回答を得た(回収率:44.7%)。3年分の調査結果から、ディプロマ・ポリシーの英語能力の項目が低く、その他、学内行事やアメニティ充実に関する項目が低い傾向だった。自由記述では、4年次の選択科目の授業内容が既習の内容と重複しない工夫、3年次の授業時間や課題量が多い、低学年から国試問題に触れる機会を増やして欲しい、授業内に小テストがあると知識定着に繋がる、遠隔授業での質の担保の必要性に関する意見があった。回収率を増やすために、学生が来校する際に調査依頼をしていく必要がある。</p> <p>(2) 2022年度新カリキュラム改正の申請に向けた検討及び資料等の準備のため、評価方法について検討する時間がなかったことから、次年度はカリキュラム評価の対象、および評価方法について検討が必要である</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 2022年度の新カリキュラム改正に向けた最終準備を学務課と協力して行う。</p> <p>2) カリキュラムの評価について</p> <p>(1) 現行カリキュラムについて2021年度卒業生に質問紙調査を実施する。</p> <p>(2) 新カリキュラムの評価方法について検討する。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科カリキュラム専門部会
作成者	久保 ちづる

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 現行カリキュラムを評価し課題を見つけ、新カリキュラムに反映できるようにすることが引き続き必要である。 2) カリキュラム改訂に向けて、特に看護学科との合同科目については、看護学科と連携しながら、検討していくことが必要である。 3) 新カリキュラム開始が滞りなく 2021 年度からスタートできるよう、準備、計画、実施していくことが必要である。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 2021 年度からの栄養学科のカリキュラム改定へ向けて検討し、実施に向けて準備をする。 2) 新カリキュラムでは指定規則に準じ学修を進めていくこと、3 コース制を設定し学科の特徴を含んだ内容とする。 3) 2020 年度中に、国（北海道厚生局、関東信越厚生局、文部科学省）に申請できるよう書類等の準備を進める。
活 動 内 容 (Do)	1) 2021 年度からの栄養学科の新カリキュラムでは、以下の 2 点を大きな柱と考え、検討を進めた。 (1) 3 コース制の提示 食育実践コース、スポーツ栄養コース、臨床栄養コース (2) 看護学科との合同科目の設置（栄養学科の科目の開始は 2021 年度、合同になるのは看護学科のカリキュラム改定後の 2022 年からの予定） 「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」、「特別総合科目」「栄養サポートチーム論」 2) 1) 検討のため、栄養学科カリキュラム専門部会を 3 回開催、その他メール審議等を重ねながら、カリキュラム検討委員会へ提出する案の作成や、検討委員会の意見を受けた修正案の検討を行った。 3) カリキュラム改定について国（北海道厚生局、関東信越厚生局、文部科学省）に申請するため、栄養学科の教育目標（案）、ディプロマ・ポリシー（案）、カリキュラムマップ（案）を作成し、「カリキュラム検討委員会」へ提案した。
活動内容の評価 (Check)	1) 新カリキュラムの検討に当たり、栄養学科から現行カリキュラムの課題や新カリキュラムへの希望等を聴き、その意見を組み入れながら、新カリキュラムの計画、修正作業を行い、カリキュラム検討委員会へ案を提出することができた。 2) 2021 年度からの新カリキュラム開始に向けて、ディプロマ・ポリシーやカリキュラムマップを 2021 年度シラバスに反映できる段階にたどり着くことができた。 3) 2) により、北海道厚生局に事前相談を順調に行うことができた。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	1) 新カリキュラム開始が滞りなく 2021 年度からスタートした後に、不都合な点等が無いかの確認、評価し、必要に応じて、カリキュラム検討委員会へ案を提出することが必要である。 2) ディプロマ・ポリシーと科目の関連や、カリキュラムマップについても随時、不具合が無いかの確認、評価が必要である。 3) 2022 年度からは、新設科目のうち上記 6 科目が看護学科との合同科目になるため、看護学科と連携しながら、2022 年度から滞りなく両学科合同科目として開講するために、適切な時期に申請書を提出できるよう準備

	備する。
--	------

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	看護学科 学年担任 (1 年次)
作成者	木津 由美子

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 該当なし

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 大学生としての自覚を持ち学生生活を送るための支援 大学生としての自覚をもった責任ある行動がとれ、主体的に自律して学修する力を身につけることができるよう支援する。 2) 主体的に自律して学修する力を養うための支援 (1) 新しい生活環境に慣れ、大学生活におけるルールやシステムを理解し、必要な時には自ら支援を求めるなど、大学生としての自覚をもって学生生活を送ることができるように支援する。 (2) 授業や大学行事などを通して、主体的に自律して学修する力や、専門職業人を目指す者として自らを振り返り、責任ある態度を身につけることができるように支援する。 3) 学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で共有を図りながら学生に支援する。
活 動 内 容 (Do)	1) 大学生としての自覚を持ち学生生活を送るための支援 (1) 新入生学担ガイダンス・学担教員と学生の顔合わせ (2) 個別面接 ① 4～5 月および 9～10 月 2 回実施、その他必要時にタイミングを逃さず実施する。 ② 学生の個別の状況を把握するために、個別面接記録の記入・提出を求め面接記録の内容で学生の状況を把握する。その中で緊急性のある状況があれば、該当学生には速やかに面接をする。 (3) 1 年生交流会の実施 2) 主体的に自律して学修する力を養うための支援 (1) 学修支援活動 ① 個別面接を通して、各学生の学修状況の確認をする。 ② 学修習慣のついていない学生や学修困難な学生に対して学修方法の助言をする。 ③ 再試験や成績の把握、欠席状況の把握をする。 (2) 履修相談会に出席し、学生の履修について助言指導をする。 3) 学年担任教員会議の開催 (1) 情報の共有と対応策の検討を行う。年 2 回程度実施する (2) 緊急性がある場合は、臨時に会議を実施する。
活動内容の評価 (Check)	1) 大学生としての自覚を持ち学生生活を送るための支援の評価 (1) 新入生学担ガイダンスは、今年度新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、入学式を行わず 1 年生はいきなり大学へ登校することとなる。そのため、新入生ガイダンスに学担教員は全員参加し、学担の時間を設定し、各担当教員と学生間で顔合わせを行った。 発熱等で登校禁止となっている学生に対しては、個別にメールで状

	<p>況を確認し新入生が不安なく学生生活をスタートできるように支援した。</p> <p>(2) 個人面接は前期と後期の2回実施した。しかし前期の面接が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、大学が一斉休業となり、対面での面接ができずオンラインでの面接を行った。後期は、時間調整をして対面授業時の登校の機会を生かして対面での面接を実施した。また途中個別対応が必要な学生については、適時担任教員が面接を行った。面接を行い、新入生間での交流ができず、クラス内の関係性が築けていない状況が把握できた。</p> <p>退学希望や、授業の出席についてなどで個別に面接を行い、現在、2020年度末での退学者1名の状況である。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、大学は一斉休業となったため1年生が前期は登校する機会がなく1年生の学生間の交流もすることができなかった。そのため、後期ガイダンス時に1年生全体交流会を体育館で三密を回避しながら実施し交流することができた。交流会の内容は、1年生に自己紹介を全員にしてもらい、その際学友会よりサークル紹介の資料と学生全員へお菓子のプレゼントがあり配付をした。欠席した学生が4名おり、学担教員リーダーが個別に学生に連絡を行い、後日交流会の資料を配付した。</p> <p>この交流会には、後期復学する過年度生1名も参加し、後期科目で一緒になる新入生と交流することができた。</p> <p>2) 主体的に自律して学修する力を養うための支援の評価</p> <p>(1) 学修支援活動</p> <p>前期の授業では、欠席が3~4回連続している学生に個別面接を行い、大学での講義の受け方について指導を行った。また後期の面接の際に、学生に成績表を持参してもらい、学担教員と一緒に前期の成績と再試験状況を確認した。再試験の科目数が複数ある学生や苦手科目の学修方法の助言を行った。</p> <p>(2) 4月の新入生ガイダンス期間の昼休み時間に教務委員会が主催している履修相談会へ学年担任教員も全員参加し、学生の状況把握に努めた。履修相談の内容は、基礎科目の生物と化学のどちらを履修することが今後の学修に役立つのかという質問や保健師や養護教諭を目指すために必要な科目について相談があり、シラバスを一緒に確認しながら指導を行った。</p> <p>相談者数は、4/8(水)2名、4/9(木)5名、4/10(金)1名の総数8名であった。前年度数を把握していないが、今回履修相談の教室が1号館で、ガイダンスを受けている場所から離れていたため、次年度はガイダンス場所から近く、履修相談を行っていることをわかりやすく掲示する必要もあると考える。</p> <p>3) 学年担任教員会議は前期に1回実施し、後期は、メール会議と学生の状況に変化を生じた教員からリーダー教員が直接報告を受ける形で行い、情報の共有に努めた。情報共有の内容は、学科会議で報告をして看護学科教員に周知をした。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 大学生としての自覚を持ち学生生活を送るための支援</p> <p>大学生活への適応にむけては、引き続き、大学生としての自覚を持ち学生生活を送ることができるよう支援を行う。</p> <p>また、基本的な挨拶、連絡、相談、報告や成人学修者としての姿勢についても、必要な学生については個別に支援を行う。</p> <p>2) 主体的に自律して学修する力を養うための支援</p> <p>(1) 大学の2年次生として、新1年次生のサポート、大学行事等への主体的な参加を通して、人間力を高め、仲間と協同し各自が自己成長へ意識的に行動できるように支援する。また面接シートでの経年的な目標設定と自己評価を継続する。</p>

	<p>(2) 授業や大学行事などを通して、主体的に自律して学修する力や、専門職業人を目指す者として自らを振り返り、責任ある態度を身につけることができるように支援する。</p> <p>また国家試験対策として、2年次生のうちから模試の実施やDVD補講などを定期試験の学修と合わせながら進めていく。</p> <p>3) 学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で共有を図りながら学生に支援する。</p> <p>4) その他</p> <p>2年次生は、看護基礎実習Ⅱ開始前にグロウアップセレモニーが予定されているため、セレモニーの意味と学生の心構えができるような支援を行う。</p>
--	--

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	看護学科 学年担任 (2 年次)
作成者	針金佳代子

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生生活への適応にむけて、引き続き、大学生としての自覚を持ち学生生活を送ることができるように支援を行う。 また、基本的な挨拶、連絡、相談、報告や成人学修者としての姿勢についても、必要な学生については個別に支援を行う。 2) 主体的な学修態度や専門職業人としての意識を育成するために、大学の2年次生として、新1年次生のサポート、大学行事等への主体的な参加を通して、人間力を高め、仲間と協同し各自が自己成長へ意識的に行動できるように支援する。面接シートでの経年的な目標設定と自己評価を継続する。 3) 国家試験対策として、国試対策委員、学年代表と連携を取りながら、2年次生のうちから模試の実施やDVD補講などを定期試験の学修とあわせて進めていく。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学生が健康的かつ主体的な大学生生活を送り、学修を積み上げ人間としても成長を遂げていくことができるように支援する。 2) 学生が一人の人間としてまた看護学生としての自己の課題に気付き、その課題に向き合うことの意味を考え、各々のペースで自己成長を遂げていくことができる。 3) 学生が国家試験に向けて自己の目標を達成させるために計画的に取り組むことができる
活 動 内 容 (Do)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 主体的・能動的な学修行動が取れ自己の進路を選択していけるように、必要時科目担当教員や各種委員会委員、非常勤指導員などと連携し、学生個々の特徴や課題を踏まえて相談に応じる。 必要に応じて保護者と連携し、学生が抱える課題に対応する。 2) 個人情報に十分留意し、学修課題などから派生する健康問題や経済的問題などに、学生自身が向き合い可能な限り自己決定していくことができるように相談に応じる。 奨学金利用者へは、必要時学務課と連携していく。また、課題によっては、学生の了解を得て保護者と連携し課題に対応する。社会的な動向にも関心を向けつつ、社会人としての行動をとっていけるように助言する。 クラス代表を中心に、学生が主体的に運営に参加できるようサポートする。 グローアップセレモニーの準備、実施、評価に携わり、学生がこの体験を今後の成長につなげていくことができるように関わる。 3) 国家試験対策委員を中心に、模擬試験などにチャレンジすることができるように促していく。 保健師課程を希望する学生たちに対しては、早めに国家試験の学修を開始させること、他の学生に対しては、次年度の模試に向けて、定期試験の学修と合わせながら、国家試験の勉強に取り組むように呼び掛けた。
活動内容の評価 (Check)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 個人面接を前期と後期の2回実施した、新型コロナウイルス感染症の感染防止を考え、面接方法は、遠隔と対面を学生の状況に合わせて柔軟

	<p>に適用して実施した。</p> <p>途中、個別対応が必要な学生については、適時担任教員が面接を行った。面接では、今年度、登校できない期間が長期となったため、学生個々の学修や生活上の課題に対し状況を確認した。</p> <p>2) 必要時、学担ミーティングで学生の状況を共有した。今年度は、新型コロナウイルス感染症の関係で大学の2年次生として、新1年次生のサポート、大学行事等への主体的な参加ができない状況であった。さらに遠隔授業が多く、友人と関わる機会が少なくなったことで不安や孤独感などを感じる状況も見受けられた。また、アルバイトの雇用減で経済的状況に不安を持つ意見も聞かれた。大学や日本学生支援機構の支援について情報の確認を行い対応した。</p> <p>2021年度休学予定者 6名。</p> <p>グローアップセレモニー（遠隔開催）の宣誓や決意表明文などの準備をクラス代表と有志の学生が中心となり実施した。実施にあたりクラス代表、有志の学生との合同ミーティングを適時実施し助言、宣誓文のポスター作製、スライドショー作成などをサポートした。</p> <p>学生は、環境が大きく変化した状況下においても落ち着いて生活し、友人間のつながりも大切にしながら、学修に取り組むことができていた。</p> <p>3) 学年末に国試対策委員が中心となり、国家試験対策模試を計画したが、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策により、集合受験から自宅受験に変更となった。その際、国試対策委員の学生が積極的に活動できた。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 学修面においては、学生個々の学修状況に差が出始めている状況である。再試の多い学生、再履修科目がある学生が複数おり、各自の学修課題を見出し解決していくことができるよう今後も継続して支援が必要である。</p> <p>2) 専門領域実習、国試対策、就職準備とさらに心身共に負荷のかかる年次となるため、学生個々の状況を確認し、学生が自己決定し主体的に行動できるように支援を行う。</p> <p>3) 国家試験対策として、国試対策委員、クラス代表と連携を取りながら、模試の実施やDVD補講などを定期試験の学修と合わせながら、進めていく。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	看護学科 学年担任（3 年次）
作成者	末光 厚夫

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 専門領域の実習、国試対策、就職準備とさらに心身共に負荷のかかる年次なので、学生の状況をしっかり把握し、各部署（健康管理室、学生相談室、事務局、学科教員）との連携を強化し、学生が抱える問題や悩みに対応していく。状況に応じて、保護者との連絡も加えて対応を図っていく。 2) 自立性の育成は重要ではあるが、再試験対象者が多い現状を鑑みると、学修サポートは必要であると思われる。学修状況が心配される学生に対しては、個別面談等を通じて問題点を明確化し、改善方法をアドバイスする等のサポートを行っていく。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 学生の現況を把握し、学生が問題や悩みを抱えていれば、関係各所と連携して対応を図る。 2) 学生の学修状況をチェックし、その内容が心配される学生に対してサポートを行う。
活 動 内 容 (Do)	1) 新型コロナウイルス感染症による影響があったため、当初の登校禁止時には、電話による相談を行い、Teams の環境が整ってから、Teams を利用したりリモート面談と対面の面談を併用して、学生の状況把握に努め、アドバイスや指導を行った。担任が必要と判断した場合には、学生相談室の相談員や保護者と連絡を取って、問題解決にあたった。 2) 個別面談において、学修状況を確認し、必要に応じて指導を行った。特に、欠席が多い学生や再試験科目の多い学生については、日々の生活態度や学修に臨む姿勢をヒアリングし、改善方法をアドバイスした。また、新型コロナウイルス感染症の可能性のある症状で欠席した学生が回復後に登校した際に、必要に応じて欠席期間の学修のサポートを行った。
活動内容の評価 (Check)	1) 担任および事務職員や健康管理室、学生相談室のサポートにより、3年に進学したほとんどの学生は学業を継続できているが、学修意欲の低下や体調不良等の理由により、後期より3名の学生が休学となり（次年度4月より復学予定）、次年度4月より1名が休学予定となっている。また、復学して2年の科目を再履修している学生への対応も適宜行っており、そのほとんどが順調に学業を継続できている。なお、問題が生じた学生は1名だけで、体調不良を訴えて登校できなくなり、試験放棄となった（次年度の動向は未定）。最後に、休学中だった2名の学生が3月末で退学予定となっている。 2) 学年を追うごとに再試験対象者の人数も、再試験対象者の該当科目数も減ってきており、学修状況の改善が見られている（後期の再試験対象者は39名）。臨地実習については、新型コロナウイルス感染症の影響により、全てが学内実習となったため、問題が生じた際には実習担当教員と担任がタイムリーに対応することができた。実習における学生の状況は、これまでと単純な比較はできないが、体調不良による欠席で追実習になった学生は数名いたものの、評価の要件（出席回数や提出物等）を満たした学生の中に再実習となった学生はおらず、実習の学修に適応で

	<p>きていたものと思われる。復学して2年の科目を再履修している学生については、7名中5名は定期試験で合格となり、2名が再試験となっている。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 4年のゼミ指導教員(担任)が決定したあと、学生の学修面、健康面、経済面、進路状況等に課題が生じた場合には、新担任に情報提供を行うことでサポートする。</p> <p>2) 留年者、休学者へは引き続きサポートが必要なので、現担任が適宜面談を行って学生の状況を把握し、学修指導、進路相談等を行う。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 学年担任(1年次)
作成者	高橋 正子

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	該当なし

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学生が大学生生活に慣れ、円滑に学生生活をおくれるよう支援する。 2) 学生が自立して学修し、卒業及び管理栄養士国家試験資格取得へとつながるよう支援する。 3) 学生の個々の状況は個人面談等により把握し、必要な場合には保護者と連携を取りながら支援を行う。
活 動 内 容 (Do)	<ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス終了後、履修登録内容の確認と説明を行い、支援や指導を行った。学生へ支援として5月に個別面談を行い、学修への不安や大学生活へ意気込み、健康上の問題などについて把握、確認、支援を行った。その後は新型コロナウイルス感染症対策のため、個々に必要に応じて個別面談を行った。また、遠隔授業が多く学生同士の繋がりが無いと感じている学生が多かったために学担が提案し、企画は学生主導の親睦会(11月)を行った。 2) 学生の学修状況については科目担当の教員、学務課、学生相談室からの情報などによって学生に助言、指導などを行った。必要に応じて学生の学修に関して学科会議などで情報提供を行った。 3) 休学の学生、退学の学生については個別の面談、保護者との連絡、相談、支援などを行った。
活動内容の評価 (Check)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対面授業日に学生の状況を確認できるように働きかけ、面談を行うとともにメールやチャット、担当科目内での学生とのコミュニケーションを通して学生を支援、指導することが出来た。学生主導の親睦会は短時間であったが、スポーツを通して親交を深めることが出来たので今後の学生生活に期待できるものとなった。 2) 学修状況については課題未提出、発熱欠席の学生も数名いたが、教員、学務課などから早期の情報を得て、支援、指導の結果、1年次の学修を収めることが出来た。 3) 復学学生1名が体調回復せず退学、休学学生1名が最終的に進路変更のため退学となった。学生相談室にも対応いただいた学生1名は、面談した結果、体調の悪化から保護者とも相談の上、休学する事になった。結論としては各学生及び保護者とも十分相談し時間をかけ、学生の意思を取り入れることが出来た結果となったと考える。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 個別面談などにより、学生の生活状況、及び学修状況を確認し学生生活が円滑に行えるように支援する必要がある。 2) 学修支援が必要な学生については早期に対応できることが重要なため、個別面談は勿論、学務課、担当教員などが連携して学修状況を把握し、支援体制を整えることが必要である。 3) 休学中の学生は、メール等により個人の状況を把握しながら、保護者とも連携を取り、復学へ向けた支援を続けることが必要である。

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 学年担任 (2 年次)
作成者	坂本 恵

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 個別面談等によって、学生の生活状況を確認し、円滑に大学生活を送れるようにするためには、引き続き支援が必要である。 2) 個別面談等によって、学生の学修状況を確認し、自立して学修を継続できるようにするためには、引き続き指導や支援が必要である。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 学生が円滑に大学生活を送れるよう支援する。 2) 学生が自立して学修できるよう、学生の履修状況を確認し学修を継続できるように支援する。
活 動 内 容 (Do)	1) フェイスシートを作成し、それを基に個人面談を行った。面談は対面授業で学生が登校している日に計画し実施した。また、新型コロナウイルス感染症の影響で4月15日(水)から5月17日(日)までの休校期間や、遠隔授業しか行われぬ日は、学生からのメールによる問い合わせに適宜応じた。後期は時間割の関係で個別面談の時間を計画することが難しかったため、必要に応じ学生の都合に合わせて面談に応じることを複数回伝えたが学生からの要望はなかった。前期・後期を通し発熱などで対面授業を欠席した学生については、連絡を取り状況の把握等を行い学科長に報告した。なお、長期休暇の前には、ガイダンスを行い休暇中の過ごし方などに対する助言・指導を行った。 11月に行われたグローアップセレモニーに向けて宣誓代表の指導と決意表明の取りまとめを行った。 2) 前期に行われる履修登録の内容について確認し3年次進級要件に必要な単位がぎりぎりの学生については個別に助言・指導を行った。体調不良により遠隔授業の欠席が多い学生が1名いたため、面談、メール、電話等で話を聞き、助言等を行った。対面授業の欠席が多い学生については連絡を取り状況の把握等を行った。学生の状況については必要に応じ学科長に報告した。
活動内容の評価 (Check)	1) 学担が担当する授業時には学生の状況を観察するように心掛け、それ以外の時間帯については、他の教職員から情報収集を行うように努めたことにより、学生が円滑な大学生活が送れるよう適宜、支援を行うことができたと考える。 2) 履修登録状況を把握し個別に対応することで、ほとんどの学生は3年次進級要件に必要な科目を履修することができた。しかし、1名の学生は前期科目において、体調不良のため欠席超過となり、3年次進級要件に必要な科目の一部を修得することができなかった。学生一人一人の状況に合わせた対応を心掛け支援していくことが大切である。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	1) 個別面談、教員間の連携によって、学生の生活状況を確認し、円滑に大学生活を送れるよう引き続き支援が必要である。 2) 学生が自立して学修を継続できるよう、履修状況など個別の状況に応じた支援が必要である。特に、3年次からは専門科目数の増加や臨地実習が開始されるため、必要に応じて支援する。

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 学年担任 (3 年次)
作成者	岡本 智子

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 学外での臨地実習に向けて、このグループでの問題（仲間はずれ、逸脱した行動）が進まないように注意しなければならない。また、この現状をふまえ、個々の学生の様子を把握し、適時助言できるよう面談等を通して関わる必要がある。 2) 引き続き、個々の学生の問題解決を図れるよう努める。 3) 管理栄養士国家試験に向けて、更なる学修体制の確立に向けた取り組みを進めなければならない。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 編入生 2 名が加わり全員で 22 名となった学生に対し目指す管理栄養士像を描かせながら、臨地実習への意識づけ、授業に主体性をもって取り組ませる。 2) 学生の考えや思いを確認し、将来につなげるための学びや進路の課題点を把握する。 3) 国家試験に合格するために、通常の授業と関連付けて学びの効果が増えるように自ら取り組めるように進める。 4) 仲間であるという意識づくりを進める。
活 動 内 容 (Do)	1) 及び 2) 定期面談（前期 5 月・後期 10 月・1 月）は Teams を活用し学年担任との面談を遠隔にて行った。（3 名の学担でそれぞれ 6～8 名ずつ担当）。5 月の面談前に学年担任が作成した、学生個々に学ぶ環境や学ぶ方法などを記載するフェイスシートを送り、内容を確認した上で今年 1 年の目標、今後の進路などを確認し、10 月には 5 月以降の状況についてフォローアップ面談を実施した。面談時や 2 月のガイダンス時に、就職説明会やインターンシップへの参加について促した。 3) 「学びのめやす」として国家試験対策には、過去問題と解説集（クエスチョンバンク）を提示して、5 月と 10 月の面談時に計画表ならびその実施度を確認した。2 月には 4 年次の臨地実習の選択科目ならびに卒業研究の選択の勧めについて面談を行った。また、学びのリズムを作るため、2-3 月の休み期間に向けて「4 年生直前 国家試験勉強頑張ろう」のタイトルで学年担任が作成した、これまでの 1 年間の振り返りと春休み中の目標シートを学生から提出してもらった。さらにスモールステップとして 1 週間ごとに目標に対する「今週の振り返りシート」を提出してもらい、自身の勉強についての振り返りと次の目標とその実施、評価を繰り返しながら、自身の学びの状況や課題点への気づきについて、学担がフォローアップを行っている（Teams の課題シートで実施）。 4) コロナ禍であるため、積極的にイベントを行うなどの仲間づくりはできなかったが、12 月には、一人ひとりがクラスの仲間に向けた励ましのカードに思いを込めたメッセージを書き、A3 の用紙に 1 枚のボードとしてまとめ、クラス一丸となったメッセージを共有し仲間意識を高めた。
活動内容の評価 (Check)	1) 及び 2) Teams を活用した遠隔の面談は、マスクを外して直接話せる場面となり、学生の様子や思いが伺え有効であった。また、これらを進めるにあたり、担任同士が学生について情報共有ができていたこともあ

	<p>り、授業が遠隔と対面が混在している状況下で、欠席が目立ってきた学生をいち早く捉え、積極的に個人面談や保護者への協力を仰ぎ、授業の単位を落とすことを防ぐことができた。この中で実際に就職説明会に参加する学生や、インターンシップを予約する学生がでてきている。</p> <p>3) 国家試験に向けての取り組みを1年行ってきたが、学生個々の学びの目標や目標に対する実施度には開きがあった。また時間の使い方(普段の授業との関連、アルバイトとの関連)のほか、授業前、授業中、授業後の学び方などの課題も見受けられた。2-3月の休みの期間中、毎週提出されてくる「今週の振り返りシート」は自分自身と向き合うための時間と学び方を検討するにはよいタイミングであると考え。学年担任らの主観的評価ではあるが学生自身が考える春休みの目標の達成度はシートを出すごとに上昇していると考えられ、今後の模試等において、その評価が期待される。</p> <p>4) コロナ禍であり、積極的な活動ではなかったがボードには心温まる様子が見えた</p>
<p>次年度への課題・改善方策(Action)</p>	<p>1) 定期面談は有効であったと考えられる。学生に自分の課題点を早期に気づきを促すことができた。学びを効果的かつ継続的に取り組むためにも、早いタイミングで適時助言できるよう面談等を通して関わる必要がある。(夏休みをどのように過ごすかなど具体的目標を掲げて休みに入ってもらい休み明けに振り返るなど)</p> <p>2) 通常の授業の学びと国家試験の勉強を関連付ける必要があるため、時間の使い方、学修方法の支援が必要である。</p> <p>3) 遠隔授業も多く、登校しコミュニケーションを図る機会が少なかったこともあるため、仲間意識が持てるクラスづくりがさらに必要である</p> <p>4) 就職活動に遅れをとらないよう、就職説明会やインターンシップなどの情報を積極的に発信するよう努める。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 学年担任(4年次)
作成者	千葉 昌樹

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 学生生活3年が過ぎ、4年生に向けての成長と自覚が芽生えてきている。今後、学外での臨地実習に向けて、このグループでの問題(仲間はずれ、逸脱した行動)が進まないように注意しなければならない。また、この現状をふまえ、個々の学生の様子を把握し、適時助言できるよう面談等を通して関わる必要がある。 2) 引き続き、個々の学生の問題解決を図れるよう努める。 3) 管理栄養士国家試験に向けて、更なる学修体制の確立に向けた取り組みを進めなければならない。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) グループでの問題など対人関係や友人関係を把握して、今後の学業への取組みなど方向性を示唆する。 2) 学年担任間で共有を図り、問題等について対策を検討する。 3) 管理栄養士国家試験への取組みなど、目的を達成できるよう支援し、問題が見られるときは適宜、保護者と連絡をとる。
活 動 内 容 (Do)	1) 完成年度を迎えて、4年生28名をそれぞれ担任が分担して受け持ち、今後の方向性や就職説明会への参加などの個別指導を行った。また、コロナ禍であるため、メール等により安否確認等を実施した。 2) チューター制導入により、国家試験に向けた学修支援を担当とは別のチューターの教員が行うことから、担任は個人指導にあたる教員と学生の間を補佐する役割に専念した。 3) 管理栄養士国家試験への取り組みとして、次のような点を学生に確認しつつ、支援につなげた。 (1) 面談、フェイスシート更新 (2) アルバイトと勉強の両立 (3) 学修時間や日常生活の把握 (4) 健康状態やサークル、ボランティア活動の把握 (5) 卒業後の方向性、単位取得状況の把握 (6) 国家試験への取り組み状況
活動内容の評価 (Check)	1) コロナ禍での自粛生活を送る学生へ、フォローすることができた。 2) チューター制の導入により、管理栄養士国家試験に向けた学修の取組みについて、個別に特化した状態で進めることができた。また、このことについて、学科会議において推進状況の確認や報告がなされ、栄養学科教員の共有を補完することができた。 3) 管理栄養士国家試験への取り組みとして、各担任教員が個々の学生および学年全体で気になった事柄について意見交換を行い、問題の共有や学生への対応について教員間でフォローし合うなど、連携して取り組むことができた。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	1) 学生生活3年が経過し、4年生に向けての成長と自覚が芽生えてくる時期である。とくに学外での臨地実習に向けて、学生間での問題(仲間はずれ、逸脱した行動)が生じることなく、協力し合う関係性が築かれるように配慮することが必要である。

	2) 国試対策のためのチューター制度やキャリア開発の国試対策及び就活等により、心が不安定な時期でもあるので、学生の状況を把握し適時助言できるよう面談等を通して関わりを深める必要がある。
--	--

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	事務局
作成者	久保 則雄

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 評議会、教授会および運営会議について、継続して効率的な運営を図るために時間短縮を含めた効率化に努める必要がある。 2) 札幌保健医療大学事務分掌規程に基づき、継続して各課の分掌の明確化を図ることにより、3 課体制として安定した運営体制の構築に努める必要がある。 3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために行った対策について、状況の推移を注視する必要がある。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 評議会、教授会および運営会議について (1) 評議会 大学の管理運営の重要事項等について、学長が決定を行うに当たり意見を述べる機関として設置し、学校法人吉田学園副理事長、学長、学部長、図書館長、事務局長をもって構成する。原則として月 1 回開催する。 (2) 教授会 学部の学生の入学、卒業、学位の授与について、学長が決定を行うに当たり意見を述べる機関ならびに学部の教育研究に関する事項について、審議および学長の求めに応じて意見を述べる機関として設置し、学長のほか教授で構成する。原則として教授会を月 1 回開催する。 (3) 運営会議 学長のもとに大学の教育・研究および管理運営を円滑に行うことを目的に管理運営上必要な事項、教授会へ付議する案件（以下「付議案件」という。）等を協議する機関として設置し、学長、学部長、図書館長、教務部長、学生部長、学科長、事務局長、課長、学長が必要と認めた法人本部長を以って構成する。前年度の課題を踏まえ、協議時間の短縮を図りながら効率的な運営を行う。原則月 1 回開催する。 2) 事務局 3 課体制（総務課、学務課、進路支援課）の安定した運営体制を継続して構築する。 3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策について、状況を注視しつつ危機管理委員会と連携を図り進めていく。事務局として、感染拡大防止対策の効果的でより具体的な対応を示していく。
活 動 内 容 (Do)	1) 評議会、教授会および運営会議について (1) 評議会 札幌保健医療大学評議会規程に基づき 2020 年度は、11 回開催し、評議会の運営について、学校法人吉田学園監事および学校法人吉田学園監査室長の学外委員（以下「学外委員」という。）による 2020 年度学長の業務執行状況に係る調査が実施された。評議会 1 回あたりの平均審議時間については、2019 年度は 16 分、2020 年度は 19 分であった。 (2) 教授会 札幌保健医療大学教授会規程に基づき臨時教授会を含めて 2020 年度は 19 回開催し、教授会の運営について学外委員による 2020 年度学長の業務執行状況に係る調査が実施された。教授会 1 回あたりの平均

	<p>審議時間については、2019年度は1時間16分、2020年度は1時間6分であった。</p> <p>(3) 運営会議 札幌保健医療大学運営会議規程に基づき2020年度は、11回開催した。運営会議は従前から協議時間の短縮化が課題となっており、これの改善を図るため、事前に学長、学部長および事務局による協議案件内容の精査等を行った。これにより運営会議1回あたりの平均協議時間の短縮に繋がった。運営会議1回あたりの平均協議時間については、2019年度は1時間19分、2020年度は54分であり、前年度から25分短縮されている。</p> <p>2) 札幌保健医療大学事務分掌規程に基づき、3課体制として安定した運営体制の構築および業務の平準化を図るため、2020年度に欠員補充を含めて専任職員2名および嘱託職員1名の採用ならびに嘱託職員2名の専任職員化およびパート職員1名の嘱託職員化を行った。これにより職員全体に占める専任職員比率は、2019年度51.9%から2020年度65.4%となった。</p> <p>3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策については、危機管理委員会と連携を図り、学内において入構時のための非接触型熱感知カメラの設置、学内各所に手指消毒用アルコールの設置、講義室の個人別座席固定および講義機のシールド設置等の感染拡大防止対策を行い、学生の安全確保および学修環境整備を行った。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 評議会、教授会および運営会議について (1) 11回開催した評議会は、円滑に審議および報告が行われたこと、および2020年度学長の業務執行状況に係る調査において、学外委員から学校教育法の趣旨に基づき評議会が適正に運営されていることの報告を受けたことは評価できる。 (2) 19回開催した定例および臨時教授会は、円滑に審議および報告が行われたこと、および2020年度学長の業務執行状況に係る調査において、学外委員から学校教育法の趣旨に基づき教授会が適正に運営されていることの報告を受けたことは評価できる。 (3) 11回開催した運営会議により教授会が円滑に運営されたこと、および平均協議時間が前年度より25分短縮され、効率的な運営が図られたことは評価できる。</p> <p>2) 札幌保健医療大学事務分掌規程に基づき、3課体制として安定した運営体制の構築および業務の平準化を図るために、欠員補充を含めて2020年度に専任職員2名、嘱託職員1名の採用、嘱託職員2名の専任職員化およびパート職員1名の嘱託職員化を図り、対応することができたことは評価できる。</p> <p>3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策については、危機管理委員会と連携を図り、学内において入構時のための非接触型熱感知カメラの設置、学内各所に手指消毒用アルコールの設置、講義室の個人別座席固定および講義機のシールド設置等の感染拡大防止対策を行い、学生の安全確保および学修環境整備を行ったことは評価できる。また、次年度も新型コロナウイルス感染症の収束が見込めないことから、継続的な感染拡大防止対策が必要であり、そのためには危機管理委員会と連携して対応する必要がある。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 評議会、教授会および運営会議について、適正かつ円滑に行われるように継続して運営に関わる必要がある。 2) 札幌保健医療大学事務分掌規程に基づき、安定した事務局運営体制の構築に継続して努める必要がある。 3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策について、継続して危機管理委員会と連携を図り、対応していく必要がある。具体的には、今年度の感染拡大防止対策に加え、学生の安全を確保しての学内での居場所（ラウンジ、演習室等）造りが必要となる。</p>

	4) 諸課題に対して迅速に対応する学長、学部長、学科長と事務局との定例の打合せを開催することができなかった。結果として学生の事案に対する大学の対応等が遅れるなど解決する必要がある。
--	--

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	連携協定推進プロジェクト
作成者	久保 ちづる

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 学生がスポーツ栄養の分野におけるより充実した学びが得られるよう、ケータリング協力以外でトップ選手と学生が関わることができる場（食事管理講習会など）を増やしてゆくことが必要である。</p> <p>2) より多くの学生がU15 へのサポート活動に参加できるように、栄養講座の実施などについて周知方法を改善していく必要がある。</p> <p>3) 次年度以降も論文投稿・学術発表ができるよう、今後もデータを収集・蓄積しスポーツ栄養の実践に役立つ知識・技術を今後の指導に役立つ仕組みを残してゆくことが必要である。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) レバンガ TOP チームへの栄養サポートを実施する。 (1) 試合後のケータリングの実施に伴う協力 (2) 栄養講座（ランチョンオンラインセミナー）の実施 (3) 定期的な体組成の測定と栄養相談</p> <p>2) レバンガ U15 チームへの栄養サポートを実施する。 (1) 毎月の身長測定・成長分析と保護者への栄養相談 (2) 栄養講座の実施 (3) 「ほけんだより」の配付</p> <p>3) 学会での成果発表</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 新型コロナウイルス感染症対策でトップチームの選手との会場での対面が禁止されたため試合後のケータリング協力ができず、レバンガスポンサーであるスタンプーズ・カフェと連携し、学生と共にスタンプーズ厨房で調理したお弁当を試合会場まで届ける活動を行った(10~2月、14回)。また、遠隔で栄養セミナーを3回実施した(学生の参加なし)。体組成の測定は教員2名体制で練習場にて実施し、結果に基づき当日中にフィードバックを行った(月1回)。</p> <p>2) U15 へのサポートは新型コロナウイルス感染症対策で学生と共に行うことはできなかったが、身長測定や体組成測定は教員が行った。 保護者への栄養相談に関しては新型コロナウイルス感染症対策で保護者の学内立ち入り禁止となったために遠隔で行い、教員3名体制で、毎2~3名程度の保護者との面談を行った(月1回)。また、看護学的な観点からのサポートとして「ほけんだより」を作成・配布した(3回)。栄養講座については、新型コロナウイルス感染症対応で中止とし、選手・保護者への練習休止期間を含む栄養管理について「食トレしよう」のテーマでパンフレットを作成し配付した。</p> <p>3) 新型コロナウイルス感染症対策で栄養サポートに制約が多く、また学会、研究会などのほとんどが中止となり、発表の機会がなかった。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) お弁当調理協力においては、スタンプーズ・カフェの協力もあり、学生の参加の試みを行いトラブルなく実施することができ、さらに学生の積極的な参加姿勢がみられた点から、学びの充実につながる活動となったと考える。身だしなみや衛生管理も徹底することができた。</p> <p>2) 新型コロナウイルス感染症対策でU15 へのサポートに関しては、年度計画の一部しか実施できなかった。学生と選手や保護者とのふれあいはほとんどなく、学生が座学で学んだことを実践する場として活用するこ</p>

	<p>とができなかった。</p> <p>3) サポートに関わるデータとして、体組成測定を含む身体測定、成長曲線、食事調査、生活調査については継続してデータ収集を行った。選手の成長と身体活動による各種測定値の変化を比較検討し栄養サポートに活用している。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 学生がスポーツ栄養の分野におけるより充実した学びが得られるよう、新型コロナウイルス感染症が収束後お弁当調理協力以外でトップ選手と学生が関わる場（食事管理講習会など）を増やしてゆくことが必要である。</p> <p>2) より多くの学生がU15へのサポート活動に参加できるように、栄養講座の実施などについて周知方法を改善していく必要がある。</p> <p>3) 次年度以降も論文投稿・学術発表ができるよう、今後もデータを収集・蓄積しスポーツ栄養の実践に役立つ知識・技術を今後の指導に役立つ仕組みを残してゆくことが必要である。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	ホームページ部会
作成者	石村 珠美

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) ホームページの管理・運営について安全性・信頼性を確保するため、業務手順要領に則り、情報の新規掲載・適宜更新、掲載情報の内容や掲載時期に一層留意しながら業務を遂行すること。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 本学ホームページ管理・運営上の安全性・信頼性を確保する、および情報の新規掲載・適宜更新する。
活 動 内 容 (Do)	1) 入試広報委員会のもとで作成された業務手順要領、ホームページ更新等に関する手順に基づき運営した。 2) 部会員で業務上の担当を決め、各委員会の委員長と連携を図りながら計画的にホームページの精査、最新情報の更新に努めた。 3) 大学行事の多くがコロナ禍で中止となり、公開することができなかった。そのため、学生の演習や実習の様子を掲載する回数を増やし、学生が中心となった本学の紹介や学生トークライブ等、新たなコンテンツを導入して本学の PR に努めた。
活動内容の評価 (Check)	1) 計画的なホームページの管理・運営上の安全性・信頼性については部会員によるホームページの確認作業の徹底で確保できた。 2) 情報の新規掲載・適宜更新については、その都度いただいた意見等も参考にしながら実施することができた。しかし、記事の依頼や掲載の遅れ等もあり、今後、最新情報の更新に向けて更なる検討が必要である。 3) 2019年5月に全面的改変したホームページについて、回覧回数(PV)を基に考察を行った結果、入試広報に関連する項目へのアクセスが多いとの結果であった。今後も魅力あるホームページとなるよう、検討を進める。(資料1)
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	1) ホームページの管理・運営について安全性・信頼性を確保するため、業務手順要領に則り、情報の新規掲載・適宜更新、掲載情報の内容や掲載時期に一層留意しながら業務を継続・遂行すること。 2) 最新情報の更新に向けて、記事の依頼や掲載の遅れがないよう各委員会の委員長との連携を強化すること。 3) 入試広報に関連する項目を中心としたコンテンツの充実を図ること。

本学ホームページのページビュー数の動向

年度別に月別 PV を比較してみると、年々PVが増加していることが分かる。(表 1) これは本学の認知度がアップしてきたことのほか、2019 年のホームページリニューアルの効果が反映された結果と考えられ、現にリニューアルを行った 2019 年 5 月の月間 PV は前年比 180%増であった。

表 2 は 2019 年、2020 年の PV トップ 40 と平均ページ滞在時間である。どちらの年も PV トップ 40 のうち約 80%が入試広報に関するページとなっている。平均ページ滞在時間の比較では、入試広報に関するページは他のページに比べ滞在時間が長いという結果であり、志願者は時間をかけてホームページを閲覧していることが分かる。

これらのことから、今後も入試広報に関連する項目を重点項目とすることが良いのではないかと考える。

表 1 月別 PV

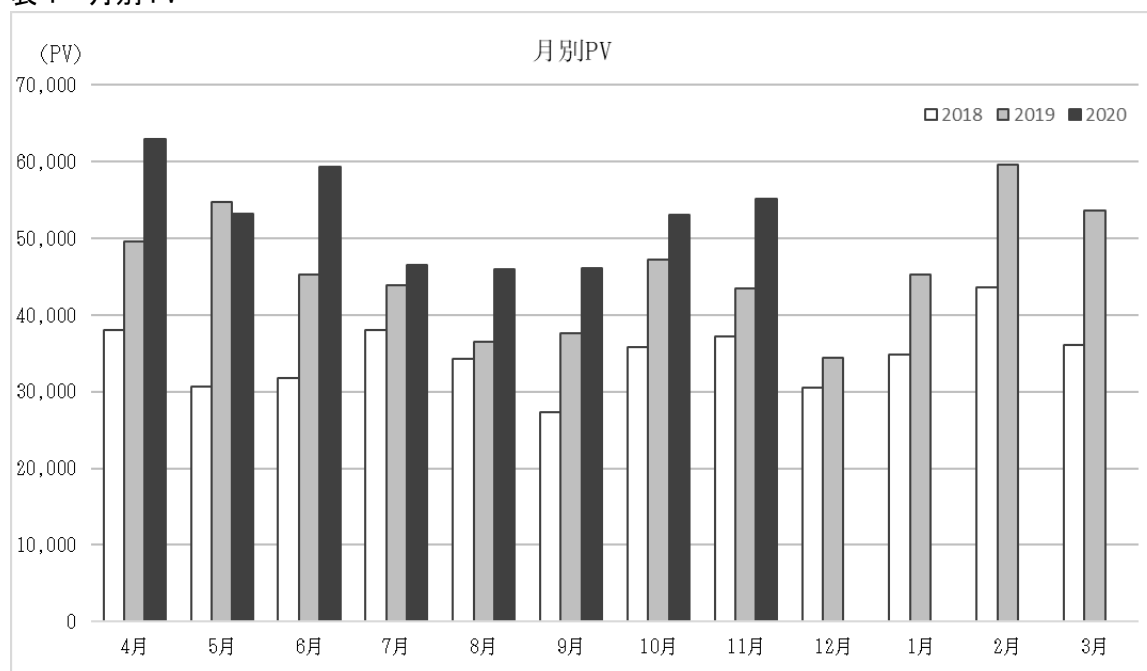


表2【PV トップ40 と平均ページ滞在時間】

2019年			2020年		
ページタイトル	PV	平均ページ滞在時間	ページタイトル	PV	平均ページ滞在時間
札幌保健医療大学	110,632	0:00:56	札幌保健医療大学	100,748	0:00:57
保健医療学部 看護学科	17,329	0:00:20	保健医療学部 看護学科	14,335	0:00:23
札幌の看護大学	15,139	0:01:19	入試情報	13,229	0:00:27
入試情報	14,642	0:00:13	【重要】新型コロナウイルス感染症への本学における対応について（随時更新）	12,669	0:01:20
学部・学科	13,699	0:00:14	学部・学科	11,505	0:00:16
募集要項	10,663	0:02:06	オープンキャンパス	10,132	0:01:58
大学案内	10,533	0:00:14	札幌保健医療大学図書館	8,769	0:02:53
交通アクセス	9,582	0:01:49	募集要項	8,216	0:01:59
札幌保健医療大学図書館	9,363	0:03:24	保健医療学部 栄養学科	8,082	0:00:29
お知らせ	9,251	0:00:17	大学案内	7,334	0:00:17
教員紹介	8,850	0:00:56	交通アクセス	7,238	0:01:46
合格発表	8,583	0:00:55	教員紹介	7,114	0:01:01
保健医療学部 栄養学科	8,446	0:00:23	お知らせ	6,410	0:00:21
オープンキャンパス	8,078	0:02:09	看護学科教員一覧	5,821	0:00:18
学生生活	7,033	0:00:13	カリキュラム・シラバス	4,737	0:01:35
看護学科教員一覧	7,028	0:00:15	受験生の方へ	4,704	0:00:25
お探しのページは見つかりませんでした。	6,853	0:00:48	進路・資格	4,698	0:00:11
受験生の方へ	6,687	0:00:23	授業料	4,305	0:01:29
進路・資格	6,583	0:00:12	学生生活	4,279	0:00:15
カリキュラム・シラバス	6,162	0:01:35	教職員採用情報	4,185	0:01:19
合格発表について	5,432	0:00:27	「吉田学園学生生活特別支援制度」を開始します	3,738	0:03:19
教職員採用情報	5,264	0:01:17	学校推薦型入試選抜試験	3,387	0:01:32
学部入試案内	5,110	0:02:06	開催内容	3,243	0:02:14
授業料	4,953	0:01:29	教育目的・特色	3,134	0:01:34
入試結果	4,704	0:01:21	就職実績	3,030	0:01:13
就職実績	3,864	0:01:22	在学生の方へ	3,021	0:00:20
教育目的・特色	3,686	0:01:13	入試結果	2,789	0:01:37
入学者受入方針	3,452	0:00:16	エントリー・出願はこちら	2,755	0:01:21
取得可能な資格	3,422	0:00:53	取得可能な資格	2,736	0:00:56
情報公開	3,382	0:00:41	授業料・奨学金	2,576	0:00:15
過去の入試問題	3,380	0:02:16	情報公開	2,574	0:00:40
学科長挨拶	3,361	0:00:23	入試日程	2,505	0:01:23
在学生の方へ	3,351	0:00:24	WEB出願	2,498	0:02:24
栄養学科教員一覧	3,091	0:00:16	栄養学科教員一覧	2,497	0:00:13
授業料・奨学金	2,948	0:00:11	過去の入試問題	2,419	0:01:43
教育・研究	2,893	0:00:12	【重要】新型コロナウイルス感染症に関連する経済支援制度について	2,392	0:00:29
保護者の方へ	2,847	0:00:19	学部入試案内	2,318	0:02:47
大学の特色	2,844	0:01:07	学科長挨拶	2,280	0:00:28
教員からのメッセージ	2,786	0:00:29	保護者の方へ	2,228	0:00:22
札幌の看護大学	2,734	0:02:55	入学者受入方針	2,215	0:00:18

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	カリキュラム検討委員会
作成者	齋藤 早香枝

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 2021 年度からの栄養学科の新カリキュラム、および 2022 年度からの看護学科の新カリキュラム制定のために以下のことを行う。</p> <p>(1) 大学の教育理念、教育目標、各学科の教育目標にそったディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、(アセスメント・ポリシー)を策定し、関連する各委員会(大学評価委員会、教務委員会等)に提示する。</p> <p>(2) 栄養学科の新カリキュラムを制定し、所轄機関への申請を行う。また、新しい合同科目「地域包括ケアシステム論(仮称)」の具体的内容を決定していく。</p> <p>(3) 2022 年開始の看護学科の新カリキュラム作成を行っていく。(2021 年度中)</p> <p>2) 現行カリキュラムの運営、点検・評価、改善に係る事項について(必要時)検討する。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 2021 年度からの栄養学科の新カリキュラム、および 2022 年度からの看護学科の新カリキュラム制定のために以下のことを行う。</p> <p>(1) 大学の教育理念、教育目標、各学科の教育目標にそったディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、(アセスメント・ポリシー)を制定し、関連する各委員会(教務委員会、大学評価委員会等)に提示する。</p> <p>(2) 栄養学科の新カリキュラムを策定し、所轄機関への申請を行う。また、新しい合同科目「地域包括ケアシステム論(仮称)」の具体的内容を決定していく。</p> <p>(3) 2022 年開始の看護学科の新カリキュラムを作成し、申請の準備を行う。</p> <p>2) 現行カリキュラムの運営、点検・評価、改善に係る事項について(必要時)検討する。</p>

<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 2021 年度からの栄養学科の新カリキュラムおよび 2022 年度からの看護学科の新カリキュラム制定のために以下のことを行った。</p> <p>(1) 各学科の教育目標にそったディプロマ・ポリシーを策定した。 ディプロマ・ポリシーの下位に評価基準を設け、より具体的な評価の視点を設けることで、学生が目指すところを理解できるようにした。 また、栄養学科のカリキュラム・ポリシーを以下のように策定した。</p> <p>①カリキュラム・ポリシーは、「教育内容」、「教育方法」、「評価方法」の3つで構成し、カリキュラムの基本方針を示した。</p> <p>②教育内容はポリシーとその説明部分で構成し、高校生への広報ではポリシーの部分を提示できるよう簡易版を作成した。</p> <p>(2) 栄養学科の新カリキュラムでは、管理栄養士養成のための指定規則にある科目に加え、以下のような特徴あるカリキュラム編成を行った。</p> <p>①地域を支える子どもや地域住民の健康増進のための栄養教育に関わる科目、アスリートや健康運動実践者などへの栄養サポートを行うためのスポーツ栄養に関わる科目、そしてチーム医療の基盤とな</p>
-------------------------	--

	<p>る臨床栄養学分野の科目を増やし、本学の特徴として打ち出した。</p> <p>②地域社会に貢献する学修の強化を図るため卒業要件に必要な必修科目として「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」を設置し、4年間を通して地域で生活する人々の健康を考え、地域包括ケアの理解および他職種との連携の基礎的能力を身につける科目とした。また、ワーキンググループを作って具体的授業内容を検討し、シラバスを作成した。</p> <p>③保健医療福祉に関連する主体的活動と学びを単位として認める「特別総合科目」を置き、専門科目の基盤作りと学生が自ら考え行動し社会活動に参加、共同する意欲と行動力を高め、人間力の育成につながるようにした。</p> <p>④栄養学科と看護学科の4年次生の合同科目として「栄養サポートチーム論」を置き、チーム医療、多職種との連携の基礎を学べるようにした。</p> <p>また、ディプロマ・ポリシーと各科目との関連を可視化するために、栄養学科のカリキュラムツリーを作成した。</p> <p>(3)2022年開始の看護学科の新カリキュラム編成を以下のように行った。</p> <p>①3年、4年次の実習前の過密な授業を改善するために、実習期間と単位の検討を行った。通年であった3年の実習は、3年次の後期から開始とし、3年前期に十分な学修期間を設けた。また、病院完結型から地域完結型へ対応できるよう、新たな実習として「地域看護実習」2単位を2年次後期に、「外来実習」1単位を3年次前期に設けた。</p> <p>②看護学科の特徴あるカリキュラム作成のため、「臨床栄養学」を設け、「栄養代謝学」から始まり、「臨床栄養学」「栄養サポートチーム論」につながる栄養に強い看護師の育成ができるようにした。また、レバンガ北海道との連携など本学の特性を活かし、「スポーツと看護」という科目を置き、スポーツを行う人々への健康管理や支援などを学ぶ機会を設けた。</p> <p>③指定規則の改正を受け、「地域看護学概論」「在宅看護学概論」を置き、地域在宅看護学領域を充実させた。</p> <p>④これまで選択科目であった「生命倫理」「家族看護論」「看護管理」を必修とし、ディプロマ・ポリシーの達成のために、内容を集約したカリキュラム編成とした。</p> <p>2)新カリキュラムの編成を委員会の活動の中心として行い、現行カリキュラムの運営、点検・評価、改善に係る事項について検討することはなかった。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1)2021年度からの栄養学科の新カリキュラムおよび2022年度からの看護学科の新カリキュラム制定</p> <p>(1)両学科のディプロマ・ポリシー、栄養学科のカリキュラム・ポリシーを作成した。両学科のレベル、表現の統一に時間がかかったが、次年度の看護学科のカリキュラム編成に続く道筋ができたと考える。</p> <p>(2)栄養学科の新カリキュラムを大学評価委員会の意見をふまえて作成し、最終案を教務委員会へ提案し、2021年度からの実施を可能にした。1年次から4年次まで学びを積み重ねる合同科目として新設した「地域連携ケア論」は、ワーキンググループにて検討したことで、両学科の意向を取り入れたシラバスを効率よく作成することができた。</p> <p>しかし、「特別総合科目」では、教育課程を教授会にかけた後に開講時期や単位の扱いなどの変更が生じてしまった。事前の文部科学省への問い合わせが遅くなった点が反省点である。</p> <p>上記科目は、初年度のみ栄養学科だけで開講されるが、2022年からは合同科目となるため、必要な準備を次年度行っていく。</p> <p>(3)看護学科の新カリキュラムでは、まず、指定規則の改正にあわせた</p>

	<p>カリキュラムを作成することができた。「地域看護実習」や「外来実習」を新たに設置し、病院完結型から地域完結型へという医療ニーズに対応できる人材の育成がはかれるようになったと考える。</p> <p>看護学科の特徴を出すために設置された「スポーツと看護」は、本学が行ってきたレバンガ北海道との連携という特徴を活かし、かつ吉田学園のリハビリや体育関係の専門学校の人材を活かす特色をもち、他大学との差別化がはかられた。加えて、「栄養代謝学」から始まり、「臨床栄養学」「栄養サポートチーム論」につながる科目は、栄養学科を併設している大学ならではのものであると考える。</p> <p>また、これまで課題であった3年次の実習期間と単位を変更し、学期制を遵守できるようにした。これにより、実習前の3年前期に十分な学修時間を確保することができる。小児看護実習など、一部の実習に関してはまだ施設開拓、調整中であるが、実習施設の確保については、おおよその目途は立っている。</p> <p>次年度7月の文科省提出に向け、ほぼスケジュール通り進んでおり、今後は、教育課程の決定と学則改正を手順に従ってすすめること、実習施設から承諾書を得て、文科省への提出書類を作成していくことが次年度に残されている。</p> <p>2) 現行カリキュラムの運営、点検・評価、改善に係る事項の検討</p> <p>今年度は、現行カリキュラムの運営、点検・評価、改善に係る事項について検討しなかったが、新カリキュラム作成前にカリキュラムの課題について検討しており、今年度新たに検討する必要性がなかったことがその理由である。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 2022年度からの看護学科の新カリキュラム制定のために以下のことを行う。</p> <p>(1)大学の教育理念、教育目標、各学科の教育目標にそった看護学科のディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラム(最終案)を関連する各委員会(教務委員会、大学評価委員会等)に諮る。</p> <p>(2)看護学科の新カリキュラムの運用に向けて、栄養学科との合同科目のシラバスの見直しと調整を行う。</p> <p>2) 現行カリキュラムの運営、点検・評価、改善に係る事項について(必要時)検討する。</p>

2020 年度 委員会等活動報告書

委員会等	公的研究費等不正防止委員会
作成者	小島 康次

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 該当なし

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 公的研究費等の不正防止を推進するため委員長が指名した教職員による内部監査を実施する。 2) 不正防止の観点から主たる納入業者から誓約書を取得する。 3) 不正防止のための研修会等を実施する。
活 動 内 容 (Do)	1) 2019 年度の公的研究費等の運用について、委員長が 2020 年 10 月に 2019 年度の公的研究費等として科学研究費 9 件を対象とした内部監査を学校法人吉田学園法人監査室 久保田康裕次長補佐へ依頼し、実施した。監査の結果としては、科学研究費 9 件ともに適正に支出および処理されている。 2) 公的研究費等で購入した物品等の納入業者 (8 件) について、誓約書の提出を求めた。 3) 第 2 回学術セミナー (9 月 24 日 16 時 30 分～17 時 30 分) において、不正防止に関する内容を含めた科研費の申請に関する研修を総務課とともに実施した。
活動内容の評価 (Check)	1) 公的研究費等として科学研究費 9 件を対象とした内部監査を実施し、適正に支出および処理されていると評価されたことは評価できる。 2) 物品等の納入業者 (8 件) から誓約書を取得したことは評価できる。 3) 公的研究費等の不正防止に関する研修を開催したことは評価できる (オンデマンド開催、視聴人数 57 名)。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	1) 公的研究費等の不正防止を推進するための内部監査 (年 1 回) を継続して実施する。 2) 不正防止の観点から、必要に応じて主たる納入業者から誓約書を取得する。 3) 不正防止啓発のため研修会等の実施を継続する。

2020年度 自己点検・評価委員会
委員長 教 授 荒川 義人
委 員 教 授 高橋 正子
教 授 所 伸一
教 授 佐藤 郁恵
講 師 小川 克子
事務局長 久保 則雄
副事務局長 照井 省吾
総務課長 小笠原 稿幸
総務課主任 大友 理佐子

2021年度 自己点検・評価委員会
委員長 教 授 荒川 義人
委 員 教 授 所 伸一
教 授 佐藤 郁恵
准教授 金高 有里
講 師 本吉 明美
事務局長 照井 省吾
総務課長 小笠原 稿幸
総務課主任 大友 理佐子